

令和2年度

「令和2年度環境教育等促進法基本方針の
実施状況調査（アンケート調査）」結果

令和3年3月

環境省大臣官房

総合政策課環境教育推進室

目次

1. 調査概要	1
1-1 調査名称	1
1-2 調査目的	1
1-3 調査方法	1
1-4 調査項目	3
2. 一般国民向けアンケートの実施結果	5
2-1 回答者の属性	5
2-2 環境や社会の問題に対する意識や行動について	10
2-3 環境教育を受けた経験について	24
2-4 協働の取組について	35
2-5 クロス集計結果について	39
3. 教職員等教育関係者向けアンケートの実施結果	55
3-1 回答者の属性	55
3-2 ESD や環境教育に対する意欲・取組について	56
3-3 環境教育に対する、学校、保護者、地域への効果や影響	62
3-4 授業や学校活動で環境教育を行う際の課題	65
3-5 ESD（持続可能な開発のための教育）の位置付け	67
3-6 属性とのクロス集計結果	68
3-7 意欲とのクロス集計結果	87

1. 調査概要

1-1 調査名称

令和2年度環境教育等促進法基本方針の実施状況調査（アンケート調査）

1-2 調査目的

環境教育等促進法基本方針（平成30年6月閣議決定、以下「基本方針」という。）においては、「各種施策の改善に向けて、国民各界各層の意見を聴きながら検討」を行うこととされており、その検討に当たっては、国民の環境保全に対する意識、環境教育の影響等に関して、現状や基本方針策定後の変化、そして新たな課題等を把握することが必要とされている。

そのため、この度、環境教育の実施後の国民の環境保全への意欲の変化、社会の変化の中で生じつつある環境教育の新たな課題等を把握するためのアンケート調査を実施することによって、基本方針の実施状況を把握するとともに、国における環境教育の現状を調査・整理し、課題の検討を行うこととしたものである。

※参考：http://www.env.go.jp/policy/post_68.html

1-3 調査方法

インターネットを用い、リサーチ会社が保有するモニターに対して、回答を依頼し、調査を実施した。また、アンケート調査票は、有識者（表1.1）の助言を反映し一般国民向けと教職員等教育関係者向けの2種類を作成した。

詳細は以下に示す。

（1）一般国民向け

1) 調査期間

令和3年3月3日（水）～令和3年3月4日（木）

2) 回答数

全国の18歳以上の男女2,075人

回収数約2,000人を地方別の国勢調査人口比で割り付けを行い、大都市圏に回答者が偏らないようにした。

（2）教職員等教育関係者向け

1) 調査期間

令和3年3月4日（木）～令和3年3月5日（金）

2) 回答数

全国の教職員等教育関係者1,000人

回答者の半数以上は学校教員とし、全体として地域バランスを取り、また、小学校・中学校・高等学校についてもバランスよく抽出した。

(五十音順、敬称略)

No.	氏名	所属	分野
1	加藤 超大	公益社団法人日本環境教育フォーラム 事務局長	環境教育
2	久保田 学	公益財団法人北海道環境財団	環境教育
3	齊藤 貴浩	国立大学法人大阪大学経営企画オフィス 評価部門長	統計調査
4	棚橋 乾	東京都多摩市立連光寺小学校 校長	環境教育

(表 1.1 有識者会議委員)

1-4 調査項目

(1) 一般国民向け 設問数：27問

一般国民向けアンケートでは、「一般国民の環境保全に対する最近の意識とその変化」、及び「環境教育の取組に対する認識」、「協働の取組」について把握することを目的とした。

<調査項目>

テーマ	具体的な質問	
1. 属性		
	①郵便番号	
	②学歴	
	③現在の学びの状況	
2. 環境や社会の問題に対する意識や行動について		
	④生活習慣 ⑤購買（消費）行動 ⑥ライフスタイル	
	⑦社会の変化に対する意識	
	⑧行動の変化の時期 ⑨変化の理由やきっかけ ⑩負担や苦勞の有無 ⑪今後の取組意思について ⑫行動するために必要なこと	
	⑬情報源 ⑭情報の信頼性の確認	
	3. 環境教育を受けた経験について	
		⑮環境教育の内容 ⑯環境教育の場所 ⑰環境教育による変化
⑱いつ受けるとよいか ⑲その理由		
⑳今後の継続の意思 ㉑継続しない理由		
㉒自分が教えたいと思うか		
㉓充実させるために何が必要か		
4. 協働の取組について		
	㉔協働の必要性	
	㉕協働の相手	
	㉖協働の経験 ㉗その理由	

(表 1.2 一般国民向けアンケート調査項目)

(2) 教職員向け 設問数：15問

教職員等教育関係者向けのアンケートでは、学校教員を対象として「ESD や環境教育に対する意欲・取り組み状況」、「環境教育に対する、学校、地域、保護者の態度の変化」、「授業や学校活動で環境教育を行う際の課題」及び「ESD（持続可能な開発のための教育）の位置付け」について把握することを目的とした。

<調査項目>

テーマ	具体的な質問
1. 属性	①現在お勤めの教育課程
2. ESD や環境教育に対する意欲・取り組みについて	②ESD を踏まえた環境教育への意欲
	③環境教育の実施内容
	④環境教育に活用しているもの
	⑤地域等の協力の有無
	⑥域等の参加機会
	⑦協働の指針等の有無
	⑧地域等との協力・連携の良かった点
	⑨地域等との協力・連携のデメリット
	3. 環境教育に対する、学校、地域、保護者の態度の変化（5年前と比べて）
⑪学校、地域、保護者の行動変化の理由	
⑫SDGs に関する学習の変化と取り組んだゴール	
4. 授業や学校活動で環境教育を行う際の課題	⑬環境教育を実施する上での課題
	⑭新しい生活様式を踏まえた際の課題
5. ESD（持続可能な開発のための教育）の位置付け	⑮新学習指導要領における ESD の位置づけの理解

(表 1.3 教職員向けアンケート調査項目)

2 一般国民向けアンケートの実施結果

2-1 回答者の属性

回答者の属性は、以下のとおり回答が得られた。

性別 (n=2075)

単一回答	n	%
全体	(2075)	
1 男性	931	44.9
2 女性	1144	55.1

(表 2.1.1 一般国民向けアンケート：回答者の属性)

子供の有無 (n=2075)

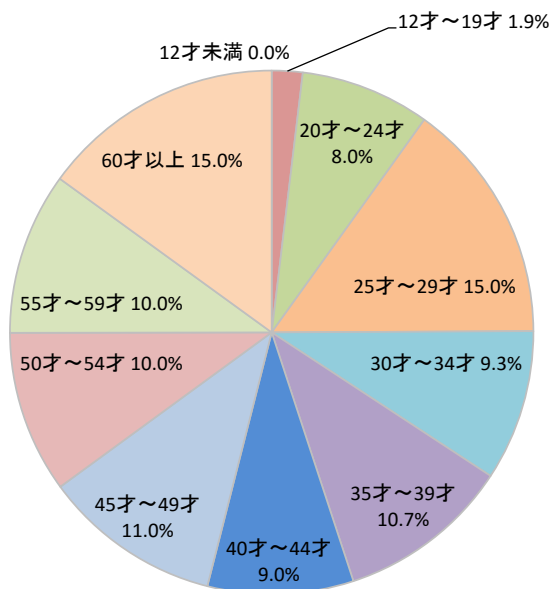
単一回答	n	%
全体	(2075)	
1 子供なし	1010	48.7
2 子供あり	1065	51.3

(表 2.1.2 一般国民向けアンケート：子供の有無)

年齢 (n=2075)

単一回答	n	%
全体	(2075)	
1 12才未満	0	0.0
2 12才～19才	39	1.9
3 20才～24才	167	8.0
4 25才～29才	312	15.0
5 30才～34才	193	9.3
6 35才～39才	222	10.7
7 40才～44才	187	9.0
8 45才～49才	228	11.0
9 50才～54才	207	10.0
10 55才～59才	208	10.0
11 60才以上	312	15.0

(表 2.1.3 一般国民向けアンケート：年齢)

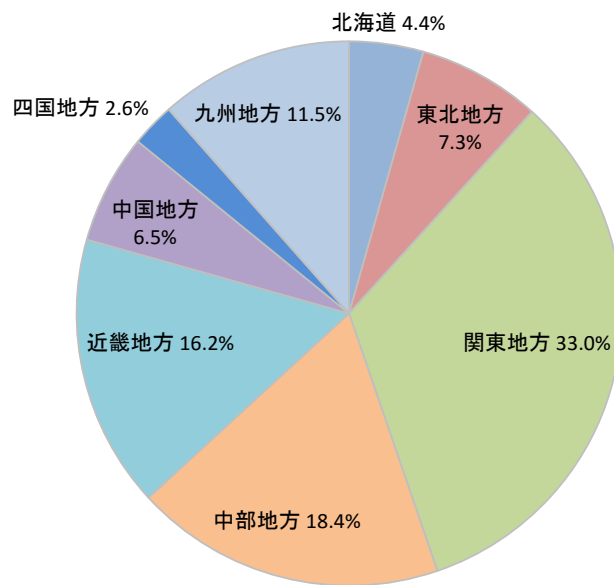


(図 2.1.1 一般国民向けアンケート：年齢)

地域 (n=2075)

単一回答	n	%
全体	(2075)	
1 北海道	91	4.4
2 東北地方	152	7.3
3 関東地方	685	33.0
4 中部地方	382	18.4
5 近畿地方	337	16.2
6 中国地方	135	6.5
7 四国地方	54	2.6
8 九州地方	239	11.5

(表 2.1.4 一般国民向けアンケート：地域)

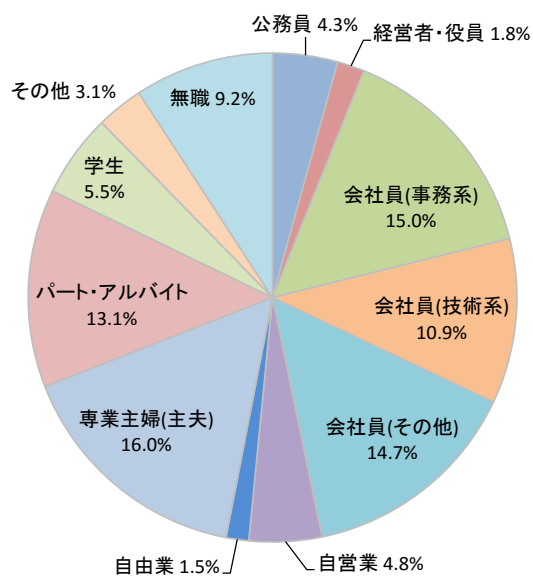


(図 2.1.2 一般国民向けアンケート：地域)

職業 (n=2075)

単一回答	n	%
全体	(2075)	
1 公務員	90	4.3
2 経営者・役員	37	1.8
3 会社員(事務系)	312	15.0
4 会社員(技術系)	226	10.9
5 会社員(その他)	304	14.7
6 自営業	100	4.8
7 自由業	32	1.5
8 専業主婦(主夫)	333	16.0
9 パート・アルバイト	271	13.1
10 学生	115	5.5
11 その他	64	3.1
12 無職	191	9.2

(表 2.1.5 一般国民向けアンケート：職業)



(図 2.1.3 一般国民向けアンケート：職業)

学生種別 (n=115)

単一回答	n	%
全体	(115)	
1 小学生	0	0.0
2 中学生	0	0.0
3 高校生・高専生	14	12.2
4 専門学校生	8	7.0
5 短大生	2	1.7
6 大学生	83	72.2
7 大学院生	8	7.0
8 その他学生	0	0.0

(表 2.1.6 一般国民向けアンケート：学生種別)

[Q2] 最終学歴をお答えください。(n=2075)

単一回答	n	%
全体	(2075)	
1 中学校	44	2.1
2 高等学校	583	28.1
3 高等専門学校（高専）・短期大学	228	11.0
4 専門学校	249	12.0
5 大学	890	42.9
6 大学院	80	3.9
7 その他	1	0.0

(表 2.1.7 一般国民向けアンケート：最終学歴)

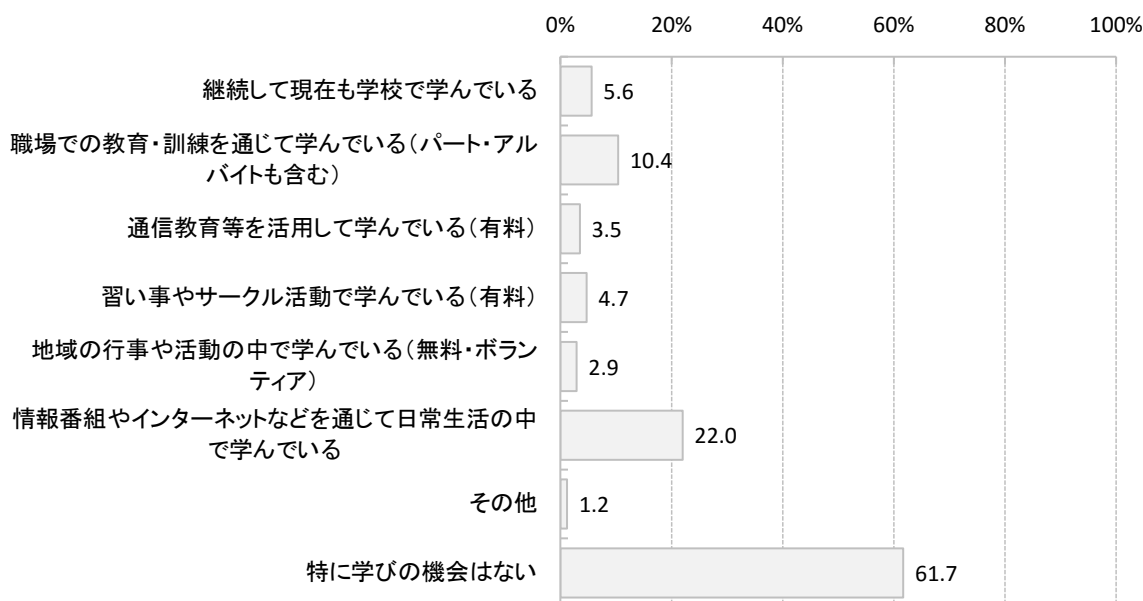
2-2 環境や社会の問題に対する意識や行動について

[Q3] 現在の学びの状況をお答えください。(複数回答可) (n=2075)

「特に学びの機会はない」が62%で最も多く、次の「情報番組やインターネットなどを通じて日常生活の中で学んでいる」の22%を加えると、約80%が具体的な学びの機会を持っていない。

複数回答	n	%
全体	(2075)	
1 継続して現在も学校で学んでいる	116	5.6
2 職場での教育・訓練を通じて学んでいる(パート・アルバイトも含む)	216	10.4
3 通信教育等を活用して学んでいる(有料)	72	3.5
4 習い事やサークル活動で学んでいる(有料)	98	4.7
5 地域の行事や活動の中で学んでいる(無料・ボランティア)	60	2.9
6 情報番組やインターネットなどを通じて日常生活の中で学んでいる	456	22.0
7 その他	24	1.2
8 特に学びの機会はない	1281	61.7

(表 2.2.1 一般国民向けアンケート：現在の学びの状況)



(図 2.2.1 一般国民向けアンケート：現在の学びの状況)

【7 その他】 記載内容 24 件

- 本を購入して日常生活の中で学んでいる (9 件)
- 個人的に学習 (4 件)
- 資格取得の勉強をしている (2 件)
- 動画配信サービスで学んでいる
- 職場外の勉強の場で学んでいる
- 現在職業訓練を受けている
- 現在卒業済みのため家庭学習
- 独学で(本とインターネット)プログラミングを学んでいる
- 卒業した
- 社会人
- 妊娠中
- 資格取得

[Q4] 生活習慣について、あなたの行動に最も近いものを選んでください。
(それぞれ一つずつ)

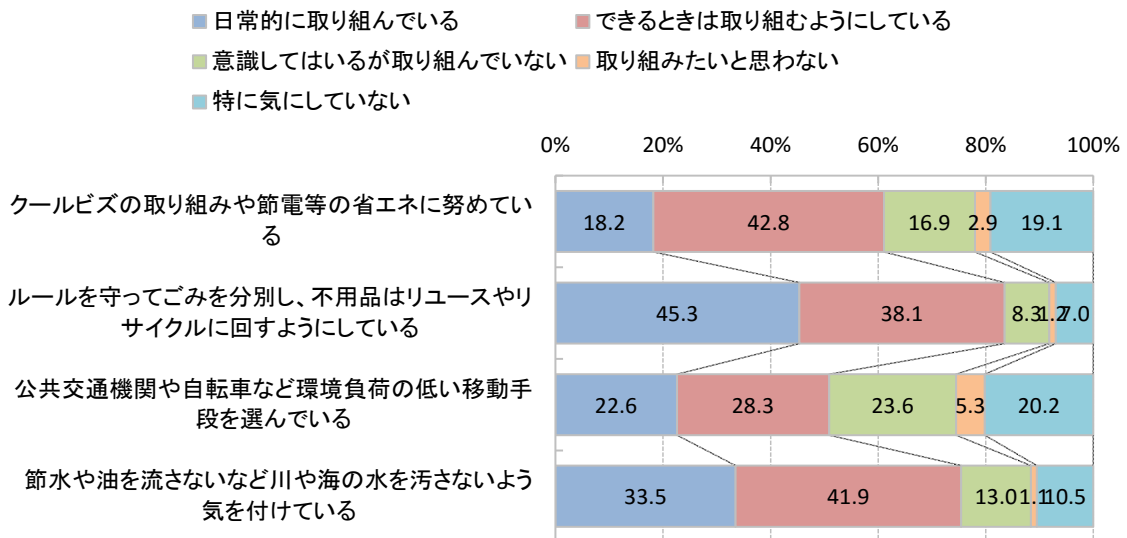
ゴミの分別やリサイクルについては、「日常的に」が45%、「できる時は」を含めると50~80%が取り組んでいる。

一方で、4つの質問項目の中で「環境負荷の低い移動手段を選んでいる」は取組率が低く、また、「取り組みたいと思わない」が5%と高い。

単一回答マトリクス

		1	2	3	4	5
全体		日常的に取り組んでいる	できるときは取り組むようにしている	意識してはいるが取り組んでいない	取り組みたいと思わない	特に気にしていない
1	クールビズの取り組みや節電等の省エネに努めている	(2075) 378 18.2	889 42.8	350 16.9	61 2.9	397 19.1
2	ルールを守ってごみを分別し、不用品はリユースやリサイクルに回すようにしている	(2075) 941 45.3	790 38.1	173 8.3	25 1.2	146 7.0
3	公共交通機関や自転車など環境負荷の低い移動手段を選んでいる	(2075) 469 22.6	587 28.3	490 23.6	109 5.3	420 20.2
4	節水や油を流さないなど川や海の水を汚さないよう気を付けている	(2075) 696 33.5	870 41.9	269 13.0	23 1.1	217 10.5

(表 2.2.2 一般国民向けアンケート：生活習慣)



(図 2.2.2 一般国民向けアンケート：生活習慣)

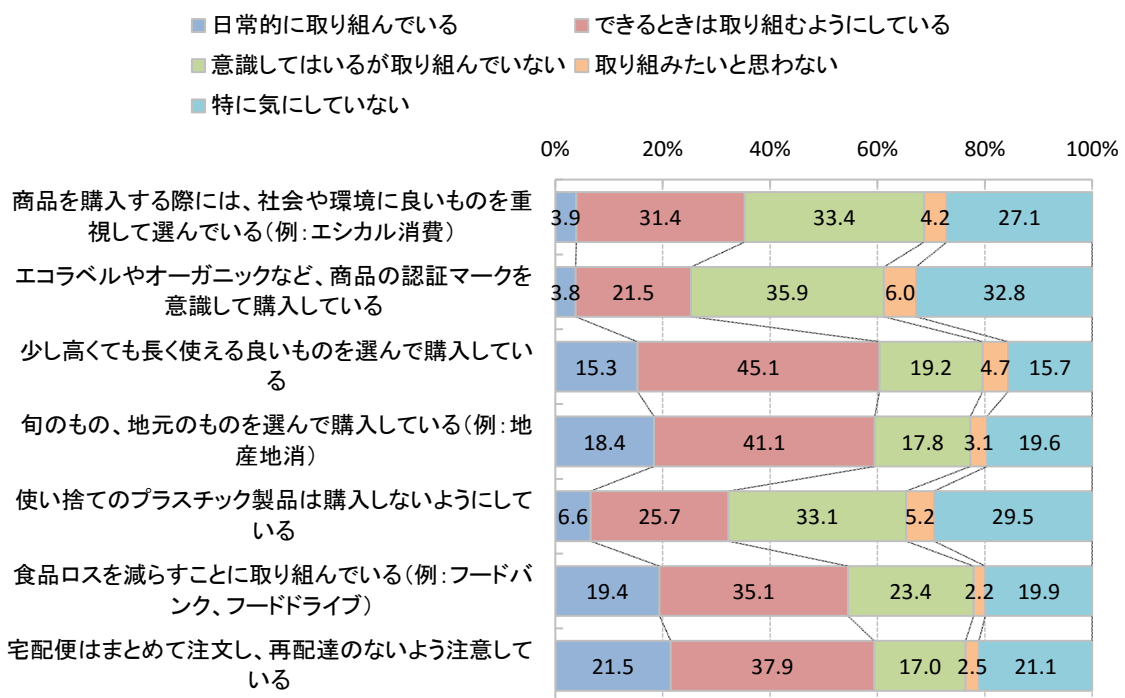
[Q5] 購買（消費）行動について、あなたの行動に最も近いものを選んでください。
（それぞれ一つずつ）

「長く使える良いもの」、「地産地消」、「食品ロス」、「宅配便の注文」については、「日常的に」が15～20%、「できる時は」を含めると50～60%が取り組んでいる。

「使い捨てプラスチック」については、レジ袋有料化が始まっていることから取組が浸透してきている想定に反し、「日常的に」が6.6%、「できる時は」を含めても32%の取組率である。

単一回答マトリクス		1 2 3 4 5				
		日常的に取り組んでいる	できるときは取り組むようにしている	意識してはいるが取り組んでいない	取り組みたいと思わない	特に気にしていない
1	商品を購入する際には、社会や環境に良いものを重視して選んでいる（例：エシカル消費）	(2075) 80 3.9	652 31.4	694 33.4	87 4.2	562 27.1
2	エコラベルやオーガニックなど、商品の認証マークを意識して購入している	(2075) 78 3.8	447 21.5	745 35.9	125 6.0	680 32.8
3	少し高くても長く使える良いものを選んで購入している	(2075) 318 15.3	936 45.1	399 19.2	97 4.7	325 15.7
4	旬のもの、地元のものを選んで購入している（例：地産地消）	(2075) 381 18.4	853 41.1	370 17.8	64 3.1	407 19.6
5	使い捨てのプラスチック製品は購入しないようにしている	(2075) 136 6.6	533 25.7	687 33.1	107 5.2	612 29.5
6	食品ロスを減らすことに取り組んでいる（例：フードバンク、フードドライブ）	(2075) 403 19.4	728 35.1	486 23.4	45 2.2	413 19.9
7	宅配便はまとめて注文し、再配達のないよう注意している	(2075) 446 21.5	787 37.9	353 17.0	52 2.5	437 21.1

(表 2.2.3 一般国民向けアンケート：購買（消費）行動)



(図 2.2.3 一般国民向けアンケート：購買（消費）行動)

[Q6] ライフスタイルについて、あなたの行動に最も近いものを選んでください。
(それぞれ一つずつ)

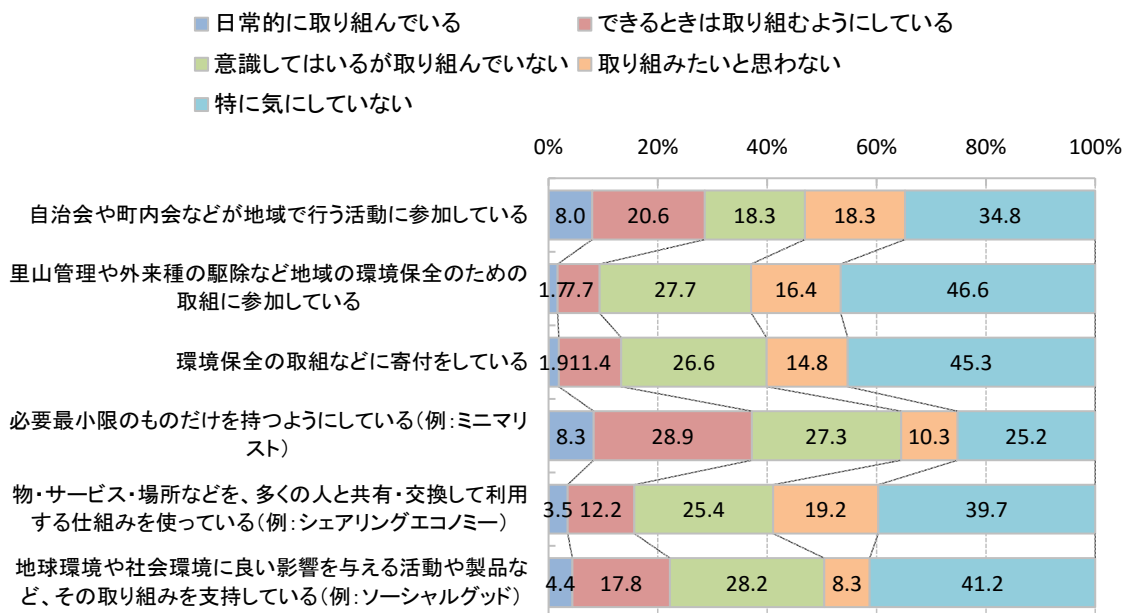
「地域で行う活動への参加」、「必要最小限のものを持つ」については、「日常的に」が8%、「できる時は」を含めると30~40%が取り組んでいる。

「環境保全の取組への寄付」については、「日常的に」が2%、「できる時は」を含めても10%と、6つの質問項目の中で低い。

6つの質問項目すべてについて、「取り組みたいと思わない」が10~20%と、Q4、Q5の取組に比べて比較的高い。

単一回答マトリクス		1	2	3	4	5
		日常的に取り組んでいる	できるときは取り組むようにしている	意識してはいるが取り組んでいない	取り組みたいと思わない	特に気にしていない
1	自治会や町内会などが地域で行う活動に参加している	(2075) 167 8.0	427 20.6	379 18.3	379 18.3	723 34.8
2	里山管理や外来種の駆除など地域の環境保全のための取組に参加している	(2075) 35 1.7	159 7.7	574 27.7	340 16.4	967 46.6
3	環境保全の取組などに寄付をしている	(2075) 40 1.9	236 11.4	551 26.6	307 14.8	941 45.3
4	必要最小限のものだけを持つようにしている(例:ミニマリスト)	(2075) 173 8.3	600 28.9	567 27.3	213 10.3	522 25.2
5	物・サービス・場所などを、多くの人と共有・交換して利用する仕組みを使っている(例:シェアリングエコノミー)	(2075) 73 3.5	254 12.2	527 25.4	398 19.2	823 39.7
6	地球環境や社会環境に良い影響を与える活動や製品など、その取り組みを支持している(例:ソーシャルグッド)	(2075) 91 4.4	370 17.8	586 28.2	173 8.3	855 41.2

(表 2.2.4 一般国民向けアンケート：ライフスタイル)



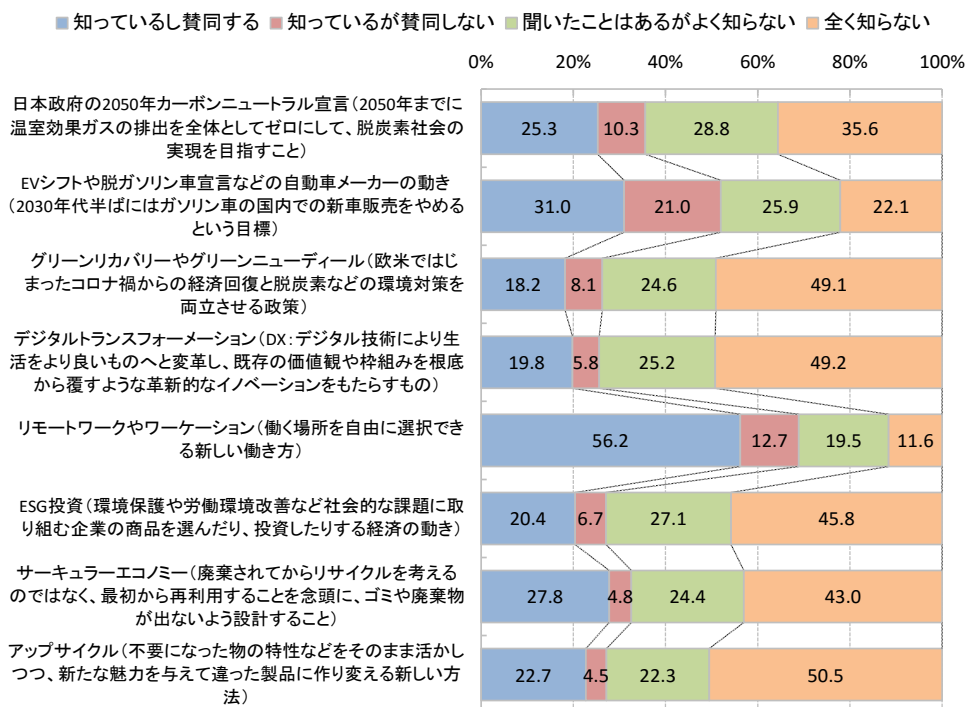
(図 2.2.4 一般国民向けアンケート：ライフスタイル)

[Q7] 社会の変化について、以下のことを知っていますか。最も近いものを選んでください。
(それぞれ一つずつ)

認知度は、「リモートワーク」が70%と最も高く、次いで「EVシフト・脱ガソリン車」が50%、
その他は25~30%であった。一方で、「知っているが賛同しない」では、「EVシフト・脱ガソリン
車」が21%と最も高い。

	全体	1	2	3	4
		知っているし賛同する	知っているが賛同しない	聞いたことはあるがよく知らない	全く知らない
1 日本政府の2050年カーボンニュートラル宣言（2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにして、脱炭素社会の実現を目指すこと）	(2075)	526 25.3	213 10.3	598 28.8	738 35.6
2 EVシフトや脱ガソリン車宣言などの自動車メーカーの動き（2030年代半ばにはガソリン車の国内での新車販売をやめるという目標）	(2075)	644 31.0	435 21.0	537 25.9	459 22.1
3 グリーンリカバリーやグリーンニューディール（欧米ではじまったコロナ禍からの経済回復と脱炭素などの環境対策を両立させる政策）	(2075)	377 18.2	169 8.1	510 24.6	1019 49.1
4 デジタルトランスフォーメーション（DX：デジタル技術により生活をより良いものへと変革し、既存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的なイノベーションをもたらすもの）	(2075)	411 19.8	121 5.8	522 25.2	1021 49.2
5 リモートワークやワーケーション（働く場所を自由に選択できる新しい働き方）	(2075)	1166 56.2	263 12.7	405 19.5	241 11.6
6 ESG投資（環境保護や労働環境改善など社会的な課題に取り組む企業の商品を選んだり、投資したりする経済の動き）	(2075)	423 20.4	138 6.7	563 27.1	951 45.8
7 サーキュラーエコノミー（廃棄されてからリサイクルを考えるのではなく、最初から再利用することを念頭に、ゴミや廃棄物が出ないよう設計すること）	(2075)	576 27.8	100 4.8	507 24.4	892 43.0
8 アップサイクル（不要になった物の特性などをそのまま活かしつつ、新たな魅力を与えて違った製品に作り変える新しい方法）	(2075)	472 22.7	93 4.5	462 22.3	1048 50.5

(表 2.2.5 一般国民向けアンケート：社会の変化)



(図 2.2.5 一般国民向けアンケート：社会の変化)

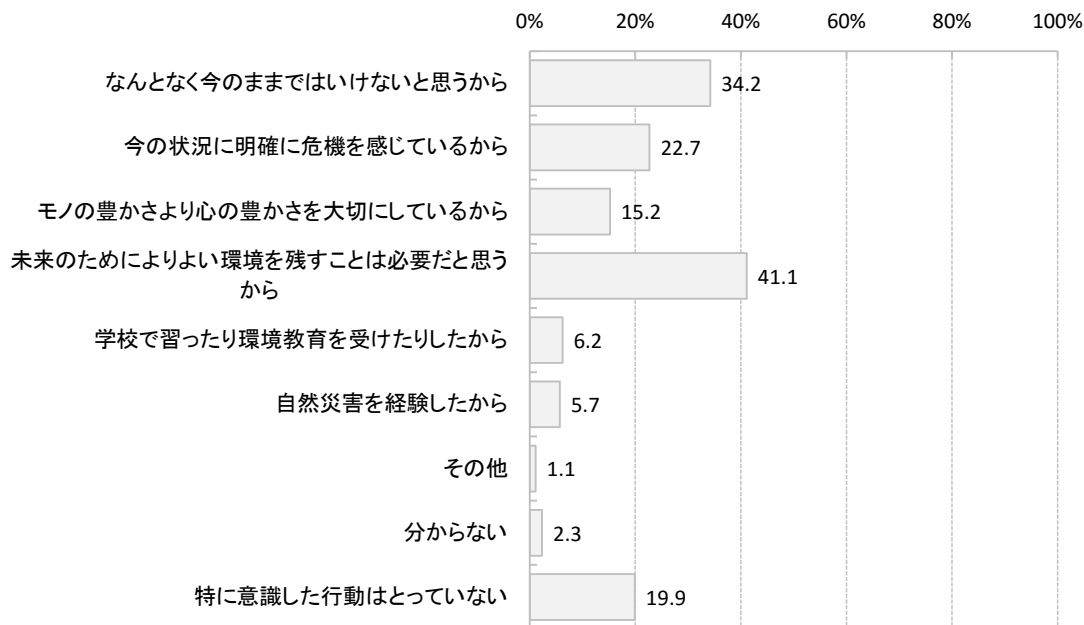
[Q8] どうして環境や社会の問題を意識した行動をとるようになったのですか。(2つまで)

※環境や社会の問題を意識した行動をとっていない人は、「9. 特に意識した行動はとっていない」をお答えください。(n=2075)

動機について、「未来のためにより良い環境を残す」が40%と最も高く、次いで「なんとなく今のままではいけない」が34%であった。「環境教育を受けたから」は6%であった。

複数回答	n	%
全体	(2075)	
1 なんとなく今のままではいけないと思うから	710	34.2
2 今の状況に明確に危機を感じているから	471	22.7
3 モノの豊かさより心の豊かさを大切にしているから	315	15.2
4 未来のためによりよい環境を残すことは必要だと思うから	853	41.1
5 学校で習ったり環境教育を受けたりしたから	129	6.2
6 自然災害を経験したから	119	5.7
7 その他	22	1.1
8 分からない	47	2.3
9 特に意識した行動はとっていない	413	19.9

(表 2.2.6 一般国民向けアンケート：行動のきっかけ)



(図 2.2.6 一般国民向けアンケート：行動のきっかけ)

【7 その他】 記載内容 22 件

節約になる (5 件)

以前から意識していた (2 件)

環境に良い＝体に良く安全で優しい為

人間はみんな環境よりも自分のことしか考えないから 子供がいるから

世界人口が増えて食糧危機が原因で世界大戦防止 なんとなく

知人から環境問題について聞いたから みんなやっているから

言っていることにいみがない 温暖化に危機を感じた

子供の頃から親がしていたので テレビを見て

神からの贈り物である地球を大切にしたいと思っているから

水族館や魚が好きなので海の環境について気にしているから

家の横の河川の人間が出した汚れて影響を受けた野鳥やプラゴミが投げ捨てられた土手の新緑が悲しかったので

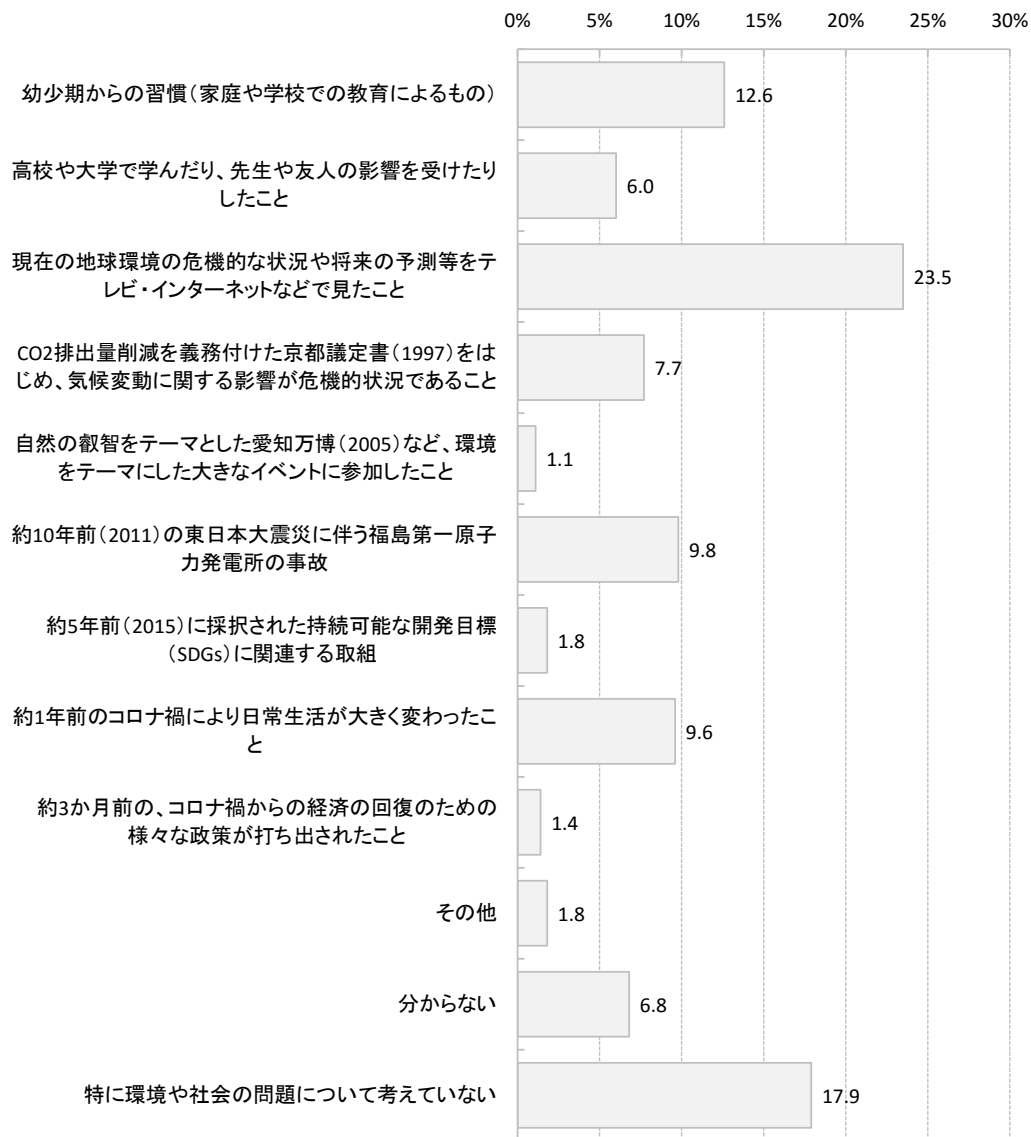
[Q9] 環境や社会の問題を考えるようになった理由として、最も影響を受けた出来事は何ですか。(1つのみ) ※環境や社会の問題について考えていない人は、「12. 特に環境や社会の問題について考えていない」をお答えください。(n=2075)

「テレビやニュースで見た」が24%と最も高く、次いで「幼少期からの習慣」が13%であった。「東日本大震災」、「約1年前のコロナ禍」はそれぞれ10%であった。

その他の記載も38件あり、自身の経験として「子どもが生まれたこと」や「自然環境の変化」が挙げられていた。

単一回答	n	%
全体	(2075)	
1 幼少期からの習慣（家庭や学校での教育によるもの）	262	12.6
2 高校や大学で学んだり、先生や友人の影響を受けたこと	125	6.0
3 現在の地球環境の危機的な状況や将来の予測等をテレビ・インターネットなどで見たこと	487	23.5
4 CO2排出量削減を義務付けた京都議定書（1997）をはじめ、気候変動に関する影響が危機的状況であること	159	7.7
5 自然の叡智をテーマとした愛知万博（2005）など、環境をテーマにした大きなイベントに参加したこと	22	1.1
6 約10年前（2011）の東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故	203	9.8
7 約5年前（2015）に採択された持続可能な開発目標（SDGs）に関連する取組	37	1.8
8 約1年前のコロナ禍により日常生活が大きく変わったこと	200	9.6
9 約3か月前の、コロナ禍からの経済の回復のための様々な政策が打ち出されたこと	29	1.4
10 その他	38	1.8
11 分からない	141	6.8
12 特に環境や社会の問題について考えていない	372	17.9

（表 2.2.7 一般国民向けアンケート：影響を受けた出来事）



(図 2.2.7 一般国民向けアンケート：影響を受けた出来事)

【10 その他】記載内容 38 件

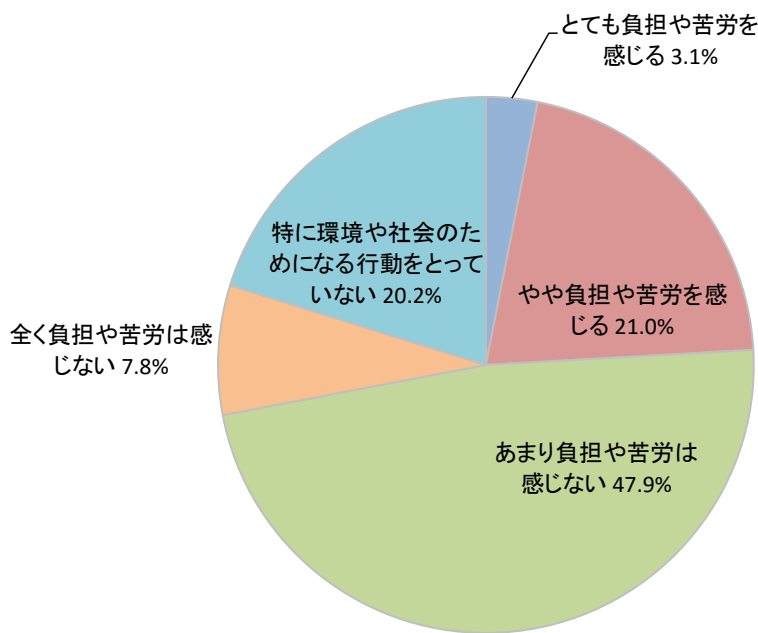
- 自然環境の変化 (5 件)
- 子供が生まれた (5 件)
- 地球規模の人口増加
- ウソだとわかった
- 学費をねん出するため
- カンボジアに行った時の経験
- プラスチックが海に流れている
- 亡き祖父母の教え
- 好きなブランドが環境問題を考えていたから (2 件)
- 約 18 年前、船上挙式を行った旅で、海洋投棄の現場を見たため。
- 生物の絶滅危惧種が増えていることを学校で習ったこと
- 海中の底に溜まったプラビニールや細分化されたマイクロプラスチックの浮遊
- まずは自分の周りでエコなことや節約に取り組んでいるだけ。
- 日常の生活の中で環境の激変に気づいており近い将来地球全体に大きな変動が起こる予感があるから
- コロナで人間が外出しなくなるようになり、中国などで空気が綺麗になったこと
- 仕事で意識的に取り組むことが増えたから (4 件)
- 日常接するニュースなどから
- 動物目線で考えるようになってから
- 不都合な真実を読んで、さらに意識したいと思った
- 本当の地球温暖化は何なのかと疑問に感じてから
- 環境をテーマにした映画を幼少期に観たこと
- 自動車でのガソリンを使用しない方法が出されたこと
- 最近の東日本大震災に菅首相がこれから行くこと遅い

[Q10] 現在行っている環境や社会の問題を意識した行動について、負担や苦勞を感じたりしませんか。※環境や社会の問題を意識した行動をとっていない人は、「5. 特に環境や社会のためになる行動をとっていない」をお答えください。(n=2075)

「とても負担を感じる」、「やや負担を感じる」は24%であった。環境や社会の問題を意識した行動に、半数以上は負担を感じていない。

単一回答	n	%
全体	(2075)	
1 とても負担や苦勞を感じる	65	3.1
2 やや負担や苦勞を感じる	436	21.0
3 あまり負担や苦勞は感じない	994	47.9
4 全く負担や苦勞は感じない	161	7.8
5 特に環境や社会のためになる行動をとっていない	419	20.2

(表 2.2.8 一般国民向けアンケート：負担や苦勞)



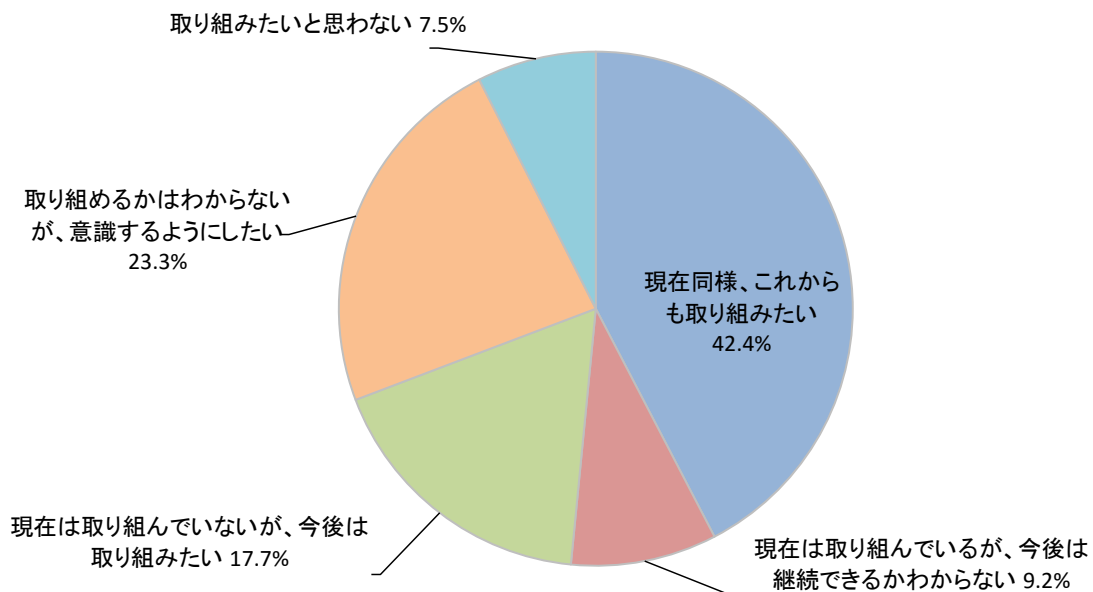
(図 2.2.8 一般国民向けアンケート：負担や苦勞)

[Q11] 将来の社会を持続可能なものとするために、これからも環境や社会の問題を意識した行動に取り組んでいきたいと思いませんか。(n=2075)

今後の取組意思として、「今後も継続」は42%、「取り組みたいと思わない」は8%であった。取り組むことに対し前向きな意思はありと考えられる「継続できるかわからない」、「今後は取り組みたい」、「意識するようにしたい」は合わせて約50%であった。

単一回答	n	%
全体	(2075)	
1 現在同様、これからも取り組みたい	879	42.4
2 現在は取り組んでいるが、今後は継続できるかわからない	191	9.2
3 現在は取り組んでいないが、今後は取り組みたい	367	17.7
4 取り組めるかはわからないが、意識するようにしたい	483	23.3
5 取り組みたいと思わない	155	7.5

(表 2.2.9 一般国民向けアンケート：今後の意識)



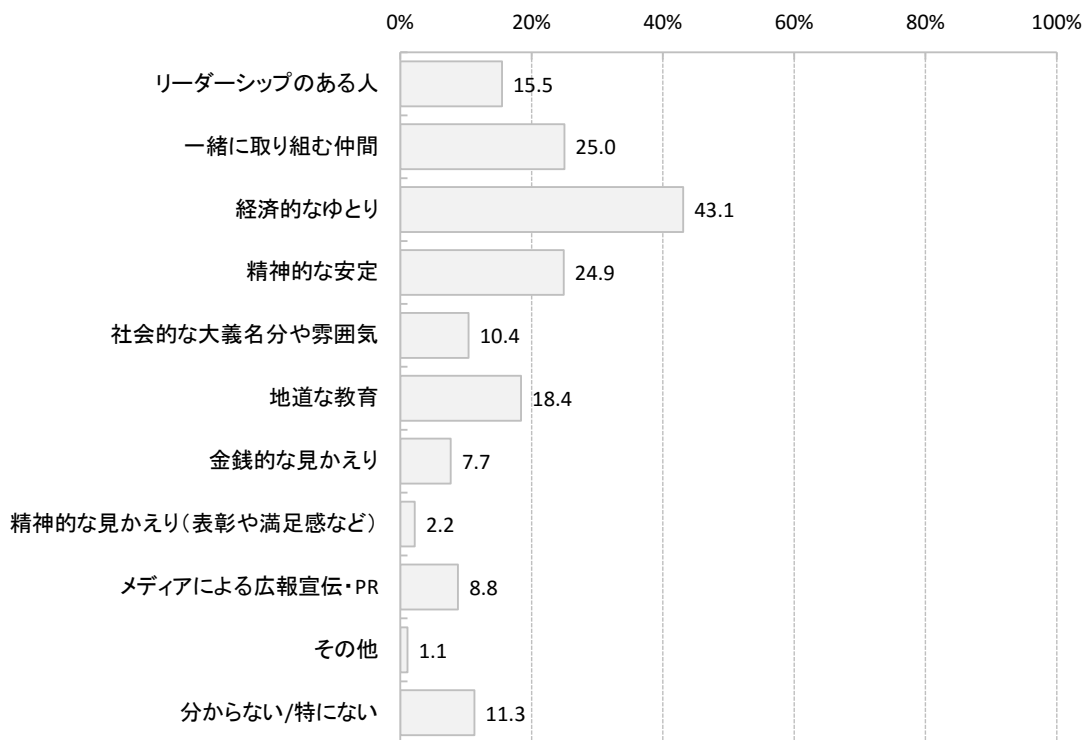
(図 2.2.9 一般国民向けアンケート：今後の意識)

[Q12] あなたにとって実際に環境や社会の問題を意識した行動へとつなげるためには何が必要だと思いますか。(2つまで) (n=2075)

「経済的なゆとり」が43%と最も高く、次いで「一緒に取り組む仲間」、「精神的な安定」が25%であった。「地道な教育」は18%であった。

複数回答	n	%
全体	(2075)	
1 リーダーシップのある人	322	15.5
2 一緒に取り組む仲間	519	25.0
3 経済的なゆとり	895	43.1
4 精神的な安定	516	24.9
5 社会的な大義名分や雰囲気	215	10.4
6 地道な教育	381	18.4
7 金銭的な見かえり	159	7.7
8 精神的な見かえり(表彰や満足感など)	46	2.2
9 メディアによる広報宣伝・PR	183	8.8
10 その他	22	1.1
11 分からない/特になし	234	11.3

(表 2.2.10 一般国民向けアンケート：行動につなげるために必要なもの)



(図 2.2.10 一般国民向けアンケート：行動につなげるために必要なもの)

【10 その他】記載内容 22 件

子供の時から環境教育 (2 件)
 社会的なシステム (2 件)
 税財政を含む制度的な誘導
 非協力者への厳罰化
 実践者のリーダーシップ

科学的な裏付け
 哲学
 強制力
 企業努力
 危機感

事実の認識力、危機を身近に感じとる認識力
イデオロギーに偏らない、ニュートラルな運動
世界、国が利権を求めず行動すること

都市の分散
目で見える数値、実績
消費者が現実を知ること

リサイクルすることでポイントがもらえるシステム

エシカル製品がどこでも買えるようになること

メディアによる大袈裟嘘をのぞいたありのまま真実の報道

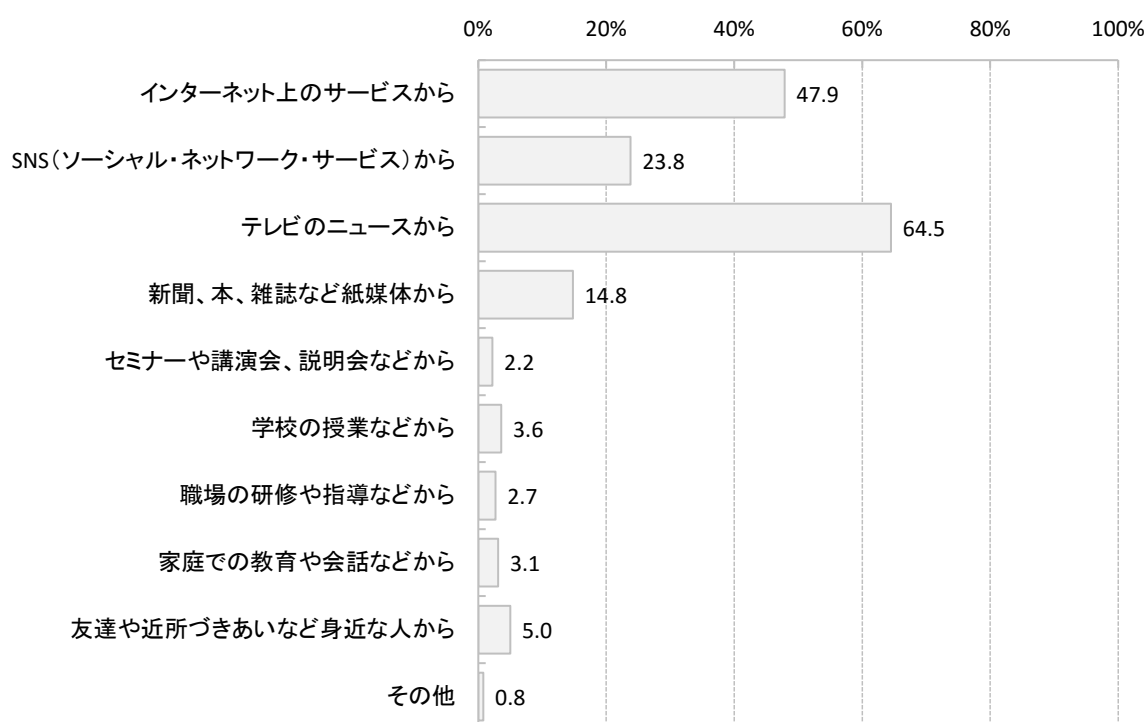
ひとりひとりの行動様式の変化。プラスチックビニールを買い取る仕組み作り、廃タイヤからエネルギーを作る仕組み、EVステーションの設置

[Q13] 環境や社会の変化についてどこから情報を得ていますか。(2つまで) (n=2075)

「テレビのニュース」が65%と最も高く、次いで「インターネット」が48%、「SNS」が24%であった。

複数回答	n	%
全体	(2075)	
1 インターネット上のサービスから	994	47.9
2 SNS (ソーシャル・ネットワーク・サービス) から	494	23.8
3 テレビのニュースから	1338	64.5
4 新聞、本、雑誌など紙媒体から	308	14.8
5 セミナーや講演会、説明会などから	46	2.2
6 学校の授業などから	74	3.6
7 職場の研修や指導などから	57	2.7
8 家庭での教育や会話などから	65	3.1
9 友達や近所づきあいなど身近な人から	104	5.0
10 その他	17	0.8

(表 2.2.11 一般国民向けアンケート：情報の取得方法)



(図 2.2.11 一般国民向けアンケート：情報の取得方法)

【10 その他】 記載内容 17 件

- 特にない (10 件)
- テレビ (2 件)
- わからない (2 件)
- 子供の学校で
- ラジオの情報
- 本能的な感覚

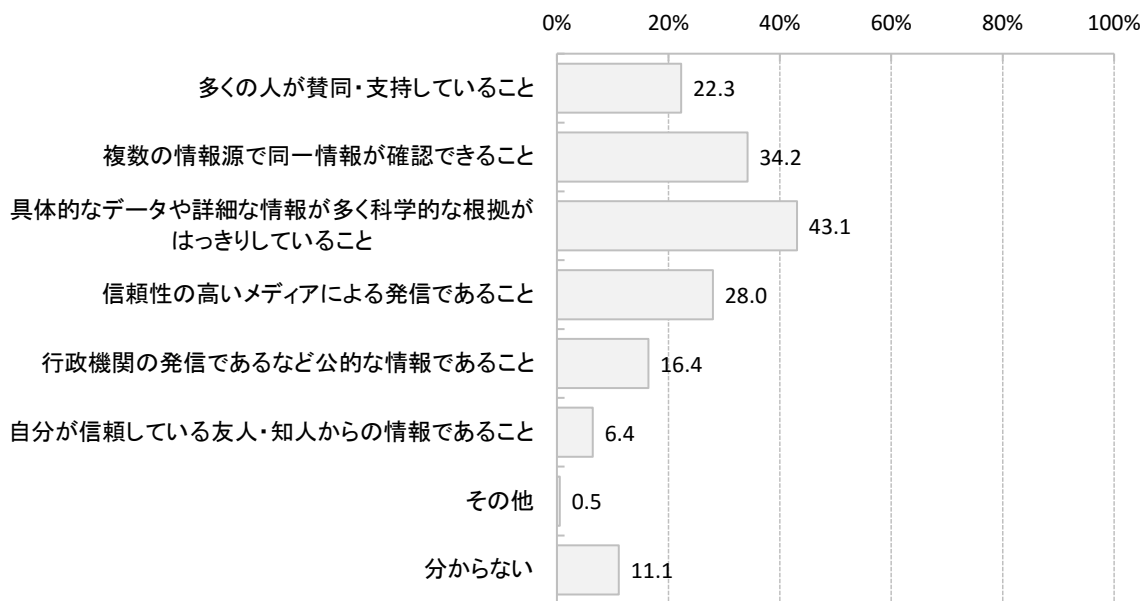
[Q14] あなたは得られた情報が信頼できるかどうか、どのように判断していますか。

(2つまで) (n=2075)

「科学的な根拠」が43%と最も高く、次いで「複数の情報源で確認」が34%、「信頼性の高いメディア」が28%であった。

複数回答	n	%
全体	(2075)	
1 多くの人が賛同・支持していること	462	22.3
2 複数の情報源で同一情報が確認できること	710	34.2
3 具体的なデータや詳細な情報が多く科学的な根拠がはっきりしていること	895	43.1
4 信頼性の高いメディアによる発信であること	580	28.0
5 行政機関の発信であるなど公的な情報であること	340	16.4
6 自分が信頼している友人・知人からの情報であること	132	6.4
7 その他	10	0.5
8 分からない	231	11.1

(表 2.2.12 一般国民向けアンケート：情報の信頼性の判断)



(図 2.2.12 一般国民向けアンケート：情報の信頼性の判断)

【7 その他】 記載内容 10 件

- 自己の判断 (3 件)
- 自分で理解出来る理屈で有ること
- 信頼できる情報と嘘の情報を見分けるちからをつける
- 自分の信頼する発信元であること
- 自分が実際に経験や見たものから
- その情報を元に実際に実行・目視確認をすること
- 自分の感覚や経験を大事にしている
- 自分で考え、納得できる情報

2-3 環境教育を受けた経験について

[Q15] これまでに、どのようなことを学んだり、行ったりしましたか。学校の授業だけではなく、すべての機会が対象となります。(複数回答可) (n=2075)

ほとんどの項目が20%以上であった。その中でも「ごみや資源に関すること」が64%、「地球環境に関すること」が55%と半数以上が選択しており高い。

一方で20%を下回っているのは「動植物の飼育・栽培や農畜産物の生産」、「地域の産業や文化の継承・発展」、「世界とのつながり」であった。

複数回答	n	%
全体	(2075)	
1 森林破壊や海洋汚染など地球環境に関すること	1132	54.6
2 身近な地域の自然環境に関すること	669	32.2
3 生命の尊さや自然の大切さに関すること	794	38.3
4 絶滅のおそれのある野生生物に関すること	816	39.3
5 地域の特産品に関すること	506	24.4
6 動植物や自然に触れ親しむこと	503	24.2
7 動植物の飼育・栽培や農畜産物の生産に関すること	368	17.7
8 食料や水、鉱物などの有限な資源の持続可能性に関すること	694	33.4
9 ゴミの分別・紙のリサイクルなど、ごみや資源循環に関すること	1325	63.9
10 レジ袋や不必要なものをもらわない等のゴミの発生を抑制すること	1007	48.5
11 生ごみや落ち葉などから堆肥をつくること	669	32.2
12 地球温暖化やヒートアイランドなどエネルギー問題に関すること	940	45.3
13 大気汚染や酸性雨に関すること	890	42.9
14 太陽光、風力等、新しいエネルギーの開発・利用に関すること	931	44.9
15 節水や節電に関すること	954	46.0
16 外国人や先住民族をはじめ国や地域による文化・生活の違いなど多様性を尊重した社会に関すること	502	24.2
17 環境が心身の健康に与える影響に関すること	527	25.4
18 環境に配慮した生活の仕方に関すること	502	24.2
19 地域の産業や文化の継承・発展に関すること	359	17.3
20 日常の身近な暮らしが世界とつながっていること	371	17.9
21 海外の環境問題に関すること	415	20.0
22 環境、経済、社会のつながりに関すること	527	25.4

(表 2.3.1 一般国民向けアンケート：これまでの学びや行動)



(図 2.3.1 一般国民向けアンケート：これまでの学びや行動)

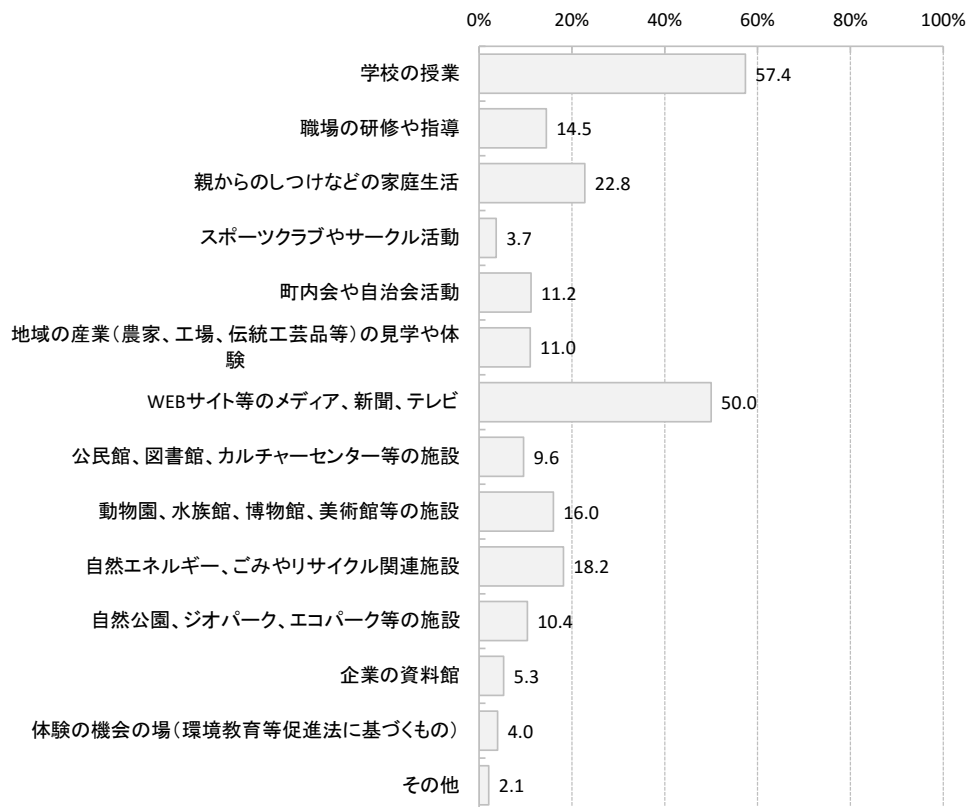
[Q16] あなたが環境や社会に関することを学んだ場として、どのようなところがありましたか？（複数回答可）（n=2075）

「学校の授業」が57%、次いで「メディア・新聞・テレビ」が50%と半数以上が選択しており高い。また、それ以外では「家庭生活」が23%と他の選択肢に比較して高かった。

環境教育等促進法に基づく「体験の機会の場」については4%（83名）が選択していた。

複数回答	n	%
全体	(2075)	
1 学校の授業	1192	57.4
2 職場の研修や指導	300	14.5
3 親からのしつけなどの家庭生活	473	22.8
4 スポーツクラブやサークル活動	76	3.7
5 町内会や自治会活動	232	11.2
6 地域の産業（農家、工場、伝統工芸品等）の見学や体験	228	11.0
7 WEBサイト等のメディア、新聞、テレビ	1038	50.0
8 公民館、図書館、カルチャーセンター等の施設	199	9.6
9 動物園、水族館、博物館、美術館等の施設	331	16.0
10 自然エネルギー、ごみやリサイクル関連施設	377	18.2
11 自然公園、ジオパーク、エコパーク等の施設	216	10.4
12 企業の資料館	109	5.3
13 体験の機会の場（環境教育等促進法に基づくもの）	83	4.0
14 その他	43	2.1

（表 2.3.2 一般国民向けアンケート：学びの場）



（図 2.3.2 一般国民向けアンケート：学びの場）

【14 その他】記載内容 43 件

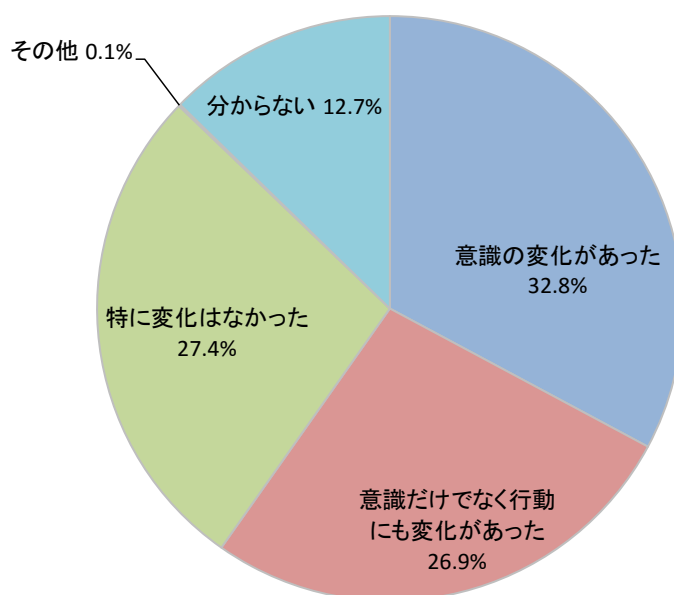
- | | | |
|------------------|--------------|--------------|
| 特になし（10件） | 書籍（5件） | テレビ（5件） |
| 覚えていない・わからない（5件） | WEB・SNS等（3件） | セミナー・講演会（3件） |
| 習い事（2件） | 娘の学習を通じて | 海外に行ってみて |
| 自らの仕事上の調査 | ガールスカウト | NGO活動 |
| 本物の情報だと思った情報 | 友人からの教え | 災害復旧活動 |
| 学んでない | 考えてない | |

[Q17] これまでの学びによって環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思いますか。 (n=2075)

「意識の変化があった」及び「意識・行動に変化があった」が60%であり、半数以上が学びにより何らかの変化があった。

単一回答	n	%
全体	(2075)	
1 意識の変化があった	681	32.8
2 意識だけでなく行動にも変化があった	558	26.9
3 特に変化はなかった	569	27.4
4 その他	3	0.1
5 分からない	264	12.7

(表 2.3.3 一般国民向けアンケート：学びによる行動変化・意識変化)



(図 2.3.3 一般国民向けアンケート：学びによる行動変化・意識変化)

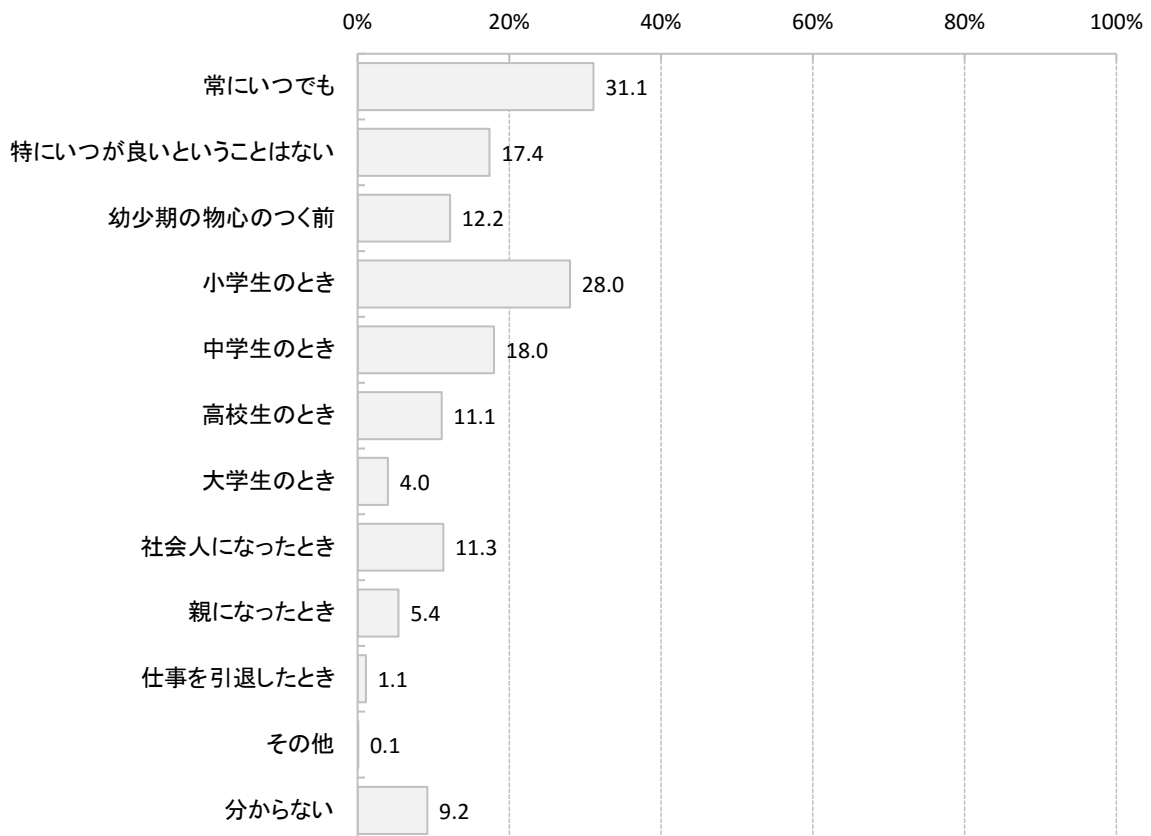
【4 その他】記載内容 3 件
 エコバッグの持参
 国が手本を見せろ、国民に丸投げするな
 騙されていた

[Q18] あなたの経験を踏まえて、いつ環境に関する学びの機会があればよいと思いますか。
 (3つまで) (n=2075)

「常にいつでも」が31%と最も高く、次いで「小学生のとき」が28%であった。

複数回答	n	%
全体	(2075)	
1 常にいつでも	646	31.1
2 特にいつが良いということはない	362	17.4
3 幼少期の物心のつく前	253	12.2
4 小学生のとき	580	28.0
5 中学生のとき	374	18.0
6 高校生のとき	231	11.1
7 大学生のとき	84	4.0
8 社会人になったとき	234	11.3
9 親になったとき	113	5.4
10 仕事を引退したとき	22	1.1
11 その他	3	0.1
12 分からない	190	9.2

(表 2.3.4 一般国民向けアンケート：学びの時期)



(図 2.3.4 一般国民向けアンケート：学びの時期)

【11 その他】記載内容 3 件

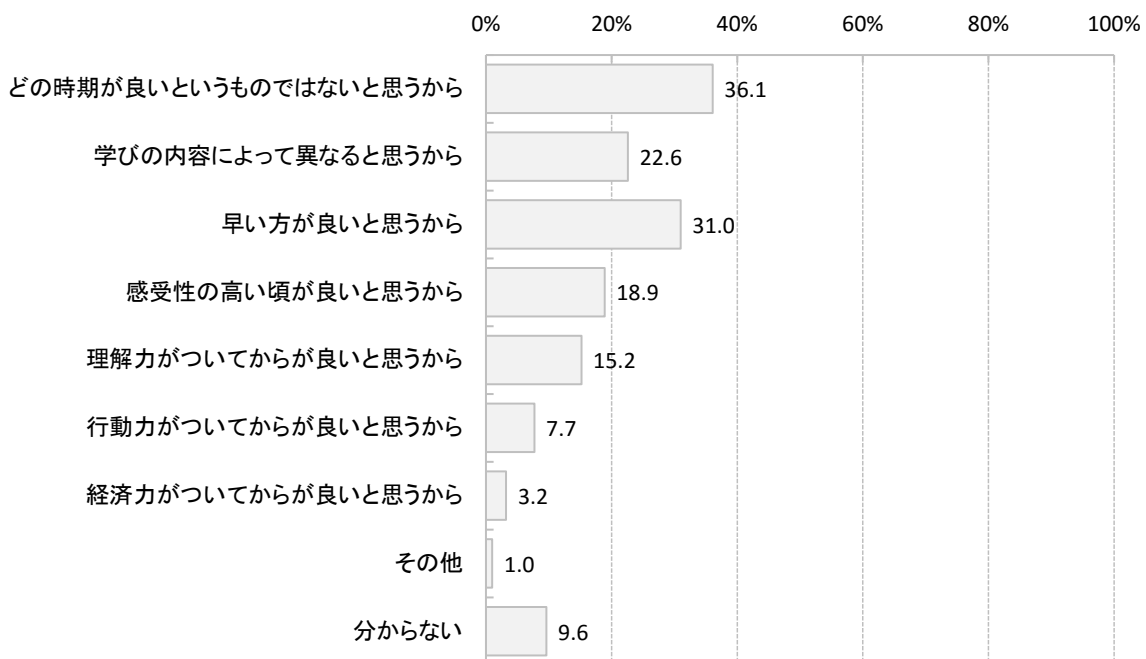
- 必要ない
- あらゆる機会や節目などに気付きを通じて学びがあること。
- ない

[Q19] それは何故ですか。(2つまで) (n=2075)

「どの時期が良いというものではない」が36%と最も高く、次いで「早い方が良い」が31%であった。Q19の回答に比例した傾向を示している。

複数回答	n	%
全体	(2075)	
1 どの時期が良いというものではないと思うから	750	36.1
2 学びの内容によって異なると思うから	468	22.6
3 早い方が良いと思うから	643	31.0
4 感受性の高い頃が良いと思うから	393	18.9
5 理解力がついてからが良いと思うから	315	15.2
6 行動力がついてからが良いと思うから	159	7.7
7 経済力がついてからが良いと思うから	67	3.2
8 その他	20	1.0
9 分からない	200	9.6

(表 2.3.5 一般国民向けアンケート：Q18 の理由)



(図 2.3.5 一般国民向けアンケート：Q18 の理由)

【8 その他】 記載内容 20 件

- 日々の習慣だと思うから (4件)
- 手遅れにならないように (2件)
- 環境問題は変化するから
- 学びではなく、それが普通であるように
- 継続的に身近にあるものは、普通になっていくと思うから
- 段階はあっても継続的に環境の視点が入っているべき
- 非常識な親が多いから環境問題だけでなく一般常識のテストなどやった方がいいと思う。
- 興味を持った時すぐに学ぶ機会を得た方がよいと思う為
- 人間の自我意識が目覚めるきっかけは、人それぞれ。幼少期から大人びた子供もいるし、そうじゃない子供もいる
- 忘れないようにするため (2件)
- 無駄だから
- 政治家が期待できない

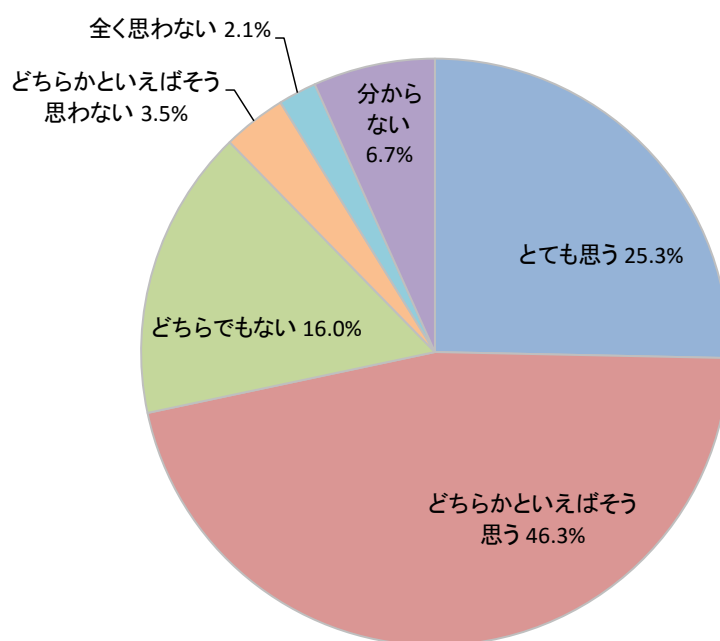
基本的な事は幼少期からがいいと思うが、時代によって変わっていく事もあるから、新しい知識を常に取り入れたほうがよい。また高齢になると「こうやってきたからいいんだ」という硬い考えになりやすいため、大人だからもういいとか高齢だからもういいというやり方は良くない、常に知識を更新していったほうがいい

[Q20] 環境や社会に関することについて、今後も学び続けたいと思いますか。 (n=2075)

「とても思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせて72%であり、半数以上が継続して学ぶことに前向きである。

単一回答	n	%
全体	(2075)	
1 とても思う	526	25.3
2 どちらかといえばそう思う	961	46.3
3 どちらでもない	331	16.0
4 どちらかといえばそう思わない	73	3.5
5 全く思わない	44	2.1
6 分からない	140	6.7

(表 2.3.6 一般国民向けアンケート：今後の学びへの意欲)



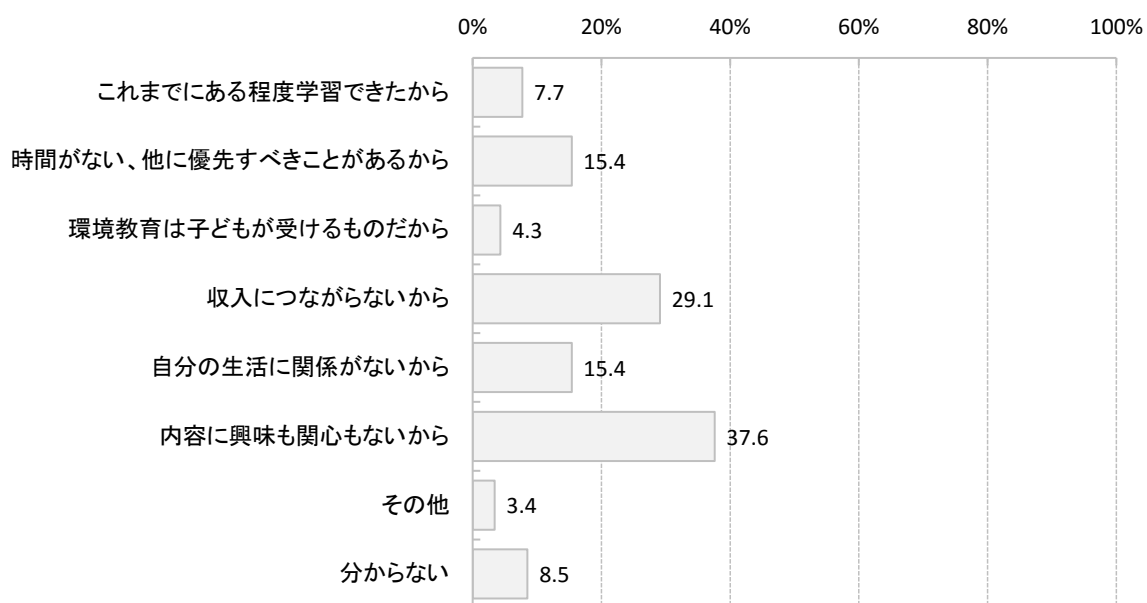
(図 2.3.6 一般国民向けアンケート：今後の学びへの意欲)

[Q21] なぜ学び続けたくないと思ったのですか。(2つまで) (n=117)

Q20 で継続して学ぶことに「どちらかといえばそう思わない」、「全く思わない」を選択した 117 名について、その理由を尋ねると、「興味がない」が 38%と最も高く、次いで「収入につながらない」が 29%であった。

複数回答	n	%
全体	(117)	
1 これまでにある程度学習できたから	9	7.7
2 時間がない、他に優先すべきことがあるから	18	15.4
3 環境教育は子どもが受けるものだから	5	4.3
4 収入につながらないから	34	29.1
5 自分の生活に関係がないから	18	15.4
6 内容に興味も関心もないから	44	37.6
7 その他	4	3.4
8 分からない	10	8.5

(表 2.3.7 一般国民向けアンケート：学びたくない理由)



(図 2.3.7 一般国民向けアンケート：学びたくない理由)

【7 その他】記載内容 4 件

結局、欧米人の言うがままにされるから。それは、強制的で屈辱的だから。

ビジネスにすぎないから

人生の残り時間が少ない

疲れるから

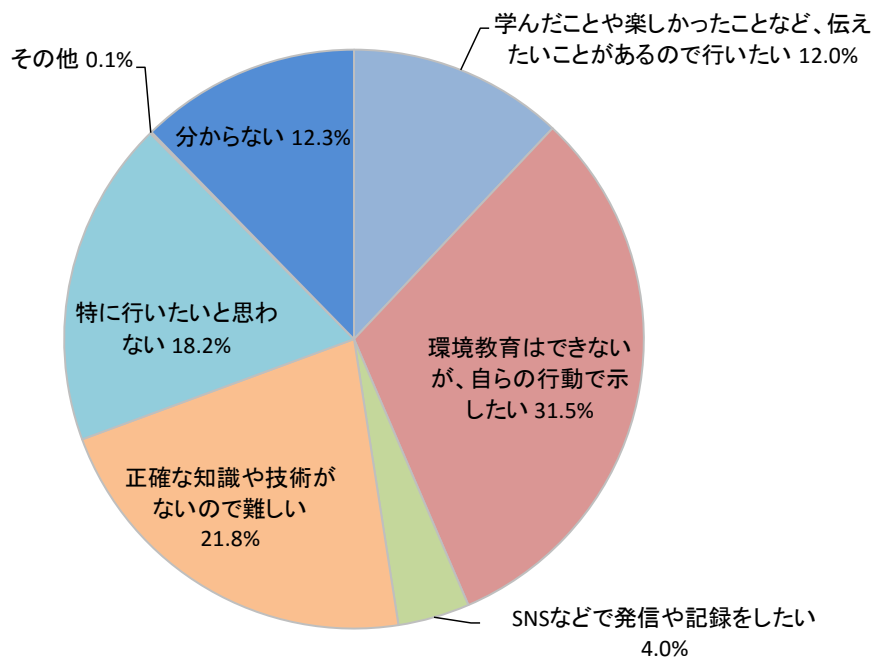
[Q22] 環境や社会に関することについて、自分が誰かに教えたり、取り組んだりしたいと思いますか。最もあてはまるものを一つ選んでください。(n=2075)

自らが誰かに対して「教えたい」、「行動で示したい」、「発信したい」を選択した人は合わせて48%と半数を占めていた。

反対に「難しい」、「行きたいと思わない」を選択した人は合わせて40%であった。

単一回答	n	%
全体	(2075)	
1 学んだことや楽しかったことなど、伝えたいことがあるので行いたい	250	12.0
2 環境教育はできないが、自らの行動で示したい	653	31.5
3 SNSなどで発信や記録をしたい	84	4.0
4 正確な知識や技術がないので難しい	452	21.8
5 特に行きたいと思わない	377	18.2
6 その他	3	0.1
7 分からない	256	12.3

(表 2.3.8 一般国民向けアンケート：情報共有・行動の意欲)



(図 2.3.8 一般国民向けアンケート：情報共有・行動の意欲)

【6 その他】 記載内容 3 件

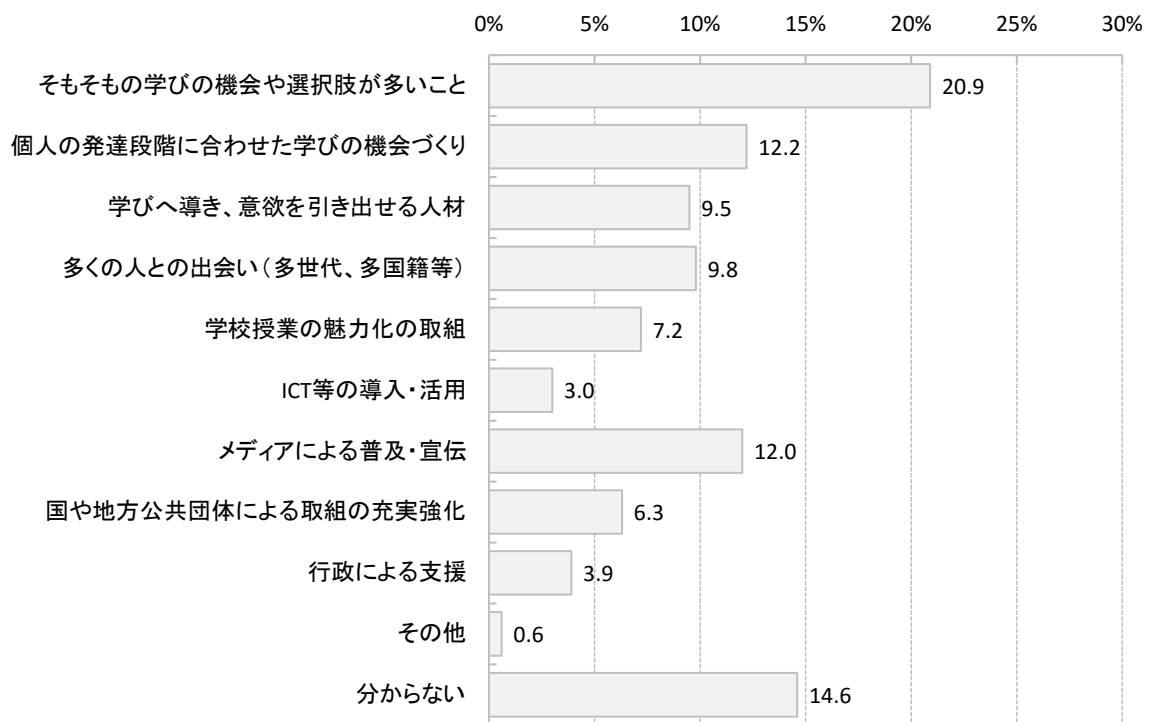
子供に分別、リサイクルや、食べ物、物を大事にする様に教育したい
 子どもと一緒に実践して体験させたい
 職場

[Q23] 今後、環境や社会に関する学びの機会を充実させるための取組として、特に必要だと思うことを一つ、選んでください。(n=2075)

「学びの機会や選択肢が多いこと」が21%と最も高く、「ICTの導入・活用」や「行政による支援」は4%程度と低かった。

単一回答	n	%
全体	(2075)	
1 そもそもの学びの機会や選択肢が多いこと	433	20.9
2 個人の発達段階に合わせた学びの機会づくり	254	12.2
3 学びへ導き、意欲を引き出せる人材	197	9.5
4 多くの人との出会い(多世代、多国籍等)	203	9.8
5 学校授業の魅力化の取組	150	7.2
6 ICT等の導入・活用	63	3.0
7 メディアによる普及・宣伝	249	12.0
8 国や地方公共団体による取組の充実強化	131	6.3
9 行政による支援	81	3.9
10 その他	12	0.6
11 分からない	302	14.6

(表 2.3.9 一般国民向けアンケート：学びの機会を充実させるために必要なもの)



(図 2.3.9 一般国民向けアンケート：学びの機会を充実させるために必要なもの)

【10 その他】記載内容 12 件

- 嘘を見抜く力をつける教育 (2 件) 証拠を示す
- 自身が環境に触れ痛感すること 親のしつけ
- 消費者が知ること 社会の雰囲気、機運
- 嘘や内容を意図的に作られた情報を無くす事
- 数字やデータを元とした根拠ある正しい情報の共有
- その時代の流行もののキャラクターが環境の話を交えて教える?
- 思考力があれば特に学びの場がなくても日常から感じ取れる
- 神からの贈り物と言える地球を大切にすべき、という聖書の教えが広まること

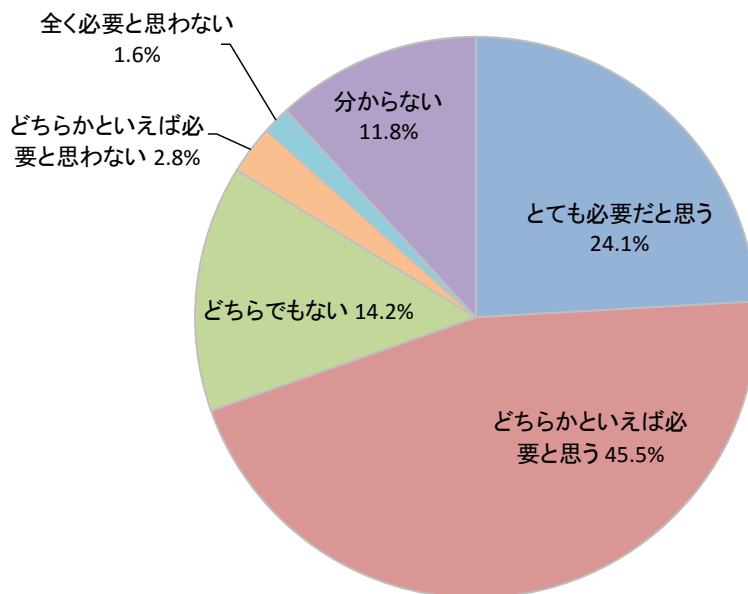
2-4 協働の取組について

[Q24] 環境や社会の問題を解決して、将来を持続可能な社会としていくために、地域や立場の異なる人と一緒に取り組むことが必要だと思いますか。 (n=2075)

「とても必要」、「どちらかといえば必要」を合わせると 70%であり、半数以上が協働の必要性には賛同していた。

単一回答	n	%
全体	(2075)	
1 とても必要だと思う	501	24.1
2 どちらかといえば必要と思う	944	45.5
3 どちらでもない	294	14.2
4 どちらかといえば必要と思わない	58	2.8
5 全く必要と思わない	34	1.6
6 分からない	244	11.8

(表 2.4.1 一般国民向けアンケート：協働の必要)



(図 2.4.1 一般国民向けアンケート：協働の必要)

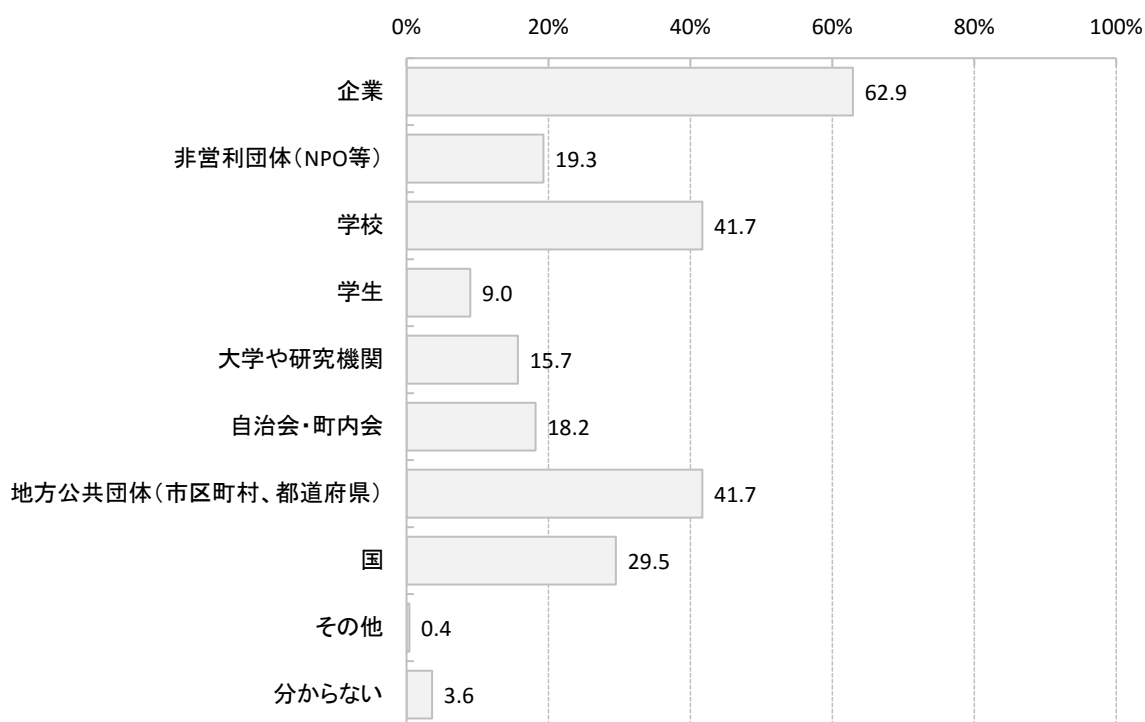
[Q25] どのような組織や団体が中心となって一緒に取り組むと、良くなると思いますか。

(3つまで) (n=1445)

協働対象としては、「企業」が63%と最も高く、次いで「学校」と「地方公共団体」が42%であった。

複数回答	n	%
全体	(1445)	
1 企業	909	62.9
2 非営利団体 (NPO等)	279	19.3
3 学校	603	41.7
4 学生	130	9.0
5 大学や研究機関	227	15.7
6 自治会・町内会	263	18.2
7 地方公共団体 (市区町村、都道府県)	602	41.7
8 国	426	29.5
9 その他	6	0.4
10 分からない	52	3.6

(表 2.4.2 一般国民向けアンケート：協働対象)



(図 2.4.2 一般国民向けアンケート：協働対象)

【9 その他】記載内容 6 件

ネット配信

家庭

著名人

サークル

メディア

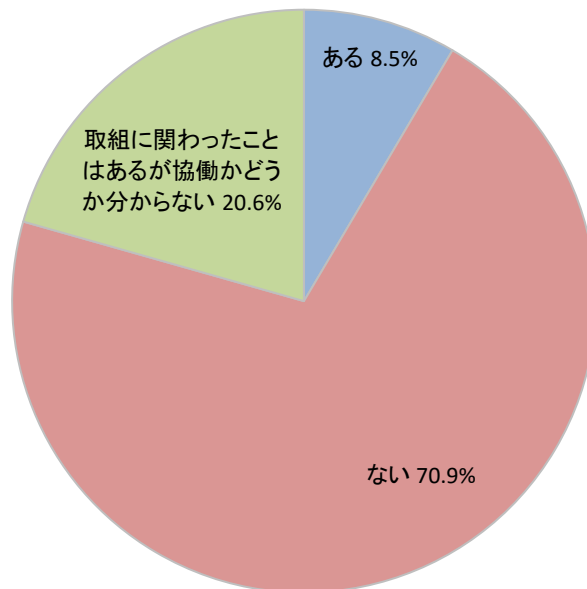
現在の社会では、その意識がみんなに行き渡るの無理かと思う

[Q26] あなた自身は協働の取組に参加したり、関わったりしたことがありますか。 (n=2075)

協働の取組への参加経験があるのは9%、71%はなかった。

単一回答	n	%
全体	(2075)	
1 ある	177	8.5
2 ない	1471	70.9
3 取組に関わったことはあるが協働かどうか分からない	427	20.6

(表 2.4.3 一般国民向けアンケート：協働の経験)



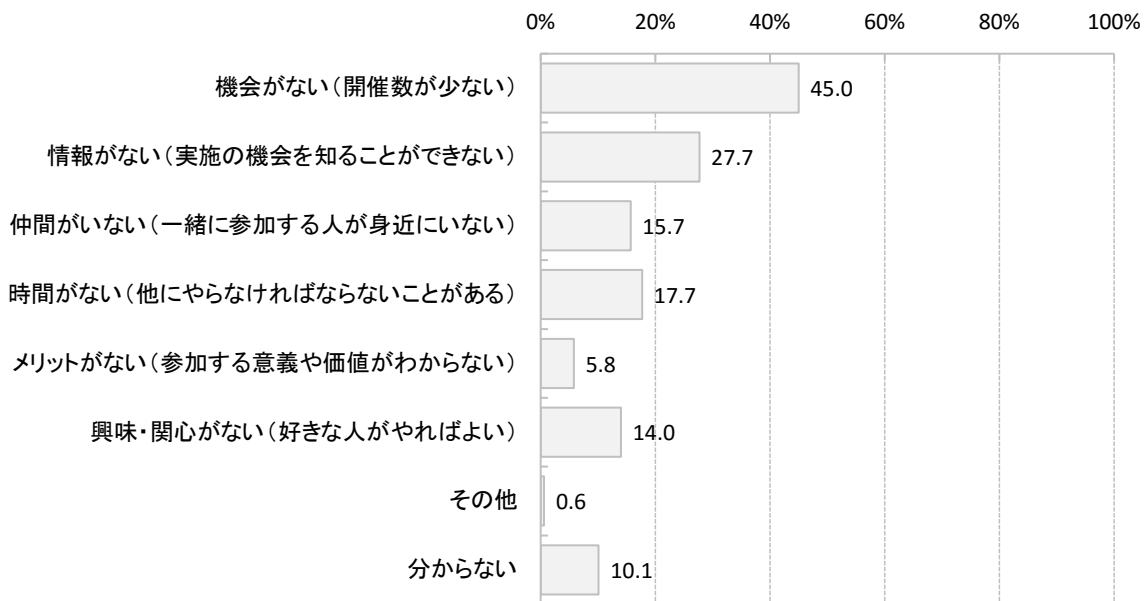
(図 2.4.3 一般国民向けアンケート：協働の経験)

[Q27] 参加できない理由はありますか。(2つまで) (n=1471)

協働取組の参加経験のない1471名の不参加の理由は、「機会がない」が45%と最も高く、次いで「情報がない」が28%であった。

複数回答	n	%
全体	(1471)	
1 機会がない(開催数が少ない)	662	45.0
2 情報がない(実施の機会を知ることができない)	408	27.7
3 仲間がない(一緒に参加する人が身近にいない)	231	15.7
4 時間がない(他にやらなければならないことがある)	261	17.7
5 メリットがない(参加する意義や価値がわからない)	86	5.8
6 興味・関心がない(好きな人がやればよい)	206	14.0
7 その他	9	0.6
8 分からない	149	10.1

(表 2.4.4 一般国民向けアンケート：協働できない理由)



(図 2.4.4 一般国民向けアンケート：協働できない理由)

【7 その他】 記載内容 9 件

- 障害があり活動が制約されている (2 件)
- 不審者扱いされる。人を怒らせる体質。
- 一人一人が自律してやれば問題ない
- 休みの時間を割いてまでやれない
- 生活費を稼ぐのにいっぱい時間で時間がない
- 政治的な思惑が潜んでいるから
- 人付き合いが苦手だから
- 体力がないから

2-5 クロス集計結果について

アンケート結果の整理において、単純集計結果からは、一般国民の環境に対する意識や行動、環境教育の現状を把握することができた。ここでは、項目間のクロス集計を実施し、環境教育の効果や課題、さらなる普及と促進のために必要な取組を把握した。

クロス集計を行う項目は以下のとおりとした。

	主軸	対照項目
1	年齢 ※29歳までの行動や意識、経験に注目	Q7 社会の変化に対する意識 Q8 行動の変化の時期 Q9 変化の理由やきっかけ Q10 負担や苦勞の有無 Q11 今後の取組意思 Q12 行動するために必要なこと Q13 情報源 Q16 環境教育の場所 Q23 充実させるために何が必要か
2	今後の取組意思 (Q11を使用) ※もう一押し of 行動に繋がっていない層の意識や課題に注目	Q9 変化の理由やきっかけ Q10 負担や苦勞の有無 Q12 行動するために必要なこと Q13 情報源 Q16 環境教育の場所 Q22 自分が教えたいと思うか Q23 充実させるために何が必要か
3	環境教育による変化 (Q17を使用) ※変化のあった層の経験や意識、動機に注目	Q12 行動するために必要なこと Q13 情報源 Q16 環境教育の場所 Q22 自分が教えたいと思うか Q23 充実させるために何が必要か

(表 2.5.1.1 一般国民向けアンケート クロス集計：項目)

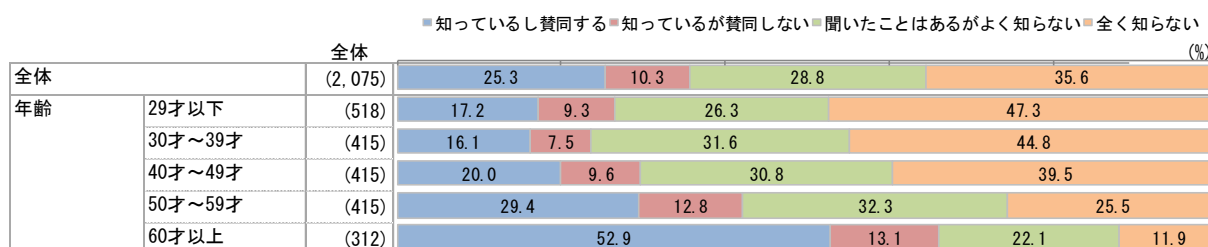
(1) 年齢

[Q7] 社会の変化について、以下のことを知っていますか。最も近いものを選んでください。
(それぞれ一つずつ)

社会の変化に対して、年齢の高いほど「知っているし賛同する」が高い傾向にあるが、「リモートワーク」に関してのみ39歳以下が高かった。

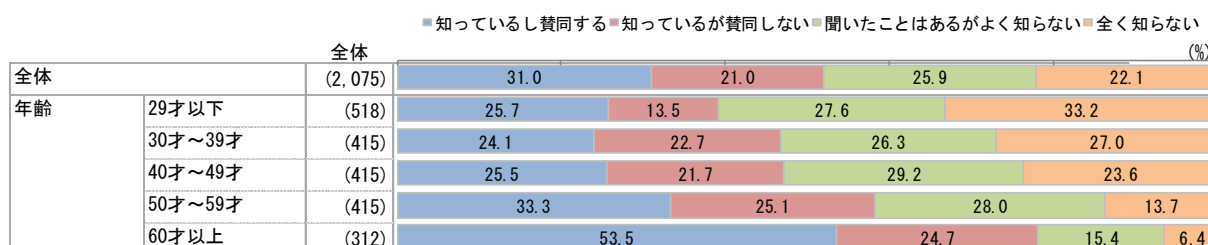
また、「賛同しない」割合についても39歳以下に比べて50歳以上の方が高い傾向にある。特に賛同しない割合が高かった「EVシフトや脱ガソリン車宣言」に対しては、29歳以下は全体平均を下回り14%であった。

- [1] 日本政府の2050年カーボンニュートラル宣言（2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにして、脱炭素社会の実現を目指すこと）



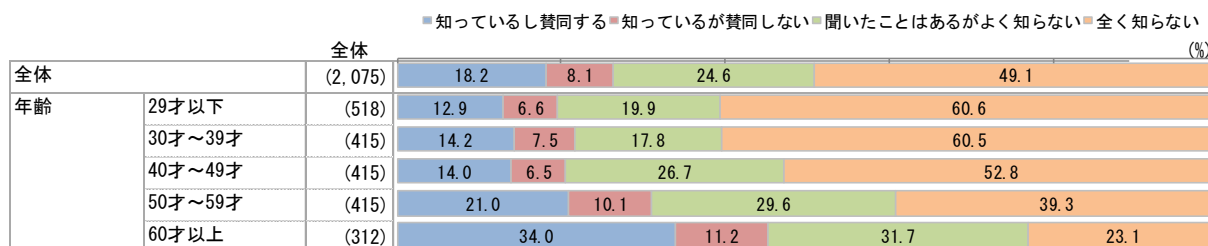
(図 2.5.1.1 一般国民向けアンケート クロス集計：カーボンニュートラル宣言)

- [2] EVシフトや脱ガソリン車宣言などの自動車メーカーの動き（2030年代半ばにはガソリン車の国内での新車販売をやめるという目標）



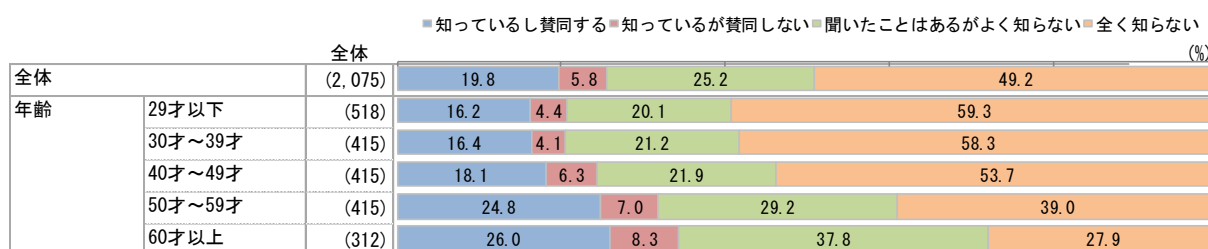
(図 2.5.1.2 一般国民向けアンケート クロス集計：自動車メーカーの動き)

- [3] グリーンリカバリーやグリーンニューディール（欧米ではじまったコロナ禍からの経済回復と脱炭素などの環境対策を両立させる政策）



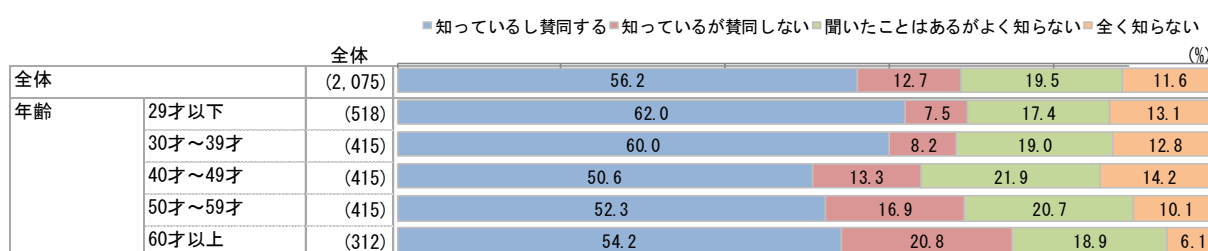
(図 2.5.1.3 一般国民向けアンケート クロス集計：グリーンリカバリー)

[4] デジタルトランスフォーメーション（DX：デジタル技術により生活をより良いものへと変革し、既存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的なイノベーションをもたらすもの）



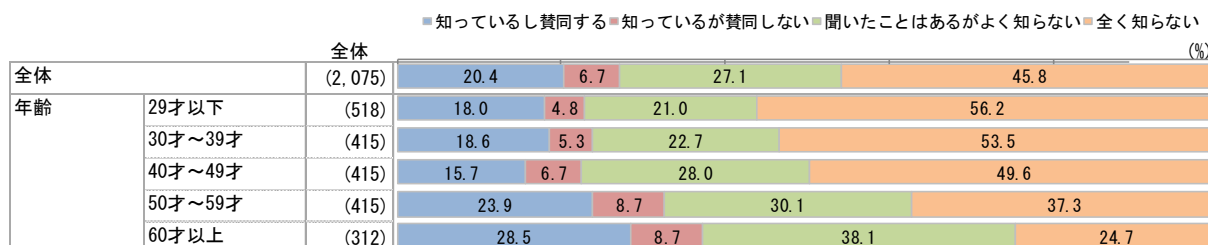
(図 2.5.1.4 一般国民向けアンケート クロス集計：DX)

[5] リモートワークやワーケーション（働く場所を自由に選択できる新しい働き方）



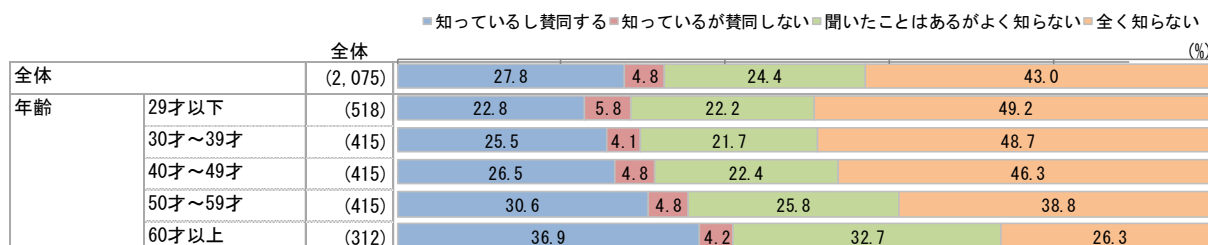
(図 2.5.1.5 一般国民向けアンケート クロス集計：リモートワーク・ワーケーション)

[6] ESG投資（環境保護や労働環境改善など社会的な課題に取り組む企業の商品を選んだり、投資したりする経済の動き）



(図 2.5.1.6 一般国民向けアンケート クロス集計：ESG投資)

[7] サーキュラーエコノミー（廃棄されてからリサイクルを考えるのではなく、最初から再利用することを念頭に、ゴミや廃棄物が出ないように設計すること）



(図 2.5.1.7 一般国民向けアンケート クロス集計：サーキュラーエコノミー)

[8] アップサイクル（不要になった物の特性などをそのまま活かしつつ、新たな魅力を与えて違った製品に作り変える新しい方法）

■知っているし賛同する ■知っているが賛同しない ■聞いたことはあるがよく知らない ■全く知らない

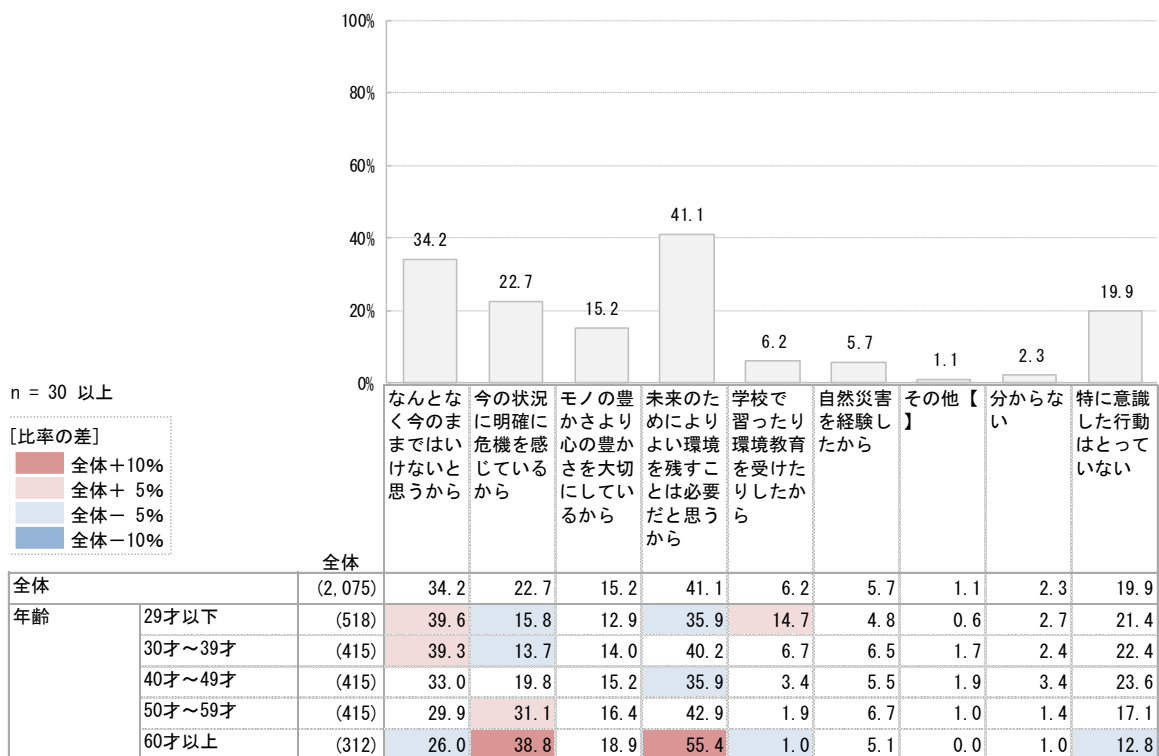
		全体	(%)			
全体	(2,075)	22.7	4.5	22.3	50.5	
年齢	29才以下 (518)	19.9	5.0	18.1	56.9	
	30才～39才 (415)	21.4	4.3	23.9	50.4	
	40才～49才 (415)	18.6	4.3	23.1	54.0	
	50才～59才 (415)	25.8	4.8	21.7	47.7	
	60才以上 (312)	30.8	3.5	26.6	39.1	

(図 2.5.1.8 一般国民向けアンケート クロス集計：アップサイクル)

[Q8] どうして環境や社会の問題を意識した行動をとるようになったのですか。(2つまで)

動機について、39 歳以下は「なんとなく今のままではいけない」が 40%と高かったのに対し、60 歳以上では「未来のためにより良い環境を残す」が 55%と最も高く、次いで「明確な危機を感じている」が 39%と異なる傾向であった。

また「環境教育を受けたから」は 29 歳以下が 15%と最も高く、60 歳以上では 1%と最も低かった。



(図 2.5.1.9 一般国民向けアンケート クロス集計：行動のきっかけ)

[Q9] 環境や社会の問題を考えるようになった理由として、最も影響を受けた出来事は何ですか。(1つのみ)

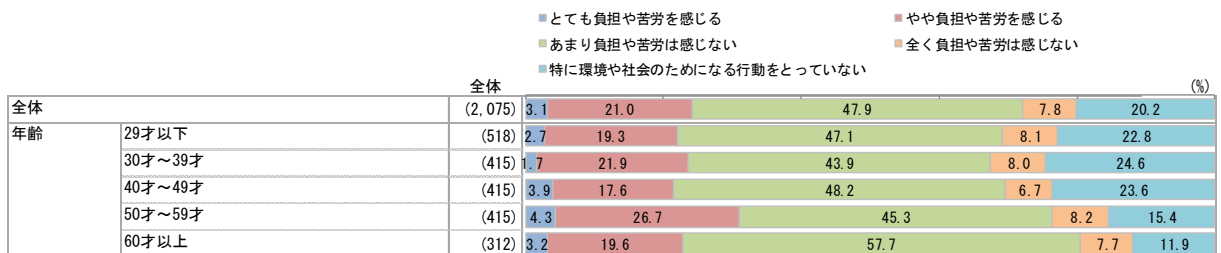
きっかけについて、29歳以下は「幼少期からの習慣」と「学校での学びや先生や友人の影響」が全体平均に対して比率が高かったのに対し、60歳以上では「テレビやニュースで見た」と「気候変動の影響」、「東日本大震災」が全体平均に対して比率が高く、高齢者層と若年層で異なった傾向を示した。



(図 2.5.1.10 一般国民向けアンケート クロス集計：影響を受けた出来事)

[Q10] 現在行っている環境や社会の問題を意識した行動について、負担や苦勞を感じたりしませんか。

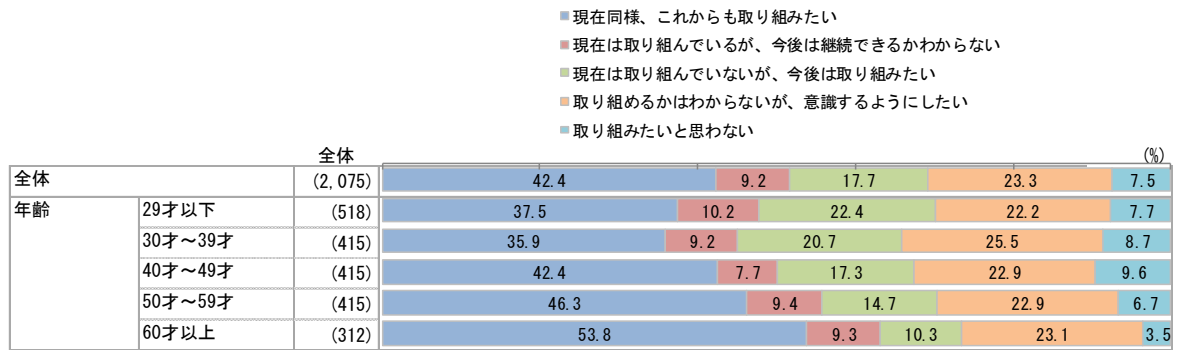
行動に対する負担や苦勞について、50歳代は「やや負担や苦勞を感じる」が27%と全体平均に対して高い傾向にあった。



(図 2.5.1.11 一般国民向けアンケート クロス集計：負担や苦勞)

[Q11] 将来の社会を持続可能なものとするために、これからも環境や社会の問題を意識した行動に取り組んでいきたいと思いませんか。

今後の取組意思について、39歳以下は「今後も継続」が全体平均よりも低く、50歳以上は高い傾向にあった。また、取り組むことに対し前向きな意思はあると考えられる「継続できるかわからない」、「今後は取り組みたい」、「意識するようにしたい」を合わせた割合は39歳以下が約50%以上となっている。

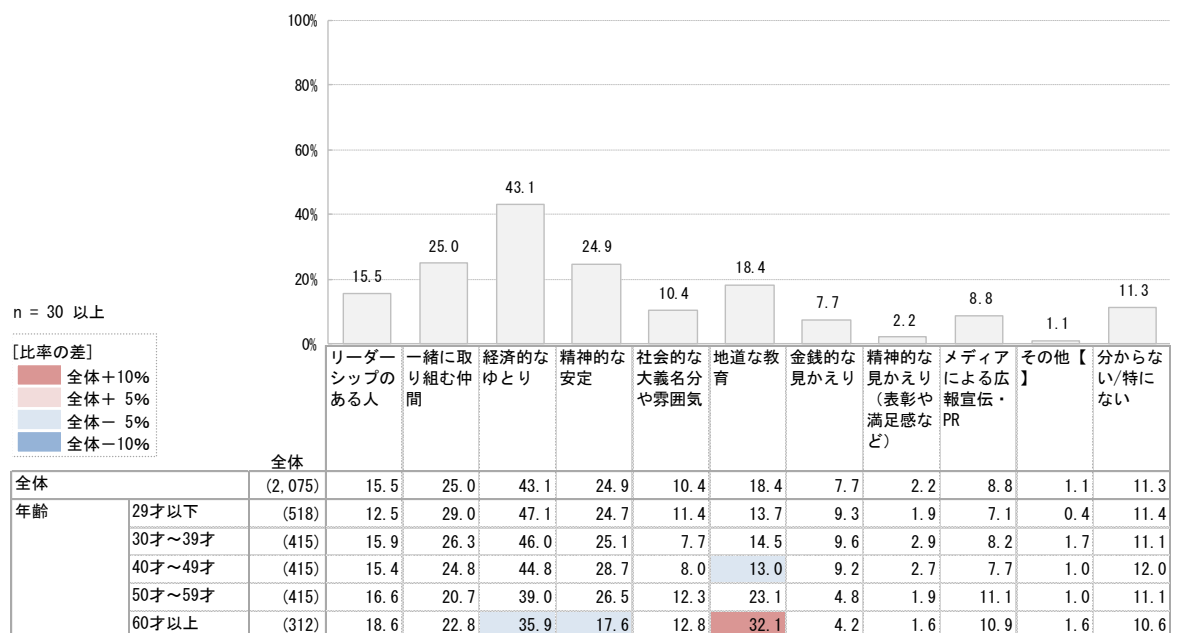


(図 2.5.1.12 一般国民向けアンケート クロス集計：今後の行動への意欲)

[Q12] あなたにとって実際に環境や社会の問題を意識した行動へとつなげるためには何が必要だと思いますか。(2つまで)

若い人ほど必要と考える割合の高いことは「経済的なゆとり」、「一緒に取り組む仲間」、「金銭的な見かえり」であった。反対に高齢になるほど必要と考える割合の高いことは「地道な教育」、「リーダーシップのある人」であった。

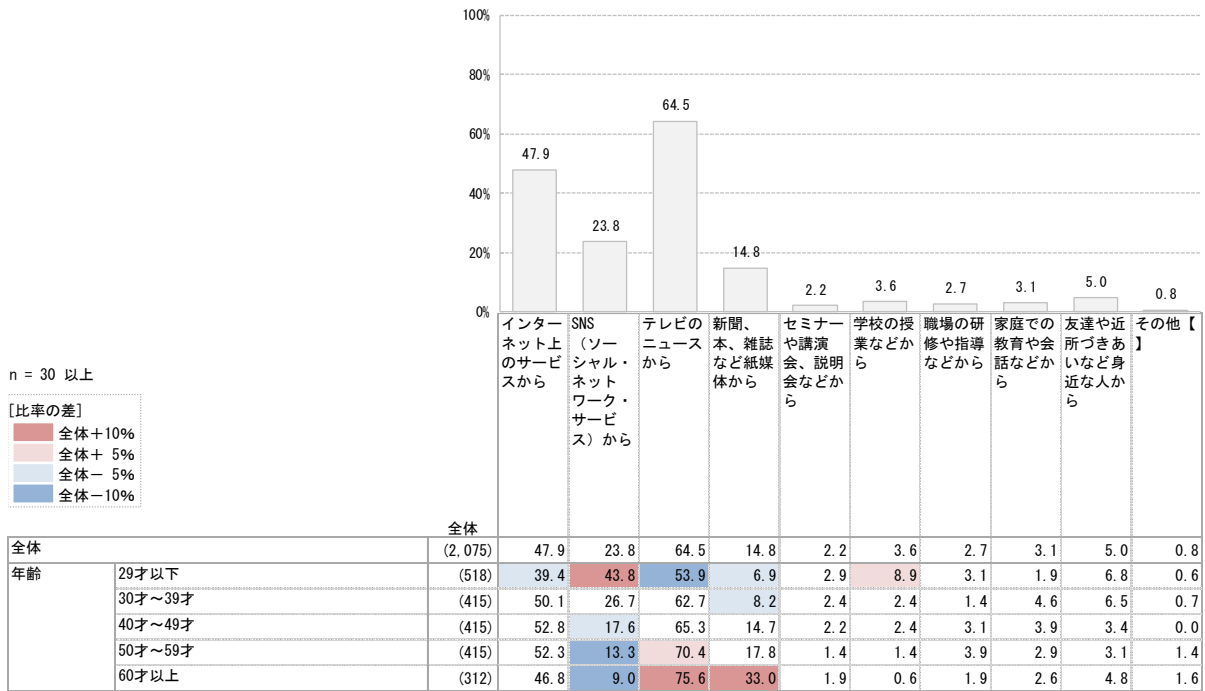
特に60歳以上で「地道な教育」を必要と考える人の割合が32%と高い。



(図 2.5.1.13 一般国民向けアンケート クロス集計：行動へつなげるために必要なもの)

[Q13] 環境や社会の変化についてどこから情報を得ていますか。(2つまで)

情報源について、29歳以下は「SNS」が44%、「学校の授業」が9%と他の年代に比べて著しく高い傾向にあった。反対に「テレビのニュース」や「インターネット」が低い傾向にあった。60歳以上は「テレビのニュース」と「新聞・本・雑誌」が全体平均よりも高い傾向にあり、「SNS」が低い傾向にあった。



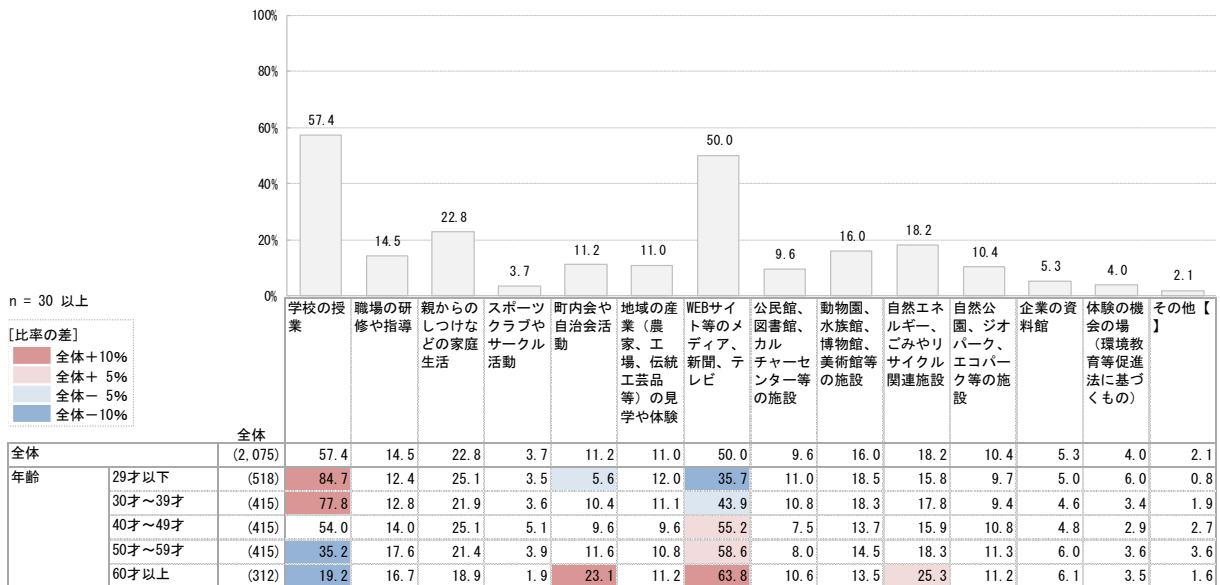
(図 2.5.1.14 一般国民向けアンケート クロス集計：情報の取得方法)

[Q16] あなたが環境や社会に関することを学んだ場として、どのようなところがありましたか？（複数回答可）

学んだ場について、「学校の授業」を挙げた人が29歳以下では85%、39歳以下では78%と高かったのに対し、50歳以上では35%、60歳以上では19%と高齢になるほど低くなった。

反対に、「メディア、新聞、テレビ」を挙げた人は、60歳以上が64%と最も高く、29歳以下では36%と若年層ほど低くなった。

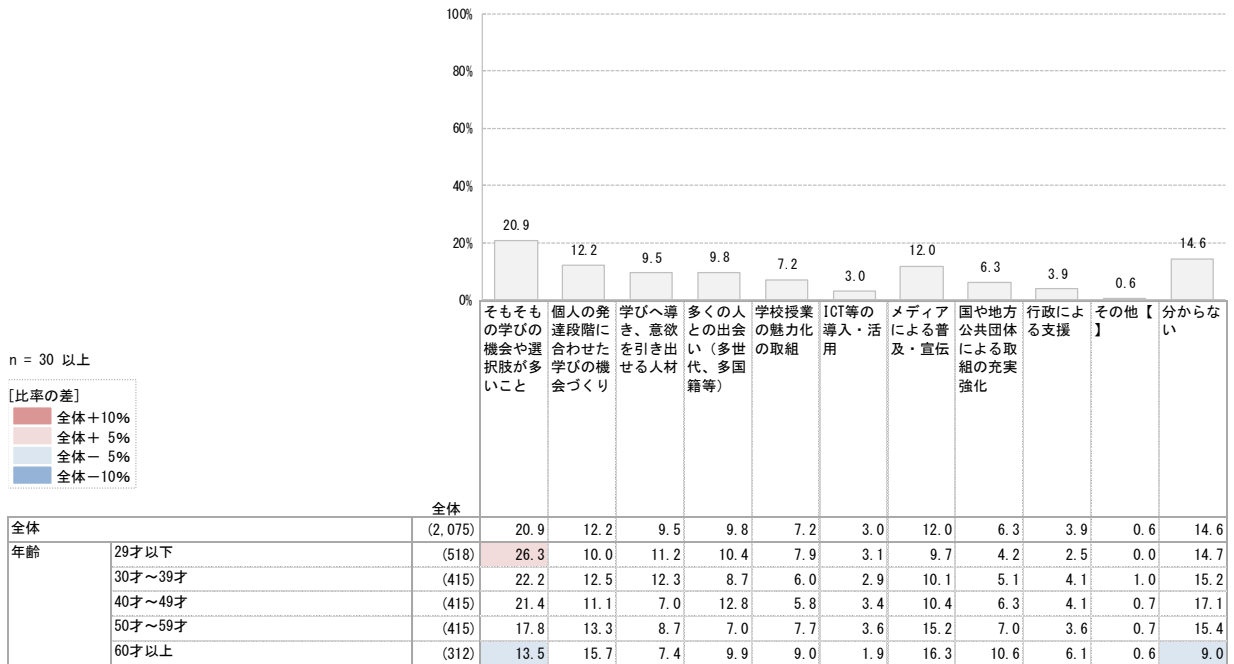
また、60歳以上では「町内会や自治会活動」が23%、「自然エネルギーやリサイクル関連施設」が25%と他の年代に比べて高い。



(図 2.5.1.15 一般国民向けアンケート クロス集計：学びの場)

[Q23] 今後、環境や社会に関する学びの機会を充実させるための取組として、特に必要だと思うことを一つ、選んでください。

学びの機会の充実のために必要なことについて、29歳以下では「学びの機会が多いこと」が26%と全体平均に対して高い傾向にあった。年代によって割合が第2位となる選択肢が異なる傾向にあった。

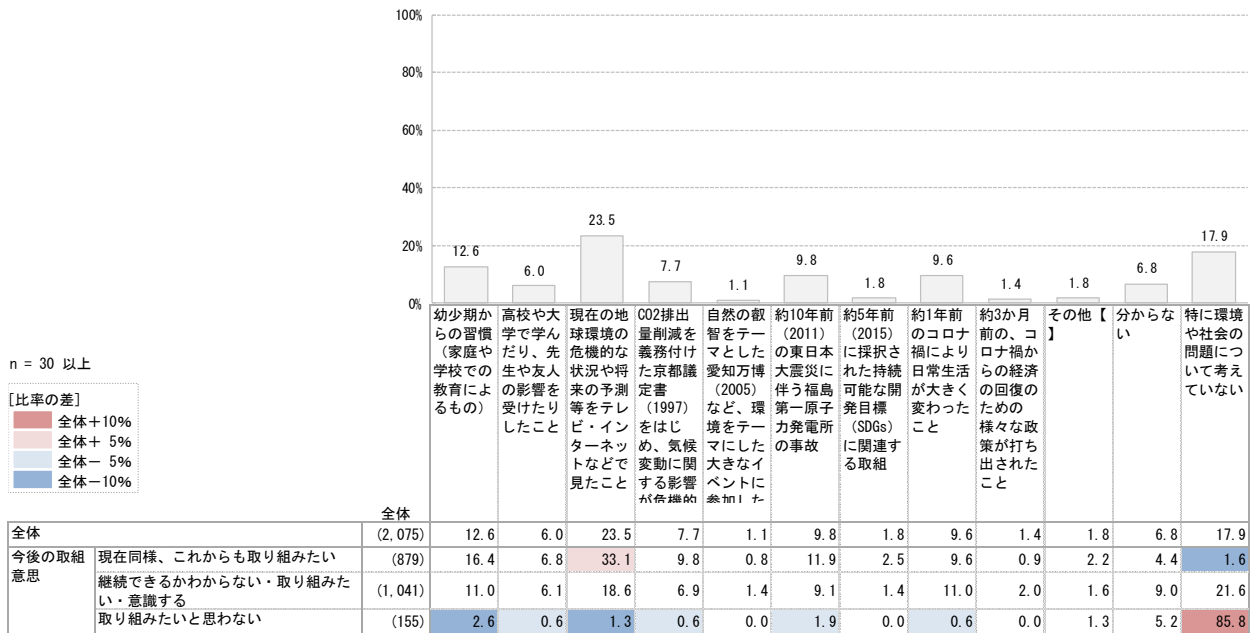


(図 2.5.1.16 一般国民向けアンケートクロス集計：学びの機会を充実させるために必要なもの)

(2) Q11 今後の取組意思

[Q9] 環境や社会の問題を考えるようになった理由として、最も影響を受けた出来事は何ですか。(1つのみ)

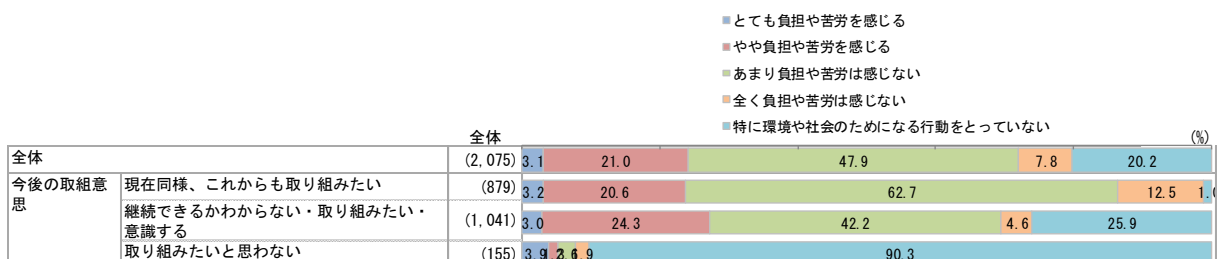
最も影響を受けた出来事について、今後も取組の継続意志のあるグループは、「テレビ・インターネット」とする割合が33%と高い傾向にあった。



(図 2.5.2.1 一般国民向けアンケート クロス集計：影響を受けた出来事)

[Q10] 現在行っている環境や社会の問題を意識した行動について、負担や苦勞を感じたりしませんか。

行動することへの負担や苦勞を「とても感じる」、「やや感じる」は全体平均と大きな違いはなかった。一方で、今後の取組に前向きなグループは、「あまり負担や苦勞を感じない」とする人が63%と高い傾向であった。

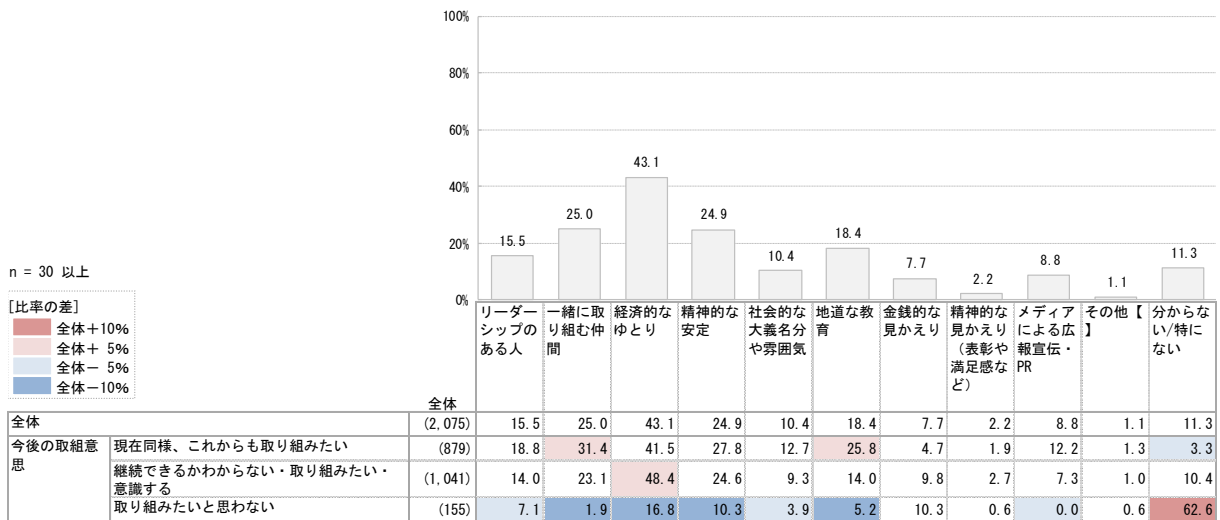


(図 2.5.2.2 一般国民向けアンケート クロス集計：負担や苦勞)

[Q12] あなたにとって実際に環境や社会の問題を意識した行動へとつなげるためには何が必要だと思いますか。(2つまで)

行動するために必要なことについて、今後も取組の継続意志のあるグループは、「一緒に取り組む仲間」が31%、「地道な教育」が26%と高い傾向にあった。

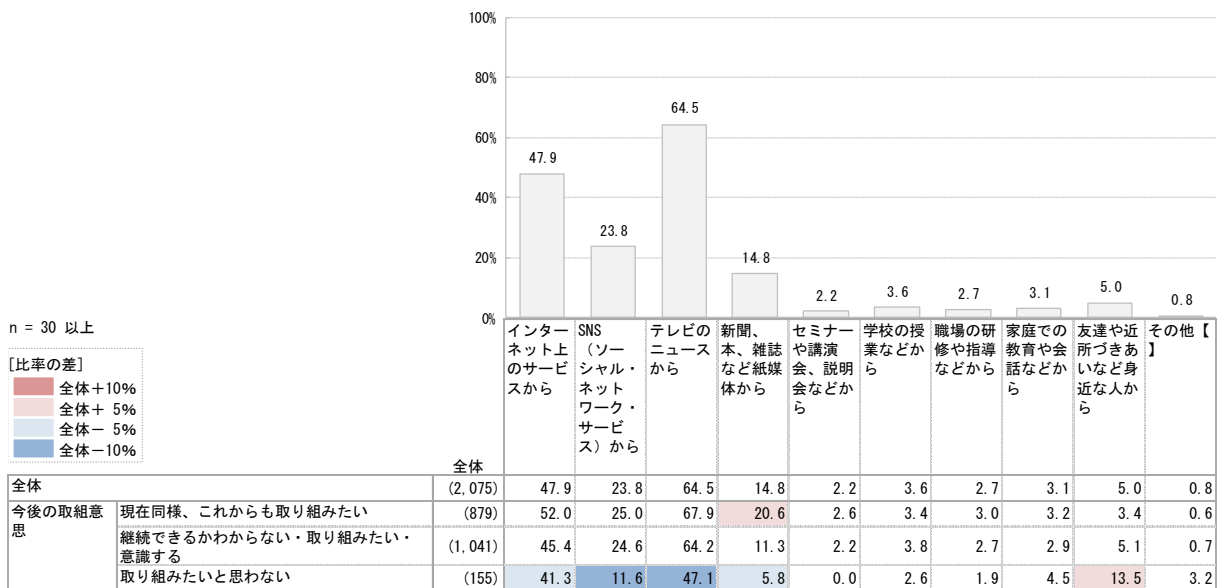
一方で、今後の取組に前向きなグループは、「経済的なゆとり」とする人が48%と高い傾向であった。



(図 2.5.2.3 一般国民向けアンケート クロス集計:行動につなげるために必要なもの)

[Q13] 環境や社会の変化についてどこから情報を得ていますか。(2つまで)

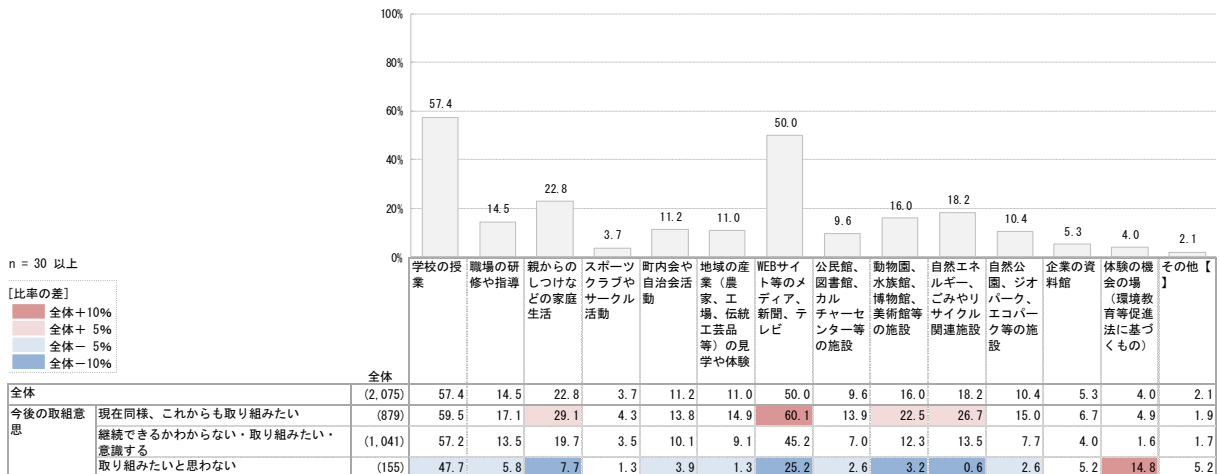
情報源について、今後も取組の継続意志のあるグループは、全体平均と比べて「新聞・本・雑誌」の割合が21%と高い傾向にあった。



(図 2.5.2.4 一般国民向けアンケート クロス集計:情報の取得方法)

[Q16] あなたが環境や社会に関することを学んだ場として、どのようなところがありましたか？（複数回答可）

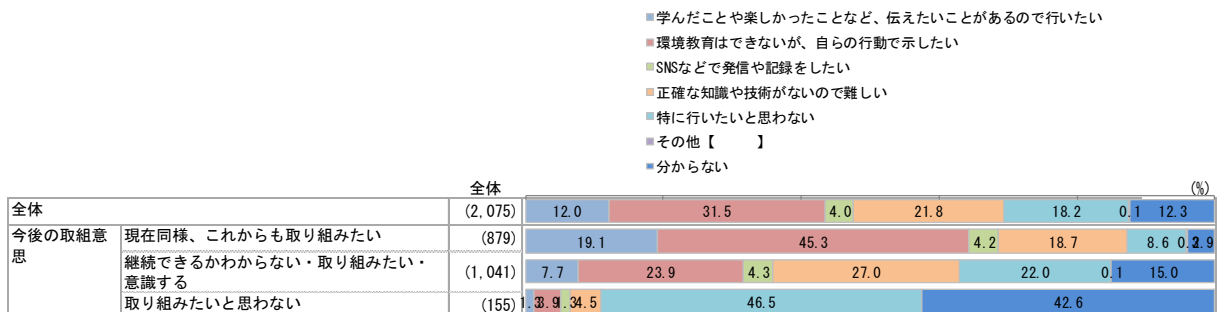
学んだ場について、今後も取組の継続意志のあるグループは、「メディア・新聞・テレビ」が60%、「家庭生活」が29%と高い傾向にあった。また、「自然エネルギーやリサイクル関連施設」が27%、「動物園・博物館等」が23%と社会教育施設での経験が高い傾向にあり、今後の取組に前向きなグループとの違いがみられた。



(図 2.5.2.5 一般国民向けアンケート クロス集計：学びの場)

[Q22] 環境や社会に関することについて、自分が誰かに教えたり、取り組んだりしたいと思いますか。最もあてはまるものを一つ選んでください。

今後も取組の継続意志のあるグループは、約70%の人が、自らが誰かに対して「教えたい」、「行動で示したい」、「発信したい」を選択しており、著しく高い傾向にあった。

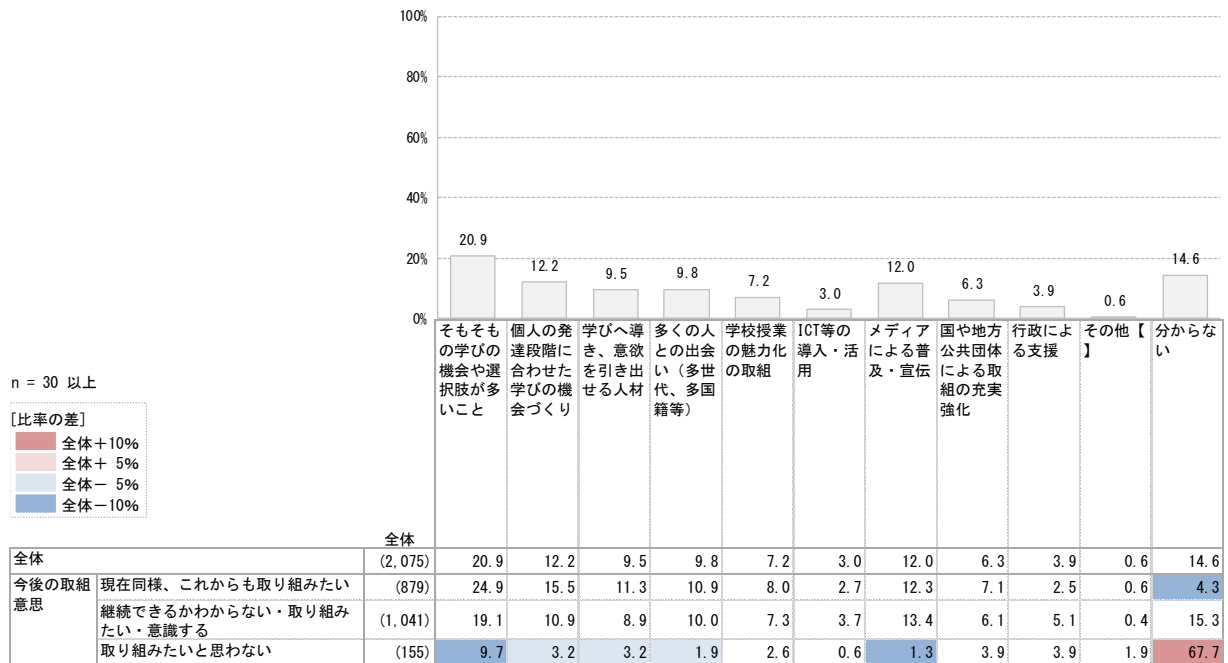


(図 2.5.2.6 一般国民向けアンケート クロス集計：情報共有や取組の意欲)

[Q23] 今後、環境や社会に関する学びの機会を充実させるための取組として、特に必要だと思うことを一つ、選んでください。

学びの機会の充実のために必要なことについて、全体平均に対して今後の取組意志では大きな違いはなかった。

ただし、今後も取組の継続意志のあるグループは、その他のグループに比べて「学びの機会が多いこと」、「発達段階に合わせた学びの機会づくり」、「意欲を引き出せる人材」の割合が高い傾向にあった。

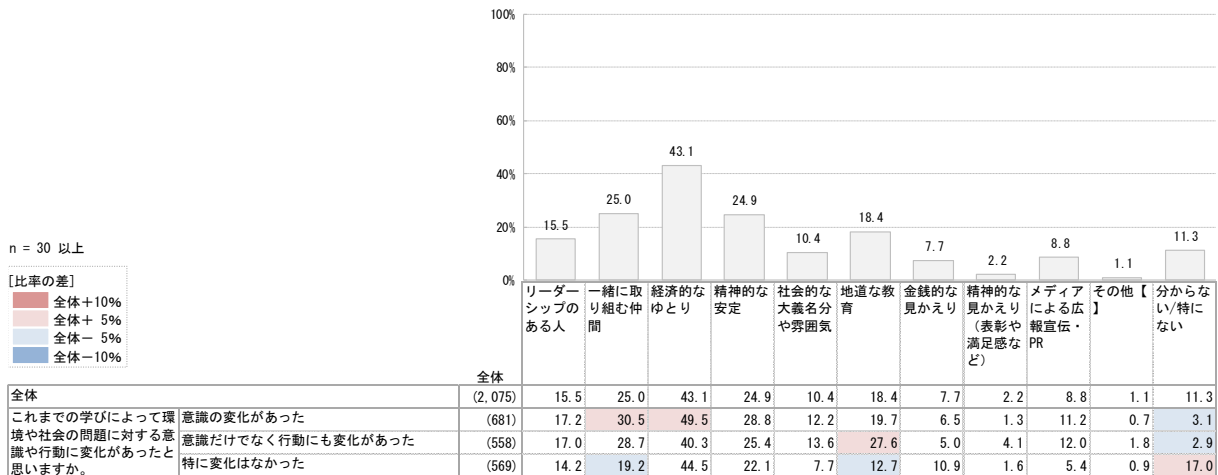


(図 2.5.2.7 一般国民向けアンケート クロス集計：学びの機会を充実させるために必要なもの)

(3) Q17 環境教育による変化

[Q12] あなたにとって実際に環境や社会の問題を意識した行動へとつなげるためには何が必要だと思いますか。(2つまで)

行動するために必要なことについて、意識の変化があったグループは、「経済的なゆとり」が50%、「一緒に取り組む仲間」が31%と高い傾向にあった。意識だけでなく行動にも変化があったグループは、「地道な教育」が28%、「精神的な見かえり」が4%と他のグループに比べて高い傾向にあった。一方で、変化のなかったグループは、「金銭的なみかえり」が11%と他のグループと比べて高い傾向であった。

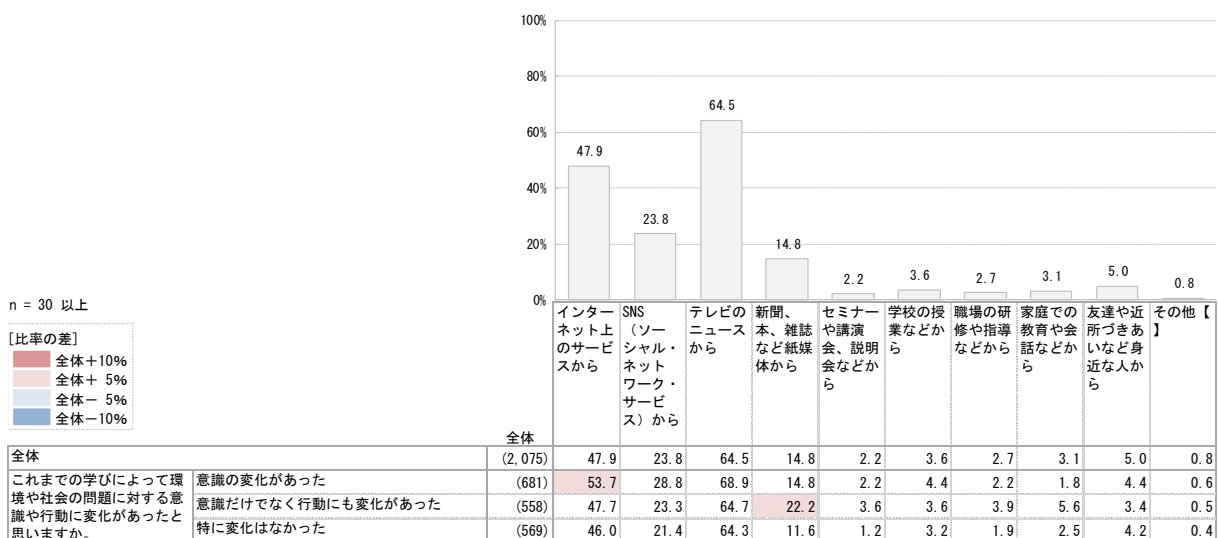


(図 2.5.3.1 一般国民向けアンケート クロス集計：行動へとつなげるために必要なもの)

[Q13] 環境や社会の変化についてどこから情報を得ていますか。(2つまで)

情報源について、意識の変化があったグループは、「インターネット」が54%と全体平均に対して高い傾向にあった。

意識だけでなく行動にも変化があったグループは、「新聞・本・雑誌」が22%、と全体平均に対して高い傾向にあった。また、「家庭での教育」が6%と他のグループと比べて高い傾向にあった。

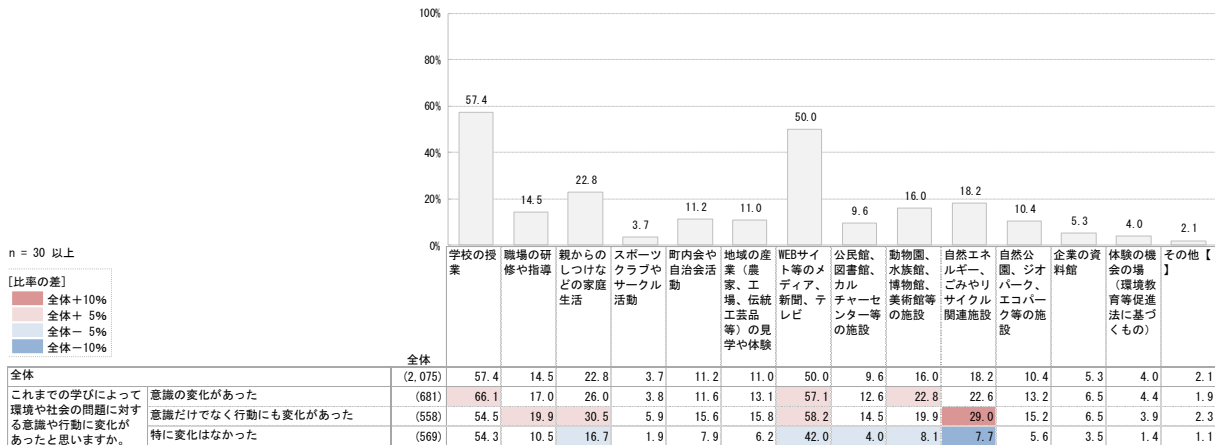


(図 2.5.3.2 一般国民向けアンケート クロス集計：情報の取得方法)

[Q16] あなたが環境や社会に関することを学んだ場として、どのようなところがありましたか？（複数回答可）

学んだ場について、意識の変化があったグループは、「学校の授業」が66%と他のグループに比べて高い傾向にあった。

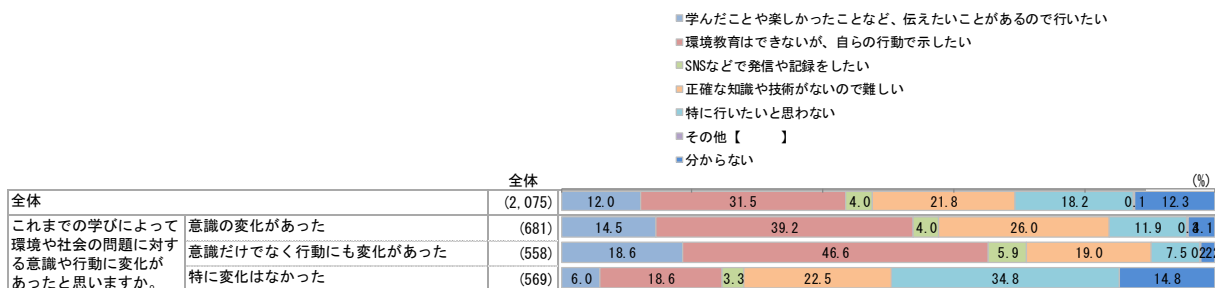
意識だけでなく行動にも変化があったグループは、「自然エネルギーやリサイクル関連施設」が29%と全体平均に対して高い傾向にあったが、反対に変化のなかったグループは8%と低い傾向であった。



(図 2.5.3.3 一般国民向けアンケート クロス集計：学びの場)

[Q22] 環境や社会に関することについて、自分が誰かに教えたり、取り組んだりしたいと思いますか。最もあてはまるものを一つ選んでください。

意識の変化があったグループ、意識だけでなく行動にも変化があったグループのいずれも、半分以上の人が、自らが誰かに対して「教えたい」、「行動で示したい」、「発信したい」を選択していた。特に行動にも変化があったグループの方が高い傾向にあった。

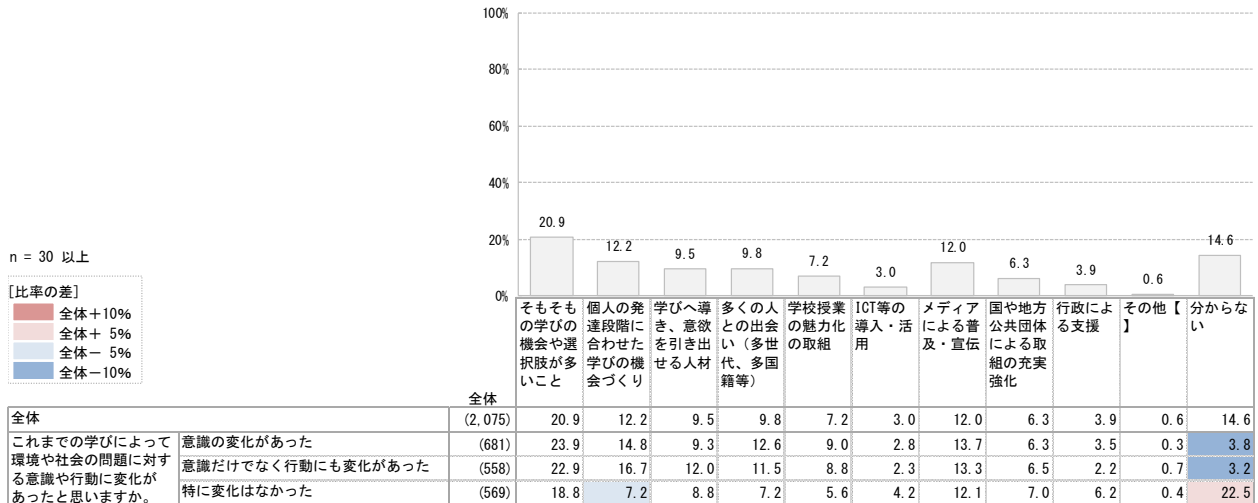


(図 2.5.3.4 一般国民向けアンケート クロス集計：情報共有や取組の意欲)

[Q23] 今後、環境や社会に関する学びの機会を充実させるための取組として、特に必要だと思うことを一つ、選んでください。

学びの機会の充実のために必要なことについて、全体平均に対して意識の変化では大きな違いはなかった。

ただし、意識だけでなく行動にも変化があったグループでは、「意欲を引き出せる人材」が12%とその他のグループに比べて高い傾向にあった。



(図 2.5.3.5 一般国民向けアンケート クロス集計：学びの機会を充実させるために必要なもの)

3 教職員等教育関係者向けアンケートの実施結果 設問数：15 問

3-1 回答者の属性

○ 回答者の年代

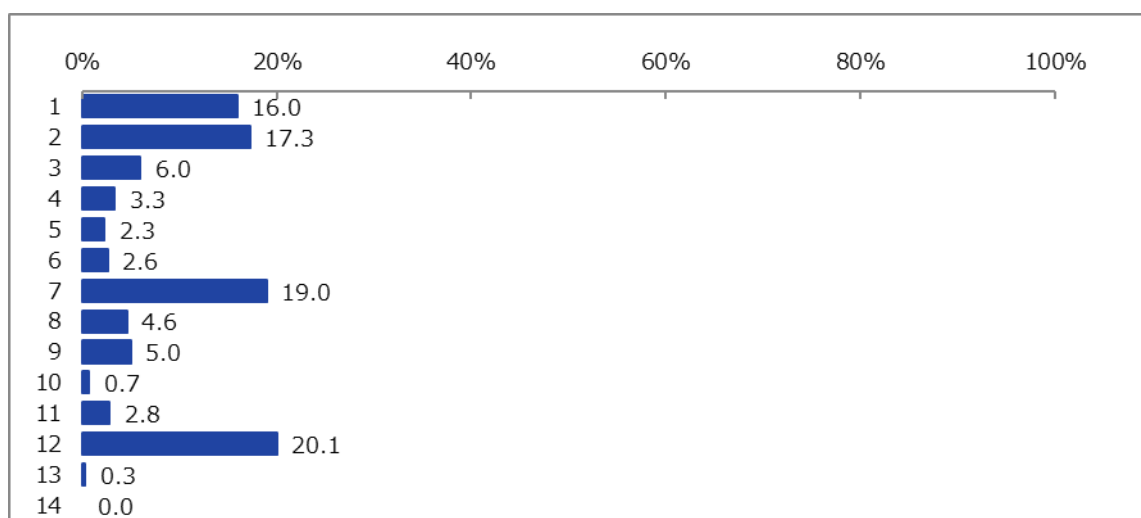
年代	合計
20代	42
30代	162
40代	237
50代	354
60代	205
合計	1,000

(表 3.1.1 教職員向けアンケート：回答者の年代)

① 現在お勤めの教育課程を教えてください。

	n	%
全体	1000	100.0
1 小学校（学級担任を持っている）	160	16.0
2 小学校（学級担任を持っていない）	173	17.3
3 中学校（理科）	60	6.0
4 中学校（社会）	33	3.3
5 中学校（技術・家庭）	23	2.3
6 中学校（保健体育）	26	2.6
7 中学校（上記以外の教科）	190	19.0
8 高等学校・中等教育学校（理科）	46	4.6
9 高等学校・中等教育学校（社会）	50	5.0
10 高等学校・中等教育学校（技術・家庭）	7	0.7
11 高等学校・中等教育学校（保健体育）	28	2.8
12 高等学校・中等教育学校（上記以外の教科）	201	20.1
13 それ以外の学校	3	0.3
14 現在は教員ではない	0	0.0

(表 3.1.2 教職員向けアンケート：教育課程)



(図 3.1.1 教職員向けアンケート：教育課程)

3-2 ESD や環境教育に対する意欲・取組について

ESD (Education for Sustainable Development : 持続可能な開発のための教育)

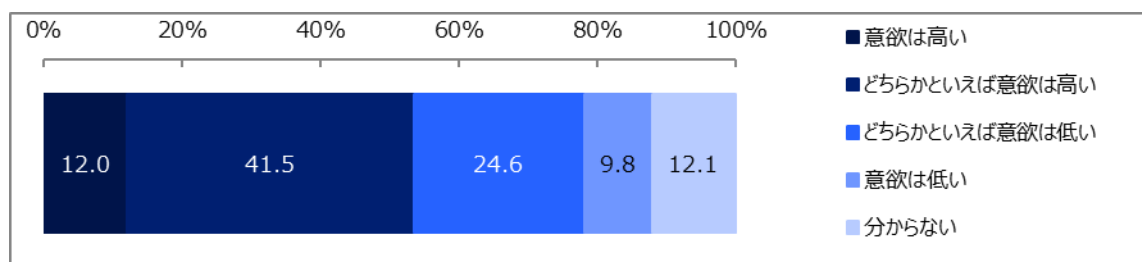
とは、持続可能な社会を作るために、環境や開発、エネルギーなどの地球規模の課題を自らの問題として捉え、身近なところから行動を起こす力を身につけることを目指す教育のことです。

② ESD (持続可能な開発のための教育) や環境教育の実施に対して、あなたご自身の意欲はどの程度ですか。

「意欲は高い」、「どちらかといえば意欲は高い」が半数以上であった。

	n	%
全体	1000	100.0
1 意欲は高い	120	12.0
2 どちらかといえば意欲は高い	415	41.5
3 どちらかといえば意欲は低い	246	24.6
4 意欲は低い	98	9.8
5 分からない	121	12.1

(表 3.2.1 教職員向けアンケート：実施の意欲)



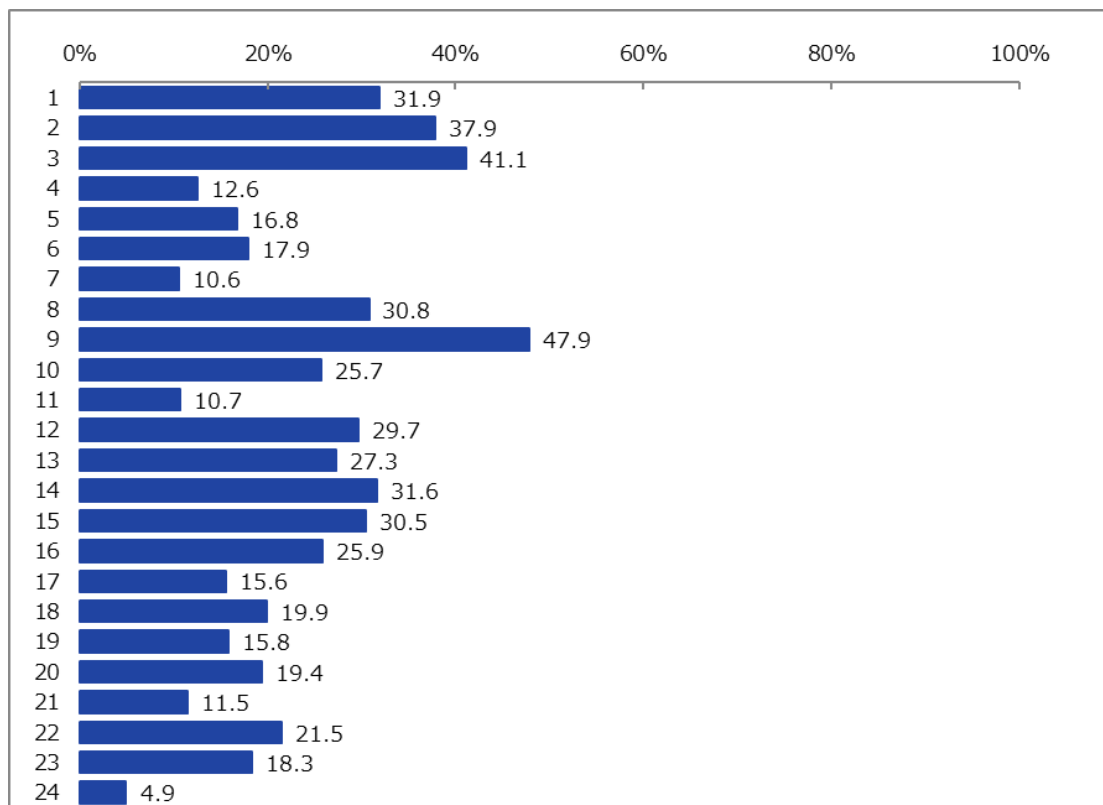
(図 3.2.1 教職員向けアンケート：実施の意欲)

③ ESD（持続可能な開発のための教育）の視点を踏まえた上で、どのような内容の環境教育を行っていますか。（複数回答）

「9：ゴミの分別・紙のリサイクルなど、ゴミや資源循環に関すること」が最も多かった。

	n	%
全体	1000	100.0
1 森林破壊や海洋汚染など地球環境に関すること	319	31.9
2 身近な地域の自然環境に関すること	379	37.9
3 生命の尊さや自然の大切さに関すること	411	41.1
4 絶滅のおそれのある野生生物に関すること	126	12.6
5 地域の特産品に関すること	168	16.8
6 動植物や自然に触れ親しむこと	179	17.9
7 動植物の飼育・栽培や農畜産物の生産に関すること	106	10.6
8 食料や水、鉱物などの有限な資源の持続可能性に関すること	308	30.8
9 ゴミの分別・紙のリサイクルなど、ゴミや資源循環に関すること	479	47.9
10 レジ袋や不必要なものをもらわない等のゴミの発生を抑制すること	257	25.7
11 生ごみや落ち葉などから堆肥をつくること	107	10.7
12 地球温暖化やヒートアイランドなどエネルギー問題に関すること	297	29.7
13 大気汚染や酸性雨に関すること	273	27.3
14 太陽光、風力等、新しいエネルギーの開発・利用に関すること	316	31.6
15 節水や節電に関すること	305	30.5
16 外国人や先住民族をはじめ国や地域による文化・生活の違いなど多様性を尊重した社会	259	25.9
17 環境が心身の健康に与える影響に関すること	156	15.6
18 環境に配慮した生活の仕方に関すること	199	19.9
19 地域の産業や文化の継承・発展に関すること	158	15.8
20 日常の身近な暮らしが世界とつながっていること	194	19.4
21 海外の環境問題に関すること	115	11.5
22 環境、経済、社会のつながりに関すること	215	21.5
23 環境教育に関する教科を担当していない	183	18.3
24 分からない	49	4.9

(表 3.2.2 教職員向けアンケート：環境教育の内容)



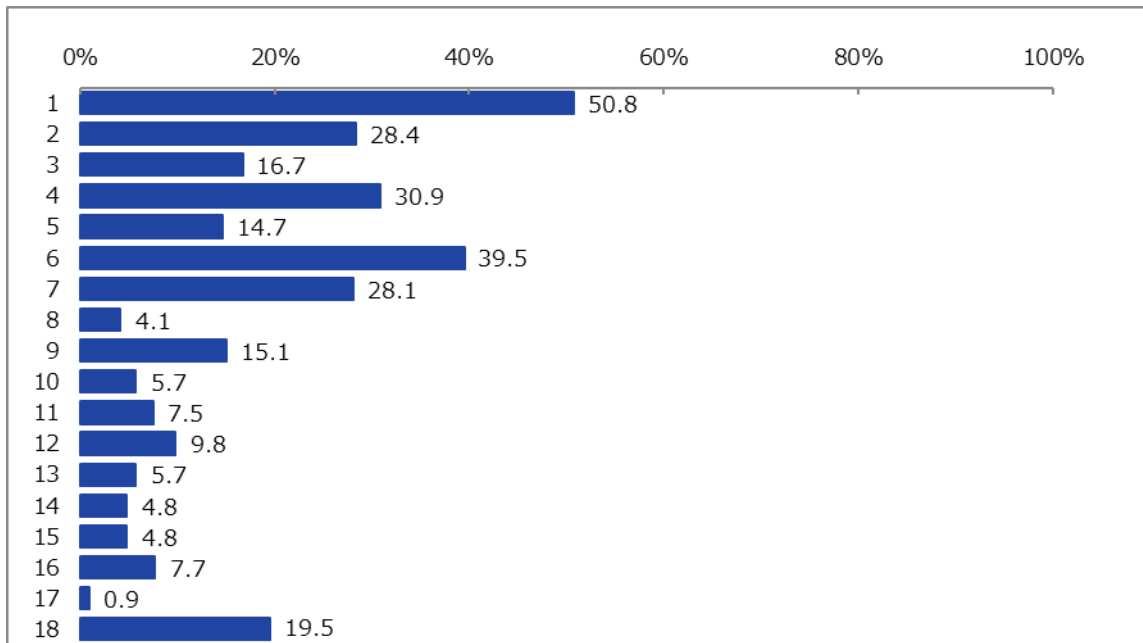
(図 3.2.2 教職員向けアンケート：環境教育の内容)

④ あなたが環境教育を行うに当たり活用しているものは何ですか。(複数回答)

「1：教科書」が最も多く、次いで「6：インターネット上の映像資料」であった。

	n	%
全体	1000	100.0
1 教科書	508	50.8
2 副読本	284	28.4
3 環境関連の書籍等	167	16.7
4 新聞記事	309	30.9
5 DVD等の映像資料	147	14.7
6 インターネット上の映像資料	395	39.5
7 インターネットでの検索結果	281	28.1
8 学校内のビオトープ	41	4.1
9 地域の自然環境	151	15.1
10 地域の公民館や図書館	57	5.7
11 博物館や科学館等の社会教育施設	75	7.5
12 ごみ焼却施設、廃棄物処分場、リサイクル施設	98	9.8
13 再生可能エネルギー発電施設（風力、太陽光、バイオマス等）	57	5.7
14 企業や工場	48	4.8
15 大学・研究機関の専門家による出張講座	48	4.8
16 地域の方への聞き取り、ゲストティーチャー	77	7.7
17 その他：	9	0.9
18 特になし	195	19.5

(表 3.2.3 教職員向けアンケート：環境教育で活用しているもの)



(図 3.2.3 教職員向けアンケート：環境教育で活用しているもの)

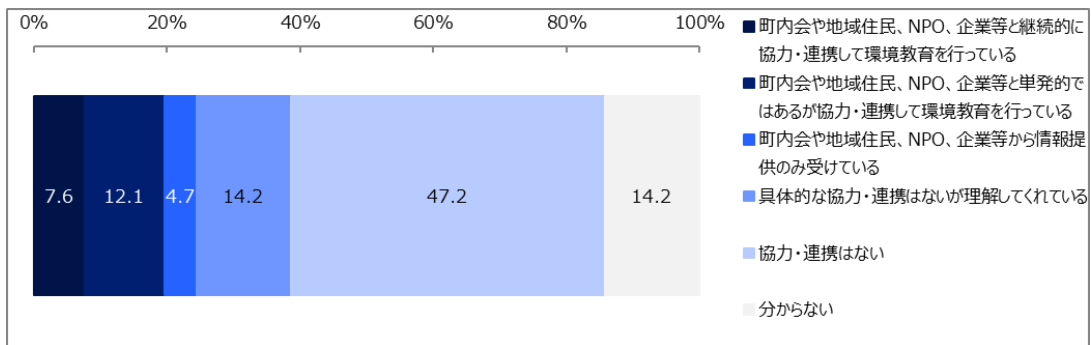
【17 その他】記載内容 9 件

- ・部活動 山岳部
- ・自作の資料
- ・ミミズコンポスト
- ・道徳科の授業
- ・体験学習
- ・仮説実験授業の授業書
- ・教科指導の量が多すぎて他に何かをする余裕はない
- ・宿泊研修
- ・修学旅行

⑤ 環境教育に取り組む際に地域・NPO・企業等との協力・連携はありますか。

	n	%
全体	1000	100.0
1 町内会や地域住民、NPO、企業等と継続的に協力・連携して環境教育を行っている	76	7.6
2 町内会や地域住民、NPO、企業等と単発的ではあるが協力・連携して環境教育を行っている	121	12.1
3 町内会や地域住民、NPO、企業等から情報提供のみ受けている	47	4.7
4 具体的な協力・連携はないが理解してくれている	142	14.2
5 協力・連携はない	472	47.2
6 分からない	142	14.2

(表 3.2.4 教職員向けアンケート：各団体との協力・連携の有無)

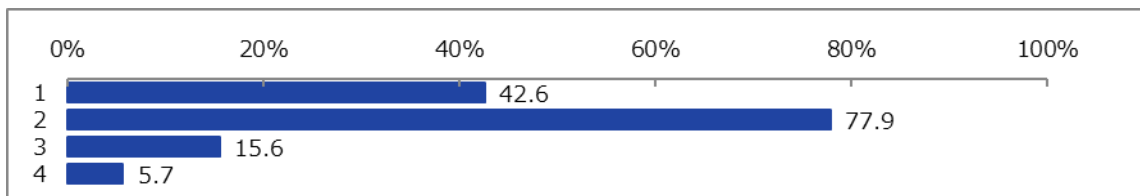


(図 3.2.4 教職員向けアンケート：各団体との協力・連携の有無)

⑥ 環境教育のどのような段階で地域・NPO・企業等と協力・連携する機会がありますか。(複数回答)

	n	%
全体	244	100.0
1 環境教育の企画	104	42.6
2 環境教育の実施	190	77.9
3 環境教育の実施後の評価	38	15.6
4 分からない	14	5.7

(表 3.2.5 教職員向けアンケート：協力・連携の段階)

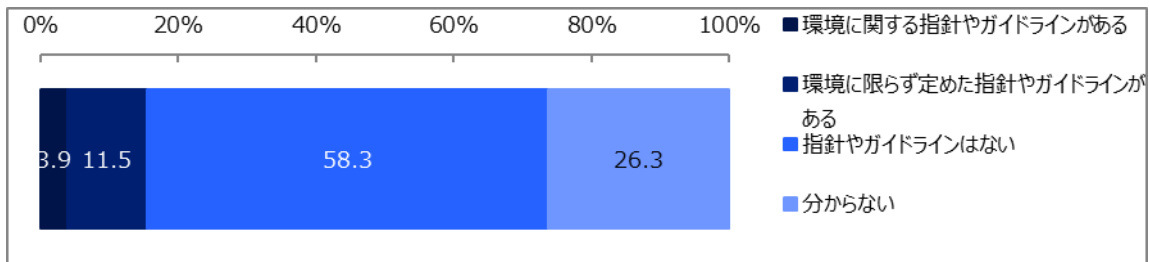


(図 3.2.5 教職員向けアンケート：協力・連携の段階)

⑦ 環境教育に取り組む際に、地域・NPO・企業等と協力・連携するための指針やガイドラインはありますか

	n	%
全体	1000	100.0
1 環境に関する指針やガイドラインがある	39	3.9
2 環境に限らず定めた指針やガイドラインがある	115	11.5
3 指針やガイドラインはない	583	58.3
4 分からない	263	26.3

(表 3.2.6 教職員向けアンケート：指針やガイドラインの有無)



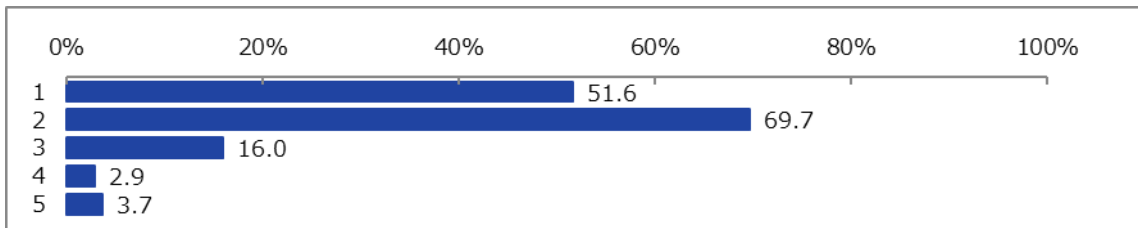
(図 3.2.6 教職員向けアンケート：指針やガイドラインの有無)

⑧ 地域・NPO・企業等と協力・連携して良かった点は何ですか。(複数回答)

地域・NPO・企業等と協力・連携することにより、「学びの質が高くなった」という回答が多かった。

	n	%
全体	244	100.0
1 地域住民、企業・NPO等とのつながりが持てた	126	51.6
2 学びの質が高くなった	170	69.7
3 準備の時間が短縮できた	39	16.0
4 特になし	7	2.9
5 分からない	9	3.7

(表 3.2.7 教職員向けアンケート：協力・連携の利点)

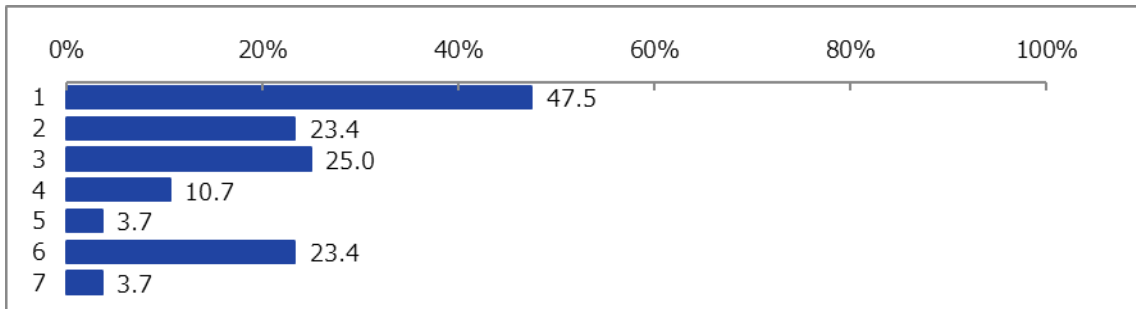


(図 3.2.7 教職員向けアンケート：協力・連携の利点)

⑨ 地域・NPO・企業等と協力・連携してデメリットはありましたか。(複数回答)

	n	%
全体	244	100.0
1 調整に時間・手間がかかった	116	47.5
2 意思疎通が難しかった、コミュニケーションがとりにくかった	57	23.4
3 目的や期待することにズレがあった	61	25.0
4 予算が確保できなかった、想像以上に費用がかかった	26	10.7
5 満足した結果が得られなかった	9	3.7
6 特になし	57	23.4
7 分からない	9	3.7

(表 3.2.8 教職員向けアンケート：協力・連携のデメリット)



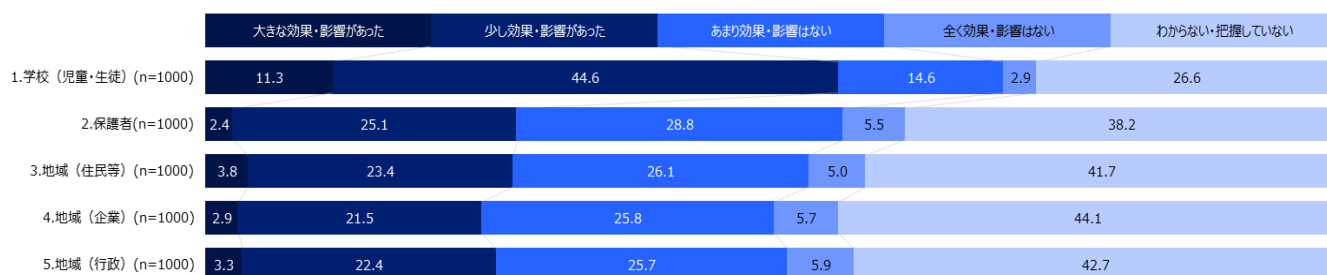
(図 3.2.8 教職員向けアンケート：協力・連携のデメリット)

3-3 環境教育に対する、学校、保護者、地域への効果や影響

⑩ あなたは昔(おおむね5年前)と比べて、環境教育の実施により学校、保護者、地域に対し、効果や影響はあったと思いますか。

	n	響大 がき あな った 効果 ・影 響	が少 あし った 効果 ・影 響	響あ はま りな い効 果・影 響	は全 なく い効 果・影 響	握わ しから ない ・把 握
1.学校(児童・生徒)	1000 100.0	113 11.3	446 44.6	146 14.6	29 2.9	266 26.6
2.保護者	1000 100.0	24 2.4	251 25.1	288 28.8	55 5.5	382 38.2
3.地域(住民等)	1000 100.0	38 3.8	234 23.4	261 26.1	50 5.0	417 41.7
4.地域(企業)	1000 100.0	29 2.9	215 21.5	258 25.8	57 5.7	441 44.1
5.地域(行政)	1000 100.0	33 3.3	224 22.4	257 25.7	59 5.9	427 42.7

(表 3.3.1 教職員向けアンケート：環境教育の効果や影響)



(図 3.3.1 教職員向けアンケート：環境教育の効果や影響)

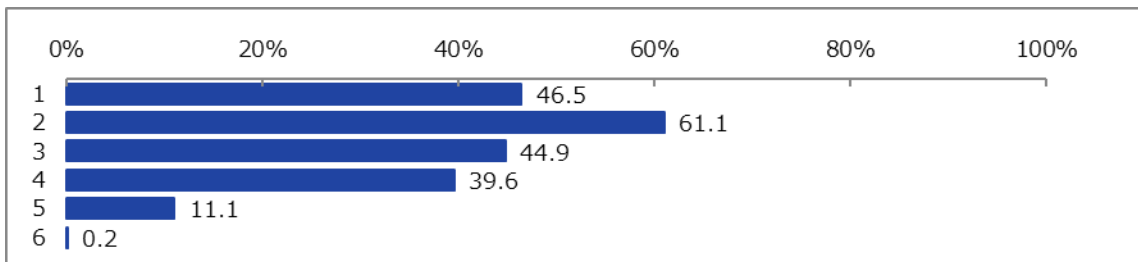
⑪ 【⑩で1学校（児童・生徒）、2保護者に「大きな効果・影響があった」「少し効果・影響があった」と回答した方】

それが感じられたのはどのようなことからでしょうか。（複数回答）

「ゴミ・資源に関する理解が進んだ（ごみの減量化・分別がきちんとされるようになった）」ことにより、学校（児童・生徒）、保護者に対し、環境教育の効果・影響を感じた方が最も多かった。

	n	%
全体	568	100.0
1 自然・生命に関する理解が進んだ	264	46.5
2 ゴミ・資源に関する理解が進んだ（ごみの減量化・分別がきちんとされるようになった）	347	61.1
3 エネルギー・地球温暖化に関する理解が進んだ（節電等の省エネに努める行動が多くなった）	255	44.9
4 ともに生きる社会（文化・生活の違いや個性など多様性を尊重した社会）に関する理解が進んだ	225	39.6
5 学校への要望に、環境教育に関連する内容が増えた	63	11.1
6 その他：	1	0.2

（表 3.3.2 教職員向けアンケート：環境教育の効果や影響の項目）



（図 3.3.2 教職員向けアンケート：環境教育の効果や影響の項目）

【6 その他】 記載内容 1 件
協力体制が確立した

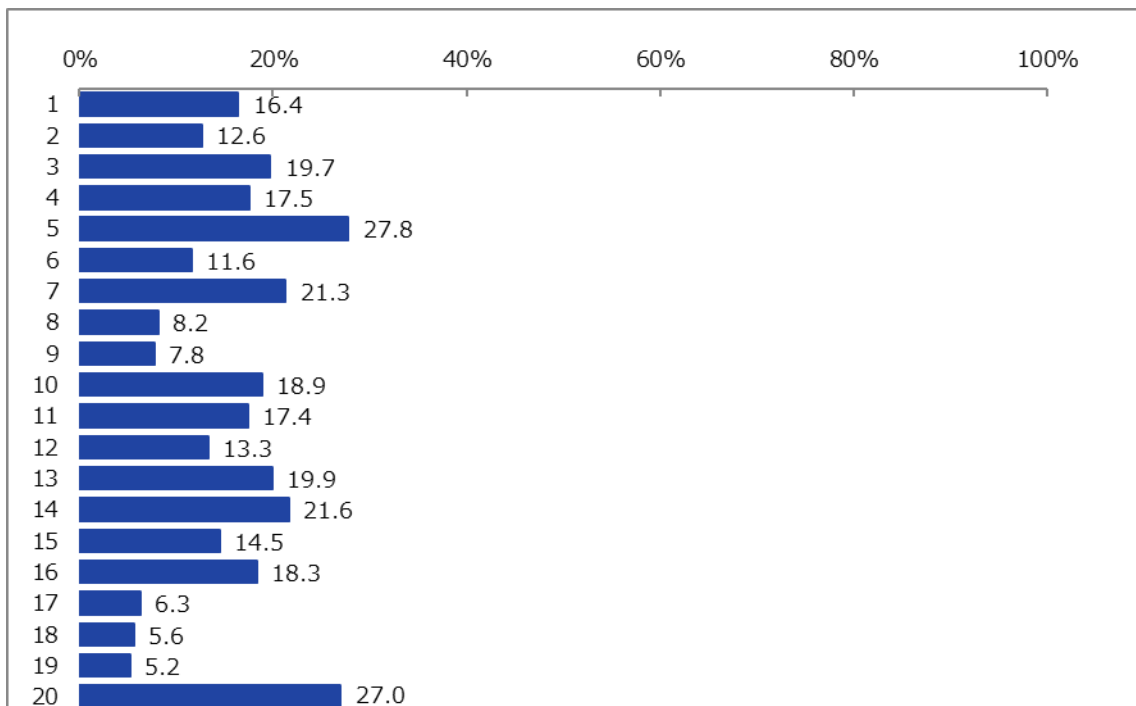
⑫ 「持続可能な開発目標(SDGs)」には以下のような17の目標が設定されています。これらの目標のうち、どの目標についてあなたご自身は教育を行ったことがありますか。(複数回答)

「5 ジェンダー平等を実現しよう」について教育を行った人が最も多かった。



	n	%
全体	1000	100.0
1 貧困をなくそう	164	16.4
2 飢餓をゼロに	126	12.6
3 すべての人に健康と福祉を	197	19.7
4 質の高い教育をみんなに	175	17.5
5 ジェンダー平等を実現しよう	278	27.8
6 安全な水とトイレを世界中に	116	11.6
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	213	21.3
8 働きがいも経済成長も	82	8.2
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	78	7.8
10 人や国の不平等をなくそう	189	18.9
11 住み続けられるまちづくりを	174	17.4
12 つくる責任つかう責任	133	13.3
13 気候変動に具体的な対策を	199	19.9
14 海の豊かさを守ろう	216	21.6
15 陸の豊かさを守ろう	145	14.5
16 平和と公正をすべての人に	183	18.3
17 パートナースHIPで目標を達成しよう	63	6.3
18 1～17の各目標のつながり・関係について	56	5.6
19 分からない	52	5.2
20 行ったことがない	270	27.0

(表 3.3.3 教職員向けアンケート：SDGs17の目標のうち、教育を行った目標)



(図 3.3.3 教職員向けアンケート：SDGs17の目標のうち、教育を行った目標)

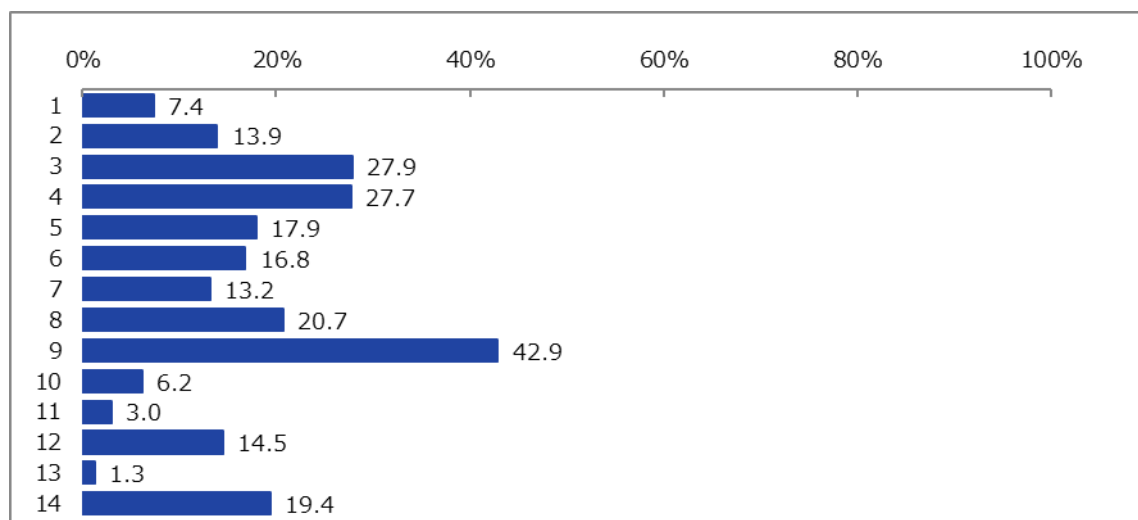
3-4 授業や学校活動で環境教育を行う際の課題

⑬ あなたが授業や学校活動で環境教育を行う際の課題は何ですか。(複数回答)

「授業時間の確保が難しい」が最も多く、次いで「適切な教材やプログラム等の準備ができない」、「カリキュラムマネジメントが難しい」という回答が多かった。

	n	%
全体	1000	100.0
1 取り上げるべき環境課題が分からない	74	7.4
2 教え方や取組方法が分からない	139	13.9
3 適切な教材やプログラム等の準備ができない	279	27.9
4 カリキュラムマネジメントが難しい	277	27.7
5 外部講師探し(人材が少ない)	179	17.9
6 学習の場探し(地域に学習に適した場所・見学できる施設等が少ない)	168	16.8
7 専門的な内容を相談できる場所がない	132	13.2
8 予算が少ない	207	20.7
9 授業時間の確保が難しい	429	42.9
10 安全面の確保が難しい	62	6.2
11 管理職の理解・協力が得られない	30	3.0
12 実施してみなければ分からないことが多い	145	14.5
13 その他:	13	1.3
14 特になし	194	19.4

(表 3.4.1 教職員向けアンケート：環境教育を行う際の課題)



(図 3.4.1 教職員向けアンケート：環境教育を行う際の課題)

【13 その他】記載内容 13 件

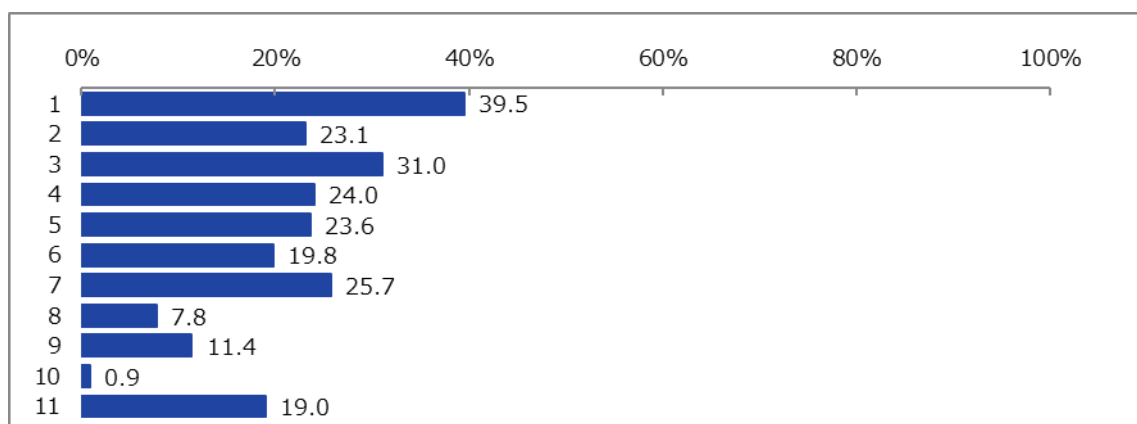
- ・コロナで外部と接触できなくなった。
- ・自分の教科との結びつきがない
- ・生徒の質
- ・密を避けなければならない
- ・偽善だと思う。
- ・そもそも学校で教えることなの
- ・より詳しい教育課程の作成
- ・教科との関連性
- ・想像以上に生徒の知識がない
- ・児童の理解力の判断
- ・教材準備に時間がかかる
- ・準備に時間が掛かる
- ・時間がない

⑭ 新型コロナウイルス感染拡大により「新しい生活様式」を踏まえた環境教育を実施する上での新たな課題は何ですか。(複数回答)

「感染拡大防止策の徹底」が最も多く、次いで「オンライン技術が不足している」であった。

	n	%
全体	1000	100.0
1 感染拡大防止策の徹底	395	39.5
2 対面の授業・プログラムが実施できない	231	23.1
3 オンラインの技術が不足している	310	31.0
4 オンラインでも実施可能な教材・プログラムが不足している	240	24.0
5 外部講師を呼ぶことができない	236	23.6
6 外部施設を利用することができない	198	19.8
7 環境教育に割ける時間がない	257	25.7
8 支援・助言をお願いできるところがない	78	7.8
9 地域との協力・連携が不足している	114	11.4
10 その他：	9	0.9
11 特になし	190	19.0

(表 3.4.2 教職員向けアンケート：「新しい生活様式」を踏まえた上での課題)



(図 3.4.2 教職員向けアンケート：「新しい生活様式」を踏まえた上での課題)

【10 その他】記載内容 9 件

コロナ

生徒の気持ち

予算

家にネットワークがない生徒がいること。

児童の変容・資質向上の把握

著作権問題

政府、官僚の認識のズレ

実体験

グループ活動などができない

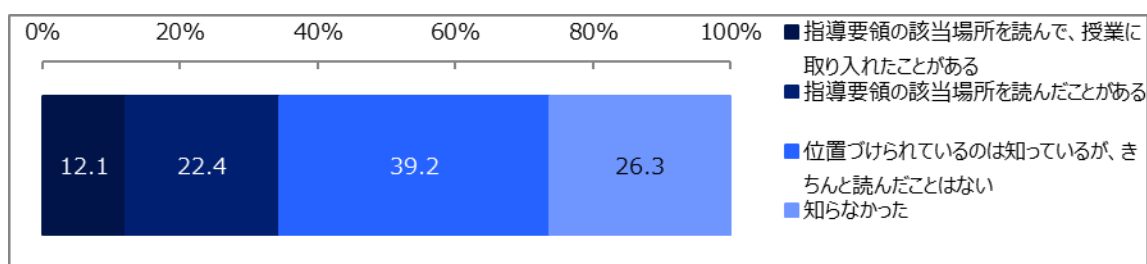
3-5 ESD（持続可能な開発のための教育）の位置付け

⑮ あなたは新学習指導要領に ESD（持続可能な開発のための教育）が位置付けられていることをご存じですか。

「位置づけられているのは知っているが、きちんと読んだことがない」という回答が最も多かった。

	n	%
全体	1000	100.0
1 指導要領の該当場所を読んで、授業に取り入れたことがある	121	12.1
2 指導要領の該当場所を読んだことがある	224	22.4
3 位置づけられているのは知っているが、きちんと読んだことはない	392	39.2
4 知らなかった	263	26.3

(表 3.5.1 教職員向けアンケート：ESD の認知)



(図 3.5.1 教職員向けアンケート：ESD の認知)

3-6 属性とのクロス集計結果

各設問の回答と属性データについてクロス集計を行った。

なお、表中の■は全体割合に対し+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下を表している。

(1) 属性

① 現在お勤めの教育課程を教えてください。

		n	小学校（学級担任を 持っている）	小学校（学級担任を 持っていない）	中学校（理科）	中学校（社会）	中学校（技術・家庭）	中学校（保健体育）	中学校（上記以外の 教科）	高等学校・中等教育 学校（理科）	高等学校・中等教育 学校（社会）	高等学校・中等教育 学校（技術・家庭）	高等学校・中等教育 学校（保健体育）	高等学校・中等教育 学校（上記以外の 教科）	それ以外の学校	現在は教員ではない
全体		1000	16.0	17.3	6.0	3.3	2.3	2.6	19.0	4.6	5.0	0.7	2.8	20.1	0.3	0.0
性別	男性	783	13.9	16.9	6.1	4.1	2.0	2.7	17.6	4.9	6.1	0.3	3.1	22.1	0.3	0.0
	女性	217	23.5	18.9	5.5	0.5	3.2	2.3	24.0	3.7	0.9	2.3	1.8	12.9	0.5	0.0
年代	20代	42	33.3	14.3	7.1	2.4	0.0	2.4	19.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21.4	0.0	0.0
	30代	162	27.2	13.0	7.4	0.0	1.9	3.7	22.8	2.5	2.5	0.0	4.9	14.2	0.0	0.0
	40代	237	15.2	16.0	6.8	3.8	3.4	2.5	20.3	3.4	6.3	1.3	2.1	19.0	0.0	0.0
	50代	354	14.1	16.4	5.6	4.5	2.5	2.3	16.1	6.5	5.4	0.6	2.3	23.4	0.3	0.0
	60代	205	7.8	24.4	4.4	3.4	1.5	2.4	19.5	5.4	5.9	1.0	3.4	20.0	1.0	0.0
	性年代	男性 20代	14	14.3	7.1	14.3	7.1	0.0	0.0	21.4	0.0	0.0	0.0	0.0	35.7	0.0
	男性 30代	94	30.9	5.3	5.3	0.0	1.1	5.3	21.3	2.1	4.3	0.0	6.4	18.1	0.0	0.0
	男性 40代	180	15.0	16.1	8.3	4.4	3.3	2.2	16.7	2.8	7.8	0.0	2.2	21.1	0.0	0.0
	男性 50代	299	12.4	16.1	5.7	5.4	2.3	2.7	15.4	6.7	6.0	0.3	2.3	24.4	0.3	0.0
	男性 60代	196	7.1	25.0	4.6	3.6	1.0	2.0	19.9	5.6	6.1	0.5	3.6	20.4	0.5	0.0
	女性 20代	28	42.9	17.9	3.6	0.0	0.0	3.6	17.9	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
	女性 30代	68	22.1	23.5	10.3	0.0	2.9	1.5	25.0	2.9	0.0	0.0	2.9	8.8	0.0	0.0
	女性 40代	57	15.8	15.8	1.8	1.8	3.5	3.5	31.6	5.3	1.8	5.3	1.8	12.3	0.0	0.0
	女性 50代	55	23.6	18.2	5.5	0.0	3.6	0.0	20.0	5.5	1.8	1.8	1.8	18.2	0.0	0.0
	女性 60代	9	22.2	11.1	0.0	0.0	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	11.1	0.0
割付	小学校	333	48.0	52.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中学校	332	0.0	0.0	18.1	9.9	6.9	7.8	57.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	高等学校・中等教育学校	332	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.9	15.1	2.1	8.4	60.5	0.0	0.0
	その他	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

(表 3.6.1.1 教職員向けアンケート クロス集計：教育課程)

(2) ESD や環境教育に対する意欲・取り組みについて

ESD (Education for Sustainable Development : 持続可能な開発のための教育)

とは、持続可能な社会を作るために、環境や開発、エネルギーなどの地球規模の課題を自らの問題として捉え、身近なところから行動を起こす力を身につけることを目指す教育のことです。

② ESD (持続可能な開発のための教育) や環境教育の実施に対して、あなたご自身の意欲はどの程度ですか。

		n	意欲は高い	どちらかといえは意欲は高い	どちらかといえは意欲は低い	意欲は低い	分からない
全体		1000	12.0	41.5	24.6	9.8	12.1
性別	男性	783	12.9	41.0	24.3	10.5	11.4
	女性	217	8.8	43.3	25.8	7.4	14.7
年代	20代	42	11.9	38.1	26.2	16.7	7.1
	30代	162	12.3	42.6	27.2	8.6	9.3
	40代	237	12.7	47.3	18.1	8.0	13.9
	50代	354	11.6	38.1	26.0	10.5	13.8
	60代	205	11.7	40.5	27.3	10.2	10.2
性年代	男性 20代	14	14.3	57.1	14.3	7.1	7.1
	男性 30代	94	17.0	43.6	22.3	9.6	7.4
	男性 40代	180	13.9	45.6	19.4	10.0	11.1
	男性 50代	299	11.7	36.8	26.4	11.4	13.7
	男性 60代	196	11.7	40.8	27.0	10.2	10.2
	女性 20代	28	10.7	28.6	32.1	21.4	7.1
	女性 30代	68	5.9	41.2	33.8	7.4	11.8
	女性 40代	57	8.8	52.6	14.0	1.8	22.8
	女性 50代	55	10.9	45.5	23.6	5.5	14.5
女性 60代	9	11.1	33.3	33.3	11.1	11.1	
割付	小学校	333	13.5	39.6	27.3	7.5	12.0
	中学校	332	11.1	47.3	20.5	8.1	13.0
	高等学校・中等教育学校	332	11.4	37.7	25.6	13.9	11.4
	その他	3	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0

(表 3.6.2.1 教職員向けアンケート クロス集計：実施の意欲)

③ ESD（持続可能な開発のための教育）の視点を踏まえた上で、どのような内容の環境教育を行っていますか。（複数回答）

	分	から	ない
環境教育に関する教科を担当していない	18.3	21.5	18.3
環境、経済、社会のつながりに関すること	23.4	11.0	23.4
海外の環境問題に関すること	14.7	13.4	14.7
日常生活の身近な暮らしが世界とつながっていること	7.1	11.9	9.5
地域の産業や文化の継承・発展に関すること	14.8	17.3	8.6
環境に配慮した生活の仕方に関すること	17.9	16.5	19.1
環境が心身の健康に与える影響に関すること	17.7	16.5	20.3
重なる文化や先住民の生活の慣習を尊重すること	23.4	14.1	20.9
節水や節電に関すること	29.8	32.2	28.3
太陽光・利用風力に関する新しいエネルギーの開発	21.4	17.1	21.4
大気汚染や酸性雨に関すること	27.3	29.4	28.6
地球温暖化問題やアースフレンドリーな製品など	29.7	34.0	28.6
ごみや落ち葉などから堆肥をつくること	10.7	10.9	10.7
レジ袋や不必要な包装の削減など	25.7	24.4	25.7
ゴミの分別・資源の循環に関する取り組み	47.9	48.4	47.9
食料の生産から消費までの持続可能な生産	30.8	31.4	30.8
動植物や自然に触れ親しむこと	17.9	16.3	17.9
地域の特産品に関すること	16.8	15.1	16.8
ご近所のおそれのある野生生物に関すること	13.7	8.8	13.7
生命の尊さや自然の大切さに関すること	41.1	44.7	41.1
身近な地域の自然環境に関すること	37.9	38.5	37.9
森林破壊や海洋汚染など地球環境に関すること	31.9	28.6	31.9
全体	1000	783	217
性別	男性	32.8	28.6
女性	38.6	44.7	35.5
年代	20代	14.3	14.3
30代	28.6	45.2	40.7
40代	40.1	40.5	35.0
50代	23.7	34.7	33.1
60代	205	36.6	46.3
性別	男性	7.1	21.4
女性	42.9	7.1	42.9
年代	20代	34.0	42.6
30代	36.1	38.9	33.3
40代	30.0	34.1	35.8
50代	299	33.1	34.1
60代	196	35.7	46.9
性別	男性	17.9	32.1
女性	32.1	46.4	36.2
年代	20代	38.2	45.5
30代	30.9	38.2	33.3
40代	55.6	33.3	55.6
50代	33.3	33.3	33.3
60代	9	33.3	33.3
小学校	333	36.6	45.0
中学校	332	31.9	38.6
高等学校	332	27.1	30.1
その他	3	33.3	33.3

(表 3.6.2.2 教職員向けアンケート クロス集計：ESD を踏まえた環境教育)

④ あなたが環境教育を行うに当たり活用しているものは何ですか。(複数回答)

	n	教科書	副読本	環境関連の書籍等	新聞記事	DVD等の映像資料	インターネット上の映像資料	インターネットでの検索結果	学校内のポスター	地域の自然環境	地域の公民館や図書館	会館や博物館や科学館等の施設	ごみ焼却施設、産業廃棄物処理施設、リサイクル工場等	再生可能エネルギー発電施設(風力、太陽光)	企業や工場	大学・研究機関の専門機関による出張講座	地域の方への聞き取り、ゲストティーチャー	その他	特になし	
全体	1000	50.8	28.4	16.7	30.9	14.7	39.5	28.1	4.1	15.1	5.7	7.5	9.8	5.7	4.8	4.8	7.7	0.9	19.5	
性別	男性	783	52.6	28.5	18.1	31.9	14.8	39.3	29.1	3.4	14.3	5.6	7.3	9.5	6.3	5.1	5.1	8.4	1.1	18.6
	女性	217	44.2	28.1	11.5	27.2	14.3	40.1	24.4	6.5	18.0	6.0	8.3	11.1	3.7	3.7	3.7	5.1	0.0	22.6
年代	20代	42	50.0	31.0	7.1	16.7	14.3	42.9	21.4	7.1	23.8	2.4	9.5	11.9	7.1	0.0	4.8	2.4	0.0	21.4
	30代	162	52.5	30.2	14.8	26.5	14.8	43.2	25.9	6.2	11.7	7.4	7.4	9.9	3.1	3.1	4.3	9.3	0.6	25.9
	40代	237	51.5	32.5	17.3	30.0	13.5	38.0	27.0	4.6	16.5	5.1	4.6	9.7	3.8	5.5	4.6	5.9	0.8	16.5
	50代	354	49.7	23.2	15.5	31.9	13.3	39.0	31.1	2.3	13.3	5.4	7.6	9.6	8.2	4.8	5.9	7.6	1.7	18.6
	60代	205	50.7	30.7	21.5	36.6	18.5	38.5	27.3	4.4	17.6	6.3	10.2	9.8	5.4	6.3	3.4	9.8	0.0	19.0
	その他	14	35.7	28.6	0.0	21.4	7.1	57.1	28.6	7.1	21.4	0.0	7.1	7.1	7.1	0.0	7.1	0.0	0.0	14.3
性年代	男性 20代	94	59.6	31.9	18.1	31.9	17.0	45.7	28.7	6.4	13.8	8.5	8.5	8.5	4.3	2.1	5.3	12.8	1.1	20.2
	男性 30代	180	56.1	33.9	20.6	29.4	13.3	36.7	26.7	3.3	14.4	3.9	3.9	10.0	4.4	5.6	5.0	6.7	1.1	16.1
	男性 40代	299	50.5	22.7	15.1	31.1	13.0	38.5	31.8	1.7	12.0	5.4	7.0	9.4	8.4	5.0	6.0	7.7	2.0	19.4
	男性 50代	196	50.5	30.6	21.9	36.2	18.4	38.8	27.6	4.6	17.3	6.6	10.2	9.7	5.6	6.6	3.6	9.7	0.0	19.4
	男性 60代	28	57.1	32.1	10.7	14.3	17.9	35.7	17.9	7.1	25.0	3.6	10.7	14.3	7.1	0.0	3.6	3.6	0.0	25.0
	女性 20代	68	42.6	27.9	10.3	19.1	11.8	39.7	22.1	5.9	8.8	5.9	5.9	11.8	1.5	4.4	2.9	4.4	0.0	33.8
	女性 30代	57	36.8	28.1	7.0	31.6	14.0	42.1	28.1	8.8	22.8	8.8	7.0	8.8	1.8	5.3	3.5	3.5	0.0	17.5
	女性 40代	55	45.5	25.5	18.2	36.4	14.5	41.8	27.3	5.5	20.0	5.5	10.9	10.9	7.3	3.6	5.5	7.3	0.0	14.5
	女性 50代	9	55.6	33.3	11.1	44.4	22.2	33.3	22.2	0.0	22.2	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1
	女性 60代	333	55.6	36.9	23.1	30.3	15.0	47.7	29.7	6.3	23.7	9.0	10.5	22.5	5.7	6.9	3.6	12.9	0.9	14.7
副付	中学校	332	50.0	24.4	13.6	29.5	16.6	42.5	25.3	3.9	13.9	4.2	8.4	4.2	4.8	3.0	5.7	6.6	0.6	18.7
	高等学校・中等教育学校	332	47.0	24.1	13.6	32.5	12.7	28.3	29.2	2.1	7.5	3.9	3.3	2.4	6.6	4.2	5.1	3.6	1.2	25.3
	その他	3	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

(表 3.6.2.3 教職員向けアンケート クロス集計：環境教育を行うに当たり活用しているもの)

⑤ 環境教育に取り組む際に地域・NPO・企業等との協力・連携はありますか。

『小学校』教員の方が企業等と協力する機会が多く、『高等学校』教員は少なくなる傾向があった。

		n	行 つ て い る	継 続 的 に 協 力 ・ 住 民 ・ N P O ・ 企 業 等 と	町 内 会 や 地 域 に あ る 協 力 ・ N P O ・ 企 業 等 と	単 発 的 に あ る 協 力 ・ N P O ・ 企 業 等 と	町 内 会 や 地 域 に あ る 協 力 ・ N P O ・ 企 業 等 と	ら 町 内 情 報 提 供 の 機 会 を 受 け て い る 企 業 等 か	く 具 体 的 に あ る 協 力 ・ 連 携 は な い が 理 解 し て	協 力 ・ 連 携 は な い	分 か ら な い
全体		1000	7.6	12.1	4.7	14.2	47.2	14.2			
性別	男性	783	7.9	12.4	4.9	14.7	48.4	11.7			
	女性	217	6.5	11.1	4.1	12.4	42.9	23.0			
年代	20代	42	14.3	14.3	4.8	14.3	33.3	19.0			
	30代	162	3.7	13.0	5.6	12.3	44.4	21.0			
	40代	237	8.0	12.2	4.6	12.2	48.1	14.8			
	50代	354	7.3	11.3	5.1	12.7	50.8	12.7			
	60代	205	9.3	12.2	3.4	20.5	44.9	9.8			
性年代	男性 20代	14	14.3	21.4	7.1	21.4	21.4	14.3			
	男性 30代	94	4.3	13.8	6.4	14.9	45.7	14.9			
	男性 40代	180	10.0	12.2	4.4	11.1	52.2	10.0			
	男性 50代	299	6.7	11.7	5.7	12.0	51.2	12.7			
	男性 60代	196	9.2	12.2	3.1	21.4	43.9	10.2			
	女性 20代	28	14.3	10.7	3.6	10.7	39.3	21.4			
	女性 30代	68	2.9	11.8	4.4	8.8	42.6	29.4			
	女性 40代	57	1.8	12.3	5.3	15.8	35.1	29.8			
	女性 50代	55	10.9	9.1	1.8	16.4	49.1	12.7			
女性 60代	9	11.1	11.1	11.1	0.0	66.7	0.0				
割付	小学校	333	10.2	18.3	6.3	16.2	35.1	13.8			
	中学校	332	8.4	10.8	4.8	13.9	47.6	14.5			
	高等学校・中等教育学校	332	4.2	6.9	3.0	12.7	58.7	14.5			
	その他	3	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0			

(表 3.6.2.4 教職員向けアンケート クロス集計：各団体との協力・連携の有無)

⑥ 環境教育のどのような段階で地域・NPO・企業等と協力・連携する機会がありますか。(複数回答)

		n	環境教育の企画	環境教育の実施	環境教育の実施後の評価	分からない
全体		244	42.6	77.9	15.6	5.7
性別	男性	197	44.2	78.2	15.2	5.6
	女性	47	36.2	76.6	17.0	6.4
年代	20代	14	42.9	71.4	21.4	7.1
	30代	36	47.2	80.6	19.4	0.0
	40代	59	54.2	69.5	6.8	6.8
	50代	84	36.9	79.8	23.8	7.1
	60代	51	35.3	84.3	7.8	5.9
性年代	男性 20代	6	66.7	66.7	16.7	0.0
	男性 30代	23	47.8	82.6	17.4	0.0
	男性 40代	48	62.5	68.8	4.2	8.3
	男性 50代	72	34.7	80.6	26.4	5.6
	男性 60代	48	35.4	83.3	8.3	6.3
	女性 20代	8	25.0	75.0	25.0	12.5
	女性 30代	13	46.2	76.9	23.1	0.0
	女性 40代	11	18.2	72.7	18.2	0.0
	女性 50代	12	50.0	75.0	8.3	16.7
女性 60代	3	33.3	100.0	0.0	0.0	
割付	小学校	116	42.2	82.8	12.9	5.2
	中学校	80	42.5	77.5	18.8	3.8
	高等学校・中等教育学校	47	44.7	66.0	17.0	10.6
	その他	1	0.0	100.0	0.0	0.0

(表 3. 6. 2. 5 教職員向けアンケート クロス集計：各団体との協力・連携の段階)

⑦ 環境教育に取り組む際に、地域・NPO・企業等と協力・連携するための指針やガイドラインはありますか

		n	環境に関する指針がある	環境に限り、ガイドラインを定めたい	指針やガイドラインはない	分からない
全体		1000	3.9	11.5	58.3	26.3
性別	男性	783	3.7	11.6	61.7	23.0
	女性	217	4.6	11.1	46.1	38.2
年代	20代	42	2.4	26.2	40.5	31.0
	30代	162	3.7	13.0	45.7	37.7
	40代	237	3.4	10.5	59.5	26.6
	50代	354	4.0	9.0	63.3	23.7
	60代	205	4.9	12.7	62.0	20.5
性年代	男性 20代	14	0.0	28.6	35.7	35.7
	男性 30代	94	4.3	13.8	51.1	30.9
	男性 40代	180	3.3	10.6	64.4	21.7
	男性 50代	299	3.3	9.7	64.9	22.1
	男性 60代	196	4.6	13.3	61.2	20.9
	女性 20代	28	3.6	25.0	42.9	28.6
	女性 30代	68	2.9	11.8	38.2	47.1
	女性 40代	57	3.5	10.5	43.9	42.1
	女性 50代	55	7.3	5.5	54.5	32.7
女性 60代	9	11.1	0.0	77.8	11.1	
割付	小学校	333	4.8	15.0	53.8	26.4
	中学校	332	3.9	13.0	54.2	28.9
	高等学校・中等教育学校	332	3.0	6.6	66.6	23.8
	その他	3	0.0	0.0	100.0	0.0

(表 3.6.2.6 教職員向けアンケート クロス集計：指針やガイドラインの有無)

⑧ 地域・NPO・企業等と協力・連携して良かった点は何ですか。(複数回答)

		n	り N 地 が P 域 持 O 住 て等民 たとの つ企 つ業 な・ が	た学 びの 質が 高くな つ	き準 た備 の時 間が 短縮 で	特 にな し	分 から ない
全体		244	51.6	69.7	16.0	2.9	3.7
性別	男性	197	54.3	67.0	15.7	2.5	4.6
	女性	47	40.4	80.9	17.0	4.3	0.0
年代	20代	14	35.7	71.4	28.6	7.1	0.0
	30代	36	50.0	80.6	27.8	2.8	2.8
	40代	59	50.8	67.8	8.5	5.1	5.1
	50代	84	59.5	66.7	14.3	1.2	1.2
	60代	51	45.1	68.6	15.7	2.0	7.8
性年代	男性 20代	6	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0
	男性 30代	23	56.5	82.6	26.1	4.3	4.3
	男性 40代	48	54.2	64.6	8.3	4.2	6.3
	男性 50代	72	61.1	63.9	15.3	1.4	1.4
	男性 60代	48	45.8	66.7	16.7	2.1	8.3
	女性 20代	8	37.5	75.0	25.0	12.5	0.0
	女性 30代	13	38.5	76.9	30.8	0.0	0.0
	女性 40代	11	36.4	81.8	9.1	9.1	0.0
	女性 50代	12	50.0	83.3	8.3	0.0	0.0
	女性 60代	3	33.3	100.0	0.0	0.0	0.0
割付	小学校	116	49.1	75.9	21.6	1.7	5.2
	中学校	80	53.8	68.8	11.3	3.8	0.0
	高等学校・中等教育学校	47	55.3	55.3	10.6	4.3	6.4
	その他	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

(表 3.6.2.7 教職員向けアンケート クロス集計：協力・連携の利点)

⑨ 地域・NPO・企業等と協力・連携してデメリットはありましたか。(複数回答)

		n	調整に時間・手間がかかった	ネットコミュニケーションが難しくかった	意思疎通が難しかった	目的や期待することにあっただけ	予想が確保できなかった	イメージ以上に費用がかかった	満足した結果が得られなかった	特になし	分からない
全体		244	47.5	23.4	25.0	10.7	3.7	23.4	3.7		
性別	男性	197	45.2	21.8	25.4	10.2	4.1	24.9	4.1		
	女性	47	57.4	29.8	23.4	12.8	2.1	17.0	2.1		
年代	20代	14	57.1	57.1	35.7	14.3	7.1	0.0	0.0		
	30代	36	61.1	38.9	36.1	16.7	2.8	11.1	5.6		
	40代	59	39.0	25.4	18.6	13.6	3.4	25.4	6.8		
	50代	84	47.6	11.9	20.2	4.8	3.6	28.6	2.4		
	60代	51	45.1	19.6	29.4	11.8	3.9	27.5	2.0		
性年代	男性 20代	6	33.3	66.7	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0		
	男性 30代	23	56.5	39.1	39.1	17.4	4.3	13.0	8.7		
	男性 40代	48	35.4	25.0	16.7	12.5	4.2	29.2	8.3		
	男性 50代	72	48.6	11.1	22.2	4.2	4.2	27.8	1.4		
	男性 60代	48	45.8	20.8	31.3	12.5	4.2	25.0	2.1		
	女性 20代	8	75.0	50.0	37.5	12.5	12.5	0.0	0.0		
	女性 30代	13	69.2	38.5	30.8	15.4	0.0	7.7	0.0		
	女性 40代	11	54.5	27.3	27.3	18.2	0.0	9.1	0.0		
割付	小学校	116	50.0	15.5	25.0	13.8	5.2	23.3	3.4		
	中学校	80	50.0	32.5	21.3	7.5	1.3	22.5	0.0		
	高等学校・中等教育学校	47	36.2	27.7	31.9	8.5	4.3	25.5	10.6		
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

(表 3.6.2.8 教職員向けアンケート クロス集計：協力・連携のデメリット)

(3) 環境教育に対する、学校、保護者、地域への効果や影響（昔(おおむね5年前)と現在を比べて)

⑩ あなたは昔(おおむね5年前)と比べて、環境教育の実施により学校、保護者、地域に対し、効果や影響はあったと思いますか。

1. 学校（児童・生徒）

		n	あった大きな効果・影響が	少し効果・影響が	あまり効果・影響はない	全く効果・影響はない	わからない・把握し
全体		1000	11.3	44.6	14.6	2.9	26.6
性別	男性	783	11.6	45.0	15.8	3.3	24.3
	女性	217	10.1	43.3	10.1	1.4	35.0
年代	20代	42	11.9	42.9	11.9	2.4	31.0
	30代	162	13.0	41.4	13.6	1.9	30.2
	40代	237	10.5	38.4	17.7	3.8	29.5
	50代	354	13.0	44.4	14.1	2.8	25.7
	60代	205	7.8	55.1	13.2	2.9	21.0
性年代	男性 20代	14	7.1	64.3	14.3	0.0	14.3
	男性 30代	94	18.1	38.3	17.0	2.1	24.5
	男性 40代	180	10.0	40.6	18.3	5.0	26.1
	男性 50代	299	13.0	42.5	15.7	3.0	25.8
	男性 60代	196	8.2	54.6	13.3	3.1	20.9
	女性 20代	28	14.3	32.1	10.7	3.6	39.3
	女性 30代	68	5.9	45.6	8.8	1.5	38.2
	女性 40代	57	12.3	31.6	15.8	0.0	40.4
	女性 50代	55	12.7	54.5	5.5	1.8	25.5
女性 60代	9	0.0	66.7	11.1	0.0	22.2	
割付	小学校	333	14.7	49.8	11.1	0.6	23.7
	中学校	332	11.1	47.0	14.5	3.6	23.8
	高等学校・中等教育学校	332	8.1	37.3	18.4	4.2	31.9
	その他	3	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7

(表 3.6.3.1 教職員向けアンケート クロス集計：児童・生徒への環境教育の効果・影響)

2. 保護者

		n	あ つ た あ つ た	大 き な 効 果 ・ 影 響 が	あ つ た あ つ た	少 し 効 果 ・ 影 響 が	な い あ ま り 効 果 ・ 影 響 は	い 全 く 効 果 ・ 影 響 は な	て わ い か ら な い ・ 把 握 し
全体		1000	2.4	25.1	28.8	5.5	38.2		
性別	男性	783	2.7	25.4	30.3	6.4	35.2		
	女性	217	1.4	24.0	23.5	2.3	48.8		
年代	20代	42	11.9	21.4	23.8	4.8	38.1		
	30代	162	4.3	24.1	27.2	4.3	40.1		
	40代	237	1.7	24.5	27.0	6.3	40.5		
	50代	354	1.4	22.9	31.4	5.9	38.4		
	60代	205	1.5	31.2	28.8	4.9	33.7		
性年代	男性 20代	14	21.4	21.4	28.6	0.0	28.6		
	男性 30代	94	7.4	23.4	28.7	7.4	33.0		
	男性 40代	180	1.7	26.1	28.3	7.8	36.1		
	男性 50代	299	1.7	22.1	32.8	6.4	37.1		
	男性 60代	196	1.5	31.1	29.1	5.1	33.2		
	女性 20代	28	7.1	21.4	21.4	7.1	42.9		
	女性 30代	68	0.0	25.0	25.0	0.0	50.0		
	女性 40代	57	1.8	19.3	22.8	1.8	54.4		
	女性 50代	55	0.0	27.3	23.6	3.6	45.5		
	女性 60代	9	0.0	33.3	22.2	0.0	44.4		
割付	小学校	333	3.6	30.9	27.9	3.6	33.9		
	中学校	332	2.4	24.4	29.8	5.1	38.3		
	高等学校・中等教育学校	332	1.2	20.2	28.9	7.5	42.2		
	その他	3	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7		

(表 3.6.3.2 教職員向けアンケート クロス集計：保護者への環境教育の効果・影響)

3. 地域（住民等）

		n	あ っ た	あ っ た	な い	い 全 く	て わ い か ら な い ・ 把 握 し
			大 き な 効 果 ・ 影 響 が	少 し 効 果 ・ 影 響 が	あ ま り 効 果 ・ 影 響 は	全 く 効 果 ・ 影 響 は な	い か ら な い ・ 把 握 し
全体		1000	3.8	23.4	26.1	5.0	41.7
性別	男性	783	4.3	24.6	26.7	5.5	38.8
	女性	217	1.8	18.9	24.0	3.2	52.1
年代	20代	42	9.5	26.2	19.0	7.1	38.1
	30代	162	5.6	22.2	25.9	2.5	43.8
	40代	237	3.0	20.7	24.5	5.5	46.4
	50代	354	3.1	23.2	26.6	5.9	41.2
	60代	205	3.4	27.3	28.8	4.4	36.1
性年代	男性 20代	14	21.4	35.7	7.1	7.1	28.6
	男性 30代	94	8.5	24.5	25.5	4.3	37.2
	男性 40代	180	3.3	22.8	25.0	6.1	42.8
	男性 50代	299	3.3	22.7	27.8	6.4	39.8
	男性 60代	196	3.6	28.6	28.6	4.1	35.2
	女性 20代	28	3.6	21.4	25.0	7.1	42.9
	女性 30代	68	1.5	19.1	26.5	0.0	52.9
	女性 40代	57	1.8	14.0	22.8	3.5	57.9
	女性 50代	55	1.8	25.5	20.0	3.6	49.1
女性 60代	9	0.0	0.0	33.3	11.1	55.6	
割付	小学校	333	4.5	25.5	29.4	3.0	37.5
	中学校	332	4.2	24.4	24.1	6.0	41.3
	高等学校・中等教育学校	332	2.7	20.5	25.0	5.7	46.1
	その他	3	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7

(表 3.6.3.3 教職員向けアンケート クロス集計：地域住民等への環境教育の効果・影響)

4. 地域（企業）

		n	あ っ た	あ っ た	な い	い 全 く	て わ い か ら な い ・ 把 握 し
			大 き な 効 果 ・ 影 響 が	少 し 効 果 ・ 影 響 が	あ ま り 効 果 ・ 影 響 は	全 く 効 果 ・ 影 響 は な	い か ら な い ・ 把 握 し
全体		1000	2.9	21.5	25.8	5.7	44.1
性別	男性	783	3.1	22.2	26.9	6.3	41.5
	女性	217	2.3	18.9	21.7	3.7	53.5
年代	20代	42	7.1	16.7	26.2	4.8	45.2
	30代	162	5.6	22.8	25.3	4.3	42.0
	40代	237	1.7	20.7	23.2	5.9	48.5
	50代	354	2.5	21.5	26.0	5.9	44.1
	60代	205	2.0	22.4	28.8	6.3	40.5
性年代	男性 20代	14	7.1	7.1	35.7	0.0	50.0
	男性 30代	94	8.5	26.6	24.5	6.4	34.0
	男性 40代	180	2.2	21.1	24.4	6.7	45.6
	男性 50代	299	2.3	21.4	27.8	6.4	42.1
	男性 60代	196	2.0	23.5	28.6	6.1	39.8
	女性 20代	28	7.1	21.4	21.4	7.1	42.9
	女性 30代	68	1.5	17.6	26.5	1.5	52.9
	女性 40代	57	0.0	19.3	19.3	3.5	57.9
	女性 50代	55	3.6	21.8	16.4	3.6	54.5
女性 60代	9	0.0	0.0	33.3	11.1	55.6	
割付	小学校	333	3.0	24.3	28.2	2.7	41.7
	中学校	332	2.7	20.5	25.9	7.2	43.7
	高等学校・中等教育学校	332	3.0	19.9	23.5	6.9	46.7
	その他	3	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7

(表 3.6.3.4 教職員向けアンケート クロス集計：企業への環境教育の効果・影響)

5. 地域（行政）

		n	あ っ た	大 き な 効 果 ・ 影 響 が	あ っ た	少 し 効 果 ・ 影 響 が	な い	あ ま り 効 果 ・ 影 響 は	い 全 く 効 果 ・ 影 響 は な	て わ い か ら な い ・ 把 握 し
全体		1000	3.3		22.4		25.7		5.9	42.7
性別	男性	783	3.6		23.8		26.3		6.5	39.8
	女性	217	2.3		17.5		23.5		3.7	53.0
年代	20代	42	7.1		23.8		21.4		4.8	42.9
	30代	162	6.2		19.8		25.3		5.6	43.2
	40代	237	1.7		19.4		25.3		5.9	47.7
	50代	354	4.0		22.0		26.3		6.5	41.2
	60代	205	1.0		28.3		26.3		5.4	39.0
性年代	男性 20代	14	7.1		35.7		14.3		0.0	42.9
	男性 30代	94	8.5		23.4		25.5		7.4	35.1
	男性 40代	180	2.2		20.6		25.6		7.2	44.4
	男性 50代	299	4.3		21.4		28.1		6.7	39.5
	男性 60代	196	1.0		29.6		25.5		5.6	38.3
	女性 20代	28	7.1		17.9		25.0		7.1	42.9
	女性 30代	68	2.9		14.7		25.0		2.9	54.4
	女性 40代	57	0.0		15.8		24.6		1.8	57.9
	女性 50代	55	1.8		25.5		16.4		5.5	50.9
女性 60代	9	0.0		0.0		44.4		0.0	55.6	
割付	小学校	333	3.6		22.5		29.4		3.6	40.8
	中学校	332	3.3		25.9		23.2		6.9	40.7
	高等学校・中等教育学校	332	3.0		19.0		24.7		6.9	46.4
	その他	3	0.0		0.0		0.0		33.3	66.7

(表 3.6.3.5 教職員向けアンケート クロス集計：行政への環境教育の効果・影響)

⑪ 【⑩で学校、2保護者に「大きな効果・影響があった」「少し効果・影響があった」と回答した方】

それが感じられたのはどのようなことからでしょうか。(複数回答)

		n	自然・生命に関する理解が進んだ	うみ・量・資源に分別がきちんとしてられる(ごみ減量化)	動が多くなつた(節電等)	がんだ(節電等の省エネに努める)	エネルギー・地球温暖化に関する理解	関する理解が進んだ	や個性など多様性を尊重した社会の違い	ともに生きる社会(文化・生活の違い)	内容が増えた	学校への要望に、環境教育に関連する	その他:
全体		568	46.5	61.1	44.9	39.6	11.1	0.2					
性別	男性	450	46.0	59.1	44.9	38.7	11.6	0.2					
	女性	118	48.3	68.6	44.9	43.2	9.3	0.0					
年代	20代	24	41.7	54.2	37.5	41.7	8.3	0.0					
	30代	88	58.0	63.6	48.9	47.7	10.2	0.0					
	40代	120	47.5	61.7	44.2	35.0	10.0	0.0					
	50代	205	43.4	60.0	41.5	37.6	10.2	0.0					
	60代	131	43.5	61.8	49.6	41.2	14.5	0.8					
性年代	男性 20代	11	27.3	45.5	27.3	36.4	18.2	0.0					
	男性 30代	53	66.0	62.3	45.3	56.6	9.4	0.0					
	男性 40代	93	48.4	60.2	46.2	34.4	10.8	0.0					
	男性 50代	168	42.9	56.5	41.7	33.9	10.7	0.0					
	男性 60代	125	41.6	61.6	49.6	40.8	13.6	0.8					
	女性 20代	13	53.8	61.5	46.2	46.2	0.0	0.0					
	女性 30代	35	45.7	65.7	54.3	34.3	11.4	0.0					
	女性 40代	27	44.4	66.7	37.0	37.0	7.4	0.0					
	女性 50代	37	45.9	75.7	40.5	54.1	8.1	0.0					
	女性 60代	6	83.3	66.7	50.0	50.0	33.3	0.0					
割付	小学校	217	49.8	62.7	41.5	34.6	11.5	0.5					
	中学校	198	45.5	60.6	47.5	43.9	12.6	0.0					
	高等学校・中等教育学校	153	43.1	59.5	46.4	41.2	8.5	0.0					
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				

(表 3.6.3.6 教職員向けアンケート クロス集計：保護者への効果・影響の項目)

⑫ 「持続可能な開発目標(SDGs)」には以下のような17の目標が設定されています。これらの目標のうち、どの目標についてあなたご自身は教育を行ったことがありますか。(複数回答)

	n	貧困をなくそう	飢餓をゼロに	福祉をすべての人に健康と豊かに高い教育をみんなに	現しよう	世界安全	ににエ	も働	器産	くそ	づ住	任	対気	海	陸	の平	目バ	いつ	分	行
全体	1000	16.4	12.6	19.7	17.5	27.8	11.6	8.2	7.8	18.9	17.4	13.3	19.9	21.6	14.5	18.3	6.3	5.6	5.2	27.0
性別																				
	783	16.5	12.8	19.2	18.1	25.9	11.9	8.2	8.7	19.0	18.4	13.8	20.8	21.8	14.8	18.3	6.4	5.9	4.9	26.6
	217	16.1	12.0	21.7	15.2	34.6	10.6	5.1	4.6	18.4	13.8	11.5	16.6	20.7	13.4	18.4	6.0	4.6	6.5	28.6
年代																				
	42	9.5	9.5	28.6	21.4	31.0	4.8	4.8	7.1	11.9	23.8	14.3	9.5	21.4	16.7	19.0	4.8	7.1	4.8	16.7
	162	17.9	14.2	20.4	14.2	30.9	9.9	14.2	6.8	8.0	19.8	16.7	15.4	20.4	14.2	14.8	4.9	3.7	4.9	29.0
	237	20.7	16.5	20.3	21.5	31.6	10.1	9.7	8.0	21.1	18.6	15.2	18.6	21.1	16.0	20.3	8.9	7.6	4.2	25.3
	354	13.6	10.5	18.1	15.5	25.4	11.3	24.3	7.1	6.8	17.8	15.8	21.5	22.9	14.4	18.1	5.4	5.1	7.1	27.4
	205	16.6	11.2	19.5	18.0	24.4	16.6	25.9	10.2	9.3	19.0	18.0	21.4	21.0	12.7	19.0	6.3	5.4	3.4	28.8
性年代																				
	14	7.1	14.3	21.4	21.4	21.4	0.0	21.4	7.1	0.0	21.4	21.4	7.1	21.4	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0	14.3
	94	25.5	20.2	22.3	18.1	36.2	12.8	10.6	12.8	25.5	18.1	13.8	16.0	23.4	16.0	19.1	7.4	5.3	3.2	22.3
	180	17.8	16.1	18.3	23.3	28.3	9.4	21.1	10.6	8.3	20.0	21.1	15.6	19.4	17.2	17.2	8.3	8.3	3.3	26.7
	299	13.0	9.7	18.7	14.7	22.4	10.4	7.4	7.4	16.7	16.4	12.4	21.1	21.7	14.7	18.4	5.0	5.0	7.4	27.8
	196	16.8	10.7	18.9	18.4	24.5	16.8	10.2	9.2	19.9	18.9	13.8	25.0	20.9	13.3	19.4	6.1	5.6	3.6	27.6
	28	10.7	7.1	32.1	21.4	35.7	7.1	7.1	7.1	17.9	25.0	10.7	10.7	21.4	25.0	25.0	3.6	10.7	7.1	17.9
	68	7.4	5.9	17.6	8.8	23.5	5.9	11.8	1.5	11.8	14.7	13.2	14.7	16.2	11.8	8.8	1.5	1.5	7.4	38.2
	57	29.8	17.5	26.3	15.8	42.1	12.3	7.0	7.0	24.6	10.5	14.0	15.8	17.5	12.3	29.8	10.5	5.3	7.0	21.1
	55	16.4	14.5	14.5	20.0	41.8	16.4	20.0	3.6	23.6	12.7	5.5	23.6	29.1	12.7	16.4	7.3	5.5	5.5	25.5
	9	11.1	22.2	33.3	11.1	22.2	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	22.2	11.1	22.2	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	55.6
割付																				
	333	13.8	12.3	21.0	15.0	28.2	14.1	22.8	7.5	20.7	21.6	14.4	21.0	26.4	18.0	18.6	5.7	6.6	6.0	24.9
	332	17.8	12.7	19.9	16.9	31.0	10.8	22.9	8.1	20.8	16.3	13.6	19.6	21.7	13.9	21.4	7.5	4.5	4.8	22.9
	332	17.8	13.0	18.4	20.8	24.4	9.9	18.4	8.1	15.4	14.2	11.7	19.3	16.6	11.4	15.1	5.7	5.7	4.8	32.8
	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7

(表 3.6.3.7 教職員向けアンケート クロス集計:SDGs17 目標のうち、教育したことがある目標)

(4) 授業や学校活動で環境教育を行う際の課題

⑬ あなたが授業や学校活動で環境教育を行う際の課題は何ですか。(複数回答)

		n	取 り 上 げ る べ き 環 境 課 題 が 分 か ら な い	教 え 方 や 取 組 方 法 が 分 か ら な い	偏 適 切 な 教 材 や プ ロ グ ラ ム 等 の 準 じ い	カ リ キ ュ ラ ム マ ネ ジ メ ン ト が 難 し	外 部 講 師 探 し (人 材 が 少 な い)	学 習 の 場 所 ・ 見 学 で き る 施 設 等 が 少 な い	学 習 の 場 所 ・ 見 学 で き る 施 設 等 が 少 な い	専 門 的 な 内 容 を 相 談 で き る と こ ろ が な い	予 算 が 少 な い	授 業 時 間 の 確 保 が 難 し い	安 全 面 の 確 保 が 難 し い	い い 管 理 職 の 理 解 ・ 協 力 が 得 ら れ な い	実 施 し て み な け れ ば 分 か ら な い こ と が 多 い	そ の 他 :	特 に な し
全体		1000	7.4	13.9	27.9	27.7	17.9	16.8	13.2	20.7	42.9	6.2	3.0	14.5	1.3	19.4	
性別	男性	783	7.5	13.4	27.3	29.1	17.5	16.5	11.7	21.5	41.6	6.0	3.1	13.5	1.0	20.1	
	女性	217	6.9	15.7	30.0	22.6	19.4	18.0	18.4	18.0	47.5	6.9	2.8	18.0	2.3	17.1	
年代	20代	42	11.9	23.8	33.3	28.6	31.0	16.7	23.8	21.4	47.6	19.0	9.5	9.5	0.0	11.9	
	30代	162	11.7	21.0	32.7	30.9	22.8	19.8	18.5	21.0	48.1	8.0	3.1	14.8	0.0	17.9	
	40代	237	8.4	15.6	29.1	28.7	21.9	16.5	14.3	21.5	45.6	5.5	3.0	17.7	0.8	16.9	
	50代	354	5.4	9.3	23.7	27.4	14.1	14.4	10.7	19.2	37.3	4.2	2.3	15.5	2.5	21.5	
	60代	205	5.4	12.2	28.8	24.4	13.2	19.0	9.8	22.0	44.4	6.3	2.9	9.8	1.0	21.5	
性年代	男性 20代	14	14.3	21.4	50.0	28.6	21.4	21.4	21.4	14.3	50.0	14.3	7.1	0.0	0.0	7.1	
	男性 30代	94	14.9	21.3	34.0	40.4	26.6	17.0	17.0	19.1	45.7	11.7	4.3	16.0	0.0	13.8	
	男性 40代	180	7.8	15.6	27.2	28.9	22.8	16.7	13.3	21.7	47.2	5.0	3.3	15.0	1.1	18.3	
	男性 50代	299	6.0	9.7	22.7	28.8	13.7	14.4	10.4	21.7	34.8	4.0	2.3	14.7	1.3	22.4	
	男性 60代	196	5.6	12.8	29.6	24.5	13.8	18.9	9.2	22.4	44.4	6.6	3.1	10.2	1.0	21.9	
	女性 20代	28	10.7	25.0	25.0	28.6	35.7	14.3	25.0	25.0	46.4	21.4	10.7	14.3	0.0	14.3	
	女性 30代	68	7.4	20.6	30.9	17.6	17.6	23.5	20.6	23.5	51.5	2.9	1.5	13.2	0.0	23.5	
	女性 40代	57	10.5	15.8	35.1	28.1	19.3	15.8	17.5	21.1	40.4	7.0	1.8	26.3	0.0	12.3	
	女性 50代	55	1.8	7.3	29.1	20.0	16.4	14.5	12.7	5.5	50.9	5.5	1.8	20.0	9.1	16.4	
	女性 60代	9	0.0	0.0	11.1	22.2	0.0	22.2	22.2	11.1	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	
副付	小学校	333	6.3	13.8	30.3	33.0	23.4	18.9	13.8	21.9	47.7	8.4	2.7	15.0	1.8	15.3	
	中学校	332	7.2	13.3	28.9	26.2	18.4	17.5	13.3	20.5	40.1	4.2	2.4	14.5	0.3	19.0	
	高等学校・中等教育学校	332	8.7	14.5	24.4	23.8	11.7	13.9	12.3	19.6	41.0	5.7	3.6	13.9	1.8	23.5	
	その他	3	0.0	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	66.7	

(表 3.6.4.1 教職員向けアンケート クロス集計：環境教育を行う際の課題)

⑭ 新型コロナウイルス感染拡大により「新しい生活様式」を踏まえた環境教育を実施する上での新たな課題は何ですか。(複数回答)

		n	感染拡大防止策の徹底	対面の授業・プログラムが実施できない	オンラインの技術が不足している	オンラインでも実施可能な教材・プログラム	外部講師を呼ぶことができない	外部施設を利用することができない	環境教育に割ける時間がない	支援・助言をお願いできるところがない	地域との協力・連携が不足している	その他	特になし
全体		1000	39.5	23.1	31.0	24.0	23.6	19.8	25.7	7.8	11.4	0.9	19.0
性別	男性	783	39.1	22.3	30.5	24.0	22.9	18.6	25.7	7.7	12.1	0.8	19.5
	女性	217	41.0	25.8	32.7	24.0	26.3	24.0	25.8	8.3	8.8	1.4	17.1
年代	20代	42	40.5	28.6	35.7	19.0	33.3	21.4	28.6	0.0	4.8	0.0	14.3
	30代	162	35.8	22.2	38.9	24.7	26.5	21.6	30.2	11.1	14.8	0.6	23.5
	40代	237	40.1	23.2	28.3	27.0	25.7	24.5	26.6	8.4	11.8	0.8	16.5
	50代	354	39.8	22.3	28.8	21.8	22.9	18.6	22.9	6.5	10.5	0.8	19.2
	60代	205	41.0	23.9	30.7	24.9	18.0	14.6	25.4	8.3	11.2	1.5	19.0
性年代	男性 20代	14	28.6	21.4	42.9	14.3	28.6	28.6	28.6	0.0	7.1	0.0	14.3
	男性 30代	94	36.2	23.4	39.4	24.5	26.6	22.3	34.0	11.7	17.0	1.1	24.5
	男性 40代	180	34.4	22.2	24.4	23.9	25.0	22.8	27.8	7.8	12.2	0.6	19.4
	男性 50代	299	41.5	21.1	29.8	23.1	23.1	17.4	22.4	6.0	11.0	0.3	18.4
	男性 60代	196	41.8	24.0	32.1	26.0	18.4	14.3	24.5	8.7	11.7	1.5	19.4
	女性 20代	28	46.4	32.1	32.1	21.4	35.7	17.9	28.6	0.0	3.6	0.0	14.3
	女性 30代	68	35.3	20.6	38.2	25.0	26.5	20.6	25.0	10.3	11.8	0.0	22.1
	女性 40代	57	57.9	26.3	40.4	36.8	28.1	29.8	22.8	10.5	10.5	1.8	7.0
	女性 50代	55	30.9	29.1	23.6	14.5	21.8	25.5	25.5	9.1	7.3	3.6	23.6
	女性 60代	9	22.2	22.2	0.0	0.0	11.1	22.2	44.4	0.0	0.0	0.0	11.1
割付	小学校	333	43.2	28.5	28.8	23.7	30.9	28.5	24.9	9.3	12.0	1.5	16.2
	中学校	332	40.1	22.9	34.6	25.9	21.4	15.7	28.6	7.2	10.2	0.6	16.0
	高等学校・中等教育学校	332	35.2	17.8	29.5	22.3	18.4	15.4	23.5	6.9	12.0	0.6	24.4
	その他	3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7

(表 3. 6. 4. 2 教職員向けアンケート クロス集計:「新しい生活様式」を踏まえた上での課題)

(5) ESD（持続可能な開発のための教育）の位置付け

⑮ あなたは新学習指導要領にESD（持続可能な開発のための教育）が位置付けられていることをご存じですか。

		n	れ読指 たん導 こで要 と、領 が授の あ業該 るに当 取場 り所 入を	読指 ん導 だ要 この領 が該 あ当 る場 所 を	んは位 と知置 読っづ んてけ だいら こるれ とがて は、い なきる いちの	知 ら な か っ た
全体		1000	12.1	22.4	39.2	26.3
性別	男性	783	12.3	23.6	40.6	23.5
	女性	217	11.5	18.0	34.1	36.4
年代	20代	42	9.5	38.1	23.8	28.6
	30代	162	16.7	15.4	35.8	32.1
	40代	237	13.9	21.5	37.6	27.0
	50代	354	11.3	23.2	40.7	24.9
	60代	205	8.3	24.4	44.4	22.9
性年代	男性 20代	14	7.1	50.0	21.4	21.4
	男性 30代	94	19.1	18.1	37.2	25.5
	男性 40代	180	16.1	22.2	38.3	23.3
	男性 50代	299	10.7	23.7	41.5	24.1
	男性 60代	196	8.2	25.5	44.4	21.9
	女性 20代	28	10.7	32.1	25.0	32.1
	女性 30代	68	13.2	11.8	33.8	41.2
	女性 40代	57	7.0	19.3	35.1	38.6
	女性 50代	55	14.5	20.0	36.4	29.1
女性 60代	9	11.1	0.0	44.4	44.4	
割付	小学校	333	16.2	21.3	38.7	23.7
	中学校	332	12.3	25.9	38.9	22.9
	高等学校・中等教育学校	332	7.8	20.2	39.8	32.2
	その他	3	0.0	0.0	66.7	33.3

(表 3.6.5.1 教職員向けアンケート クロス集計：ESD の認知)

3-7 意欲とのクロス集計結果

環境教育に対する意欲 (②) と各設問についてクロス集計を行った。

なお、表中の■は全体割合に対し+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下を表している。

(1) 属性

① 現在お勤めの教育課程を教えてください。

		n	小学校(学級担任を 持っている)	小学校(学級担任を 持っていない)	中学校(理科)	中学校(社会)	中学校(技術・家庭)	中学校(保健体育)	中学校(上記以外の教 科)	高等学校・中等教育学 校(理科)	高等学校・中等教育学 校(社会)	高等学校・中等教育学 校(技術・家庭)	高等学校・中等教育学 校(保健体育)	高等学校・中等教育学 校(上記以外の教科)	それ以外の学校	現在は教員ではない
全体		1000	160	173	60	33	23	26	190	46	50	7	28	201	3	0
		100.0	16.0	17.3	6.0	3.3	2.3	2.6	19.0	4.6	5.0	0.7	2.8	20.1	0.3	0.0
Q1	意欲は高い	120	21	24	8	4	6	0	19	7	6	1	2	22	0	0
		100.0	17.5	20.0	6.7	3.3	5.0	0.0	15.8	5.8	5.0	0.8	1.7	18.3	0.0	0.0
	どちらかといえば意欲は高い	415	61	71	32	22	14	11	78	19	26	4	8	68	1	0
		100.0	14.7	17.1	7.7	5.3	3.4	2.7	18.8	4.6	6.3	1.0	1.9	16.4	0.2	0.0
	どちらかといえば意欲は低い	246	43	48	13	4	1	8	42	14	7	0	10	54	2	0
		100.0	17.5	19.5	5.3	1.6	0.4	3.3	17.1	5.7	2.8	0.0	4.1	22.0	0.8	0.0
意欲は低い	98	13	12	5	1	1	1	19	2	9	1	1	33	0	0	
	100.0	13.3	12.2	5.1	1.0	1.0	1.0	19.4	2.0	9.2	1.0	1.0	33.7	0.0	0.0	
分からない	121	22	18	2	2	1	6	32	4	2	1	7	24	0	0	
	100.0	18.2	14.9	1.7	1.7	0.8	5.0	26.4	3.3	1.7	0.8	5.8	19.8	0.0	0.0	

(表 3.7.1.1 教職員向けアンケート クロス集計：教育課程)

(2) ESD や環境教育に対する意欲・取り組みについて

③ ESD（持続可能な開発のための教育）の視点を踏まえた上で、どのような内容の環境教育を行っていますか。（複数回答）

		n	森林破壊や海洋汚染など地球環境に関すること	身近な地域の自然環境に関すること	生命の尊さや自然の大切さに関すること	絶滅のおそれのある野生生物に関すること	地域の特産品に関すること	動植物や自然に触れ親しむこと	動植物の飼育・栽培や農畜産物の生産に関すること	食料や水、鉱物などの有限な資源の持続可能性に関すること	ゴミの分別・紙のリサイクルなど、ゴミや資源循環に関すること	レジ袋や不要なものをもらわない等のゴミの発生を抑制すること	生ごみや落ち葉などから堆肥をつくること	地球温暖化やヒートアイランドなどエネルギー問題に関すること	大気汚染や酸性雨に関すること	太陽光・風力等、新しいエネルギーの開発・利用に関すること	節水や節電に関すること
全体		1000	319	379	411	126	168	179	106	308	479	257	107	297	273	316	305
		100.0	31.9	37.9	41.1	12.6	16.8	17.9	10.6	30.8	47.9	25.7	10.7	29.7	27.3	31.6	30.5
Q1	意欲は高い	120	75	70	70	31	32	32	23	73	78	56	29	64	52	60	57
		100.0	62.5	58.3	58.3	25.8	26.7	26.7	19.2	60.8	65.0	46.7	24.2	53.3	43.3	50.0	47.5
	どちらかといえば意欲は高い	415	161	205	205	66	83	90	54	165	241	121	53	155	134	171	158
		100.0	38.8	49.4	49.4	15.9	20.0	21.7	13.0	39.8	58.1	29.2	12.8	37.3	32.3	41.2	38.1
	どちらかといえば意欲は低い	246	60	71	86	21	36	34	18	51	106	52	13	51	58	57	54
	100.0	24.4	28.9	35.0	8.5	14.6	13.8	7.3	20.7	43.1	21.1	5.3	20.7	23.6	23.2	22.0	
意欲は低い	98	11	11	21	6	8	10	4	9	23	13	2	14	14	11	10	
	100.0	11.2	11.2	21.4	6.1	8.2	10.2	4.1	9.2	23.5	13.3	2.0	14.3	14.3	11.2	10.2	
分からない	121	12	22	29	2	9	13	7	10	31	15	10	13	15	17	26	
	100.0	9.9	18.2	24.0	1.7	7.4	10.7	5.8	8.3	25.6	12.4	8.3	10.7	12.4	14.0	21.5	

		n	外国文化や先住民生活の多様性を尊重すること	環境が心身の健康に与える影響に関すること	環境に配慮した生活の仕方に関すること	地域の産業や文化の継承・発展に関すること	日常の身近な暮らしが世界とつながっていること	海外の環境問題に関すること	環境、経済、社会のつながりに関する	環境教育に関する教材を担当していない	分からない
全体		1000	259	156	199	158	194	115	215	183	49
		100.0	25.9	15.6	19.9	15.8	19.4	11.5	21.5	18.3	4.9
Q1	意欲は高い	120	56	38	47	44	47	34	59	4	0
		100.0	46.7	31.7	39.2	36.7	39.2	28.3	49.2	3.3	0.0
	どちらかといえば意欲は高い	415	131	82	104	76	100	65	110	37	6
		100.0	31.6	19.8	25.1	18.3	24.1	15.7	26.5	8.9	1.4
	どちらかといえば意欲は低い	246	38	17	32	22	31	11	28	56	17
	100.0	15.4	6.9	13.0	8.9	12.6	4.5	11.4	22.8	6.9	
意欲は低い	98	16	7	6	8	9	3	9	46	5	
	100.0	16.3	7.1	6.1	8.2	5.1	3.1	9.2	46.9	5.1	
分からない	121	18	12	10	8	11	2	9	40	21	
	100.0	14.9	9.9	8.3	6.6	9.1	1.7	7.4	33.1	17.4	

(表 3.7.2.1 教職員向けアンケート クロス集計：ESD を踏まえた上での環境教育)

④ あなたが環境教育を行うに当たり活用しているものは何ですか。(複数回答)

		n	教科書	副読本	環境関連の書籍等	新聞記事	DVD等の映像資料	インターネット上の映像資料	インターネットでの検索結果	学校内のビオトープ	地域の自然環境	地域の公民館や図書館	会館や博物館や科学館等の施設	ごみ焼却施設、廃棄物処理場、リサイクル施設等	再生可能エネルギー発電施設(風力、太陽光、バイオマス等)	企業や工場	大学・研究機関の専門家による出張講座
全体		1000	508	284	167	309	147	395	281	41	151	57	75	98	57	48	48
		100.0	50.8	28.4	16.7	30.9	14.7	39.5	28.1	4.1	15.1	5.7	7.5	9.8	5.7	4.8	4.8
Q1	意欲は高い	120	78	52	46	61	40	71	44	13	36	17	26	21	23	23	19
		100.0	65.0	43.3	38.3	50.8	33.3	59.2	36.7	10.8	30.0	14.2	21.7	17.5	19.2	19.2	15.8
	どちらかといえば意欲は高い	415	230	132	79	159	68	204	139	17	74	26	30	41	26	19	26
		100.0	55.4	31.8	19.0	38.3	16.4	49.2	33.5	4.1	17.8	6.3	7.2	9.9	6.3	4.6	6.3
	どちらかといえば意欲は低い	246	121	65	31	55	26	76	65	5	26	9	12	25	5	4	2
		100.0	49.2	26.4	12.6	22.4	10.6	30.9	26.4	2.0	10.6	3.7	4.9	10.2	2.0	1.6	0.8
意欲は低い	98	37	16	4	14	5	23	14	1	4	3	4	3	1	0	1	
	100.0	37.8	16.3	4.1	14.3	5.1	23.5	14.3	1.0	4.1	3.1	4.1	3.1	1.0	0.0	1.0	
分からない	121	42	19	7	20	8	21	19	5	11	2	3	8	2	2	0	
	100.0	42.0	15.7	5.8	16.5	6.6	17.4	15.7	4.1	9.1	1.7	2.5	6.6	1.7	1.7	0.0	

		n	チャーター地域のゲストテイカーへの聞き取り	その他:	特になし
全体		1000	77	9	195
		100.0	7.7	0.9	19.5
Q1	意欲は高い	120	28	2	4
		100.0	23.3	1.7	3.3
	どちらかといえば意欲は高い	415	30	5	35
		100.0	7.2	1.2	8.4
	どちらかといえば意欲は低い	246	11	0	60
		100.0	4.5	0.0	24.4
意欲は低い	98	2	0	44	
	100.0	2.0	0.0	44.9	
分からない	121	6	2	52	
	100.0	5.0	1.7	43.0	

(表 3.7.2.2 教職員向けアンケート クロス集計：環境教育を行うに当たり活用しているもの)

⑤ 環境教育に取り組む際に地域・NPO・企業等との協力・連携はありますか。

		n	行 つ つ て い る	継 続 的 に 協 力 ・ 連 携 し て 環 境 ・ 教 育 を	町 内 会 や 地 域 住 民 ・ N P O ・ 企 業 等 と	教 育 を 行 っ て い る	単 発 的 で は あ る が 協 力 ・ 連 携 し て 環 境 と	町 内 会 や 地 域 住 民 ・ N P O ・ 企 業 等 と	ら 町 内 会 や 地 域 住 民 ・ N P O ・ 企 業 等 か	く 具 体 的 な 協 力 ・ 連 携 は な い が 理 解 し て	協 力 ・ 連 携 は な い	分 か ら な い
全体		1000 100.0	76 7.6	121 12.1	47 4.7	142 14.2	472 47.2	142 14.2				
Q1	意欲は高い	120 100.0	27 22.5	28 23.3	8 6.7	24 20.0	30 25.0	3 2.5				
	どちらかといえば意欲は高い	415 100.0	29 7.0	61 14.7	30 7.2	76 18.3	183 44.1	36 8.7				
	どちらかといえば意欲は低い	246 100.0	12 4.9	23 9.3	6 2.4	31 12.6	136 55.3	38 15.4				
	意欲は低い	98 100.0	3 3.1	5 5.1	1 1.0	5 5.1	68 69.4	16 16.3				
	分からない	121 100.0	5 4.1	4 3.3	2 1.7	6 5.0	55 45.5	49 40.5				

(表 3.7.2.3 教職員向けアンケート クロス集計：各団体との協力・連携)

⑥ 環境教育のどのような段階で地域・NPO・企業等と協力・連携する機会がありますか。(複数回答)

		n	環境教育の企画	環境教育の実施	環境教育の実施後の評価	分からない
全体		244 100.0	104 42.6	190 77.9	38 15.6	14 5.7
Q1	意欲は高い	63 100.0	36 57.1	52 82.5	17 27.0	0 0.0
	どちらかといえば意欲は高い	120 100.0	45 37.5	93 77.5	14 11.7	8 6.7
	どちらかといえば意欲は低い	41 100.0	15 36.6	31 75.6	5 12.2	3 7.3
	意欲は低い	9 100.0	4 44.4	5 55.6	0 0.0	2 22.2
	分からない	11 100.0	4 36.4	9 81.8	2 18.2	1 9.1

(表 3.7.2.4 教職員向けアンケート クロス集計：協力・連携の段階)

⑦ 環境教育に取り組む際に、地域・NPO・企業等と協力・連携するための指針やガイドラインはありますか

		n	環境に関する指針やガイドラインがある	環境に限り定めた指針やガイドラインはない	分からない	
全体		1000 100.0	39 3.9	115 11.5	583 58.3	263 26.3
Q1	意欲は高い	120 100.0	14 11.7	28 23.3	64 53.3	14 11.7
	どちらかといえば意欲は高い	415 100.0	16 3.9	56 13.5	257 61.9	86 20.7
	どちらかといえば意欲は低い	246 100.0	5 2.0	24 9.8	150 61.0	67 27.2
	意欲は低い	98 100.0	2 2.0	4 4.1	61 62.2	31 31.6
	分からない	121 100.0	2 1.7	3 2.5	51 42.1	65 53.7

(表 3.7.2.5 教職員向けアンケート クロス集計：指針やガイドライン)

⑧ 地域・NPO・企業等と協力・連携して良かった点は何ですか。(複数回答)

		n	が N 地 持 P 域 て O 住 た 等 民 の 企 つ 業 な ・ が ー り ー	学 び の 質 が 高 く な っ た	た 準 備 の 時 間 が 短 縮 で き	特 に な し	分 か ら な い
全体		244 100.0	126 51.6	170 69.7	39 16.0	7 2.9	9 3.7
Q1	意欲は高い	63 100.0	39 61.9	47 74.6	13 20.6	2 3.2	1 1.6
	どちらかといえば意欲は高い	120 100.0	61 50.8	86 71.7	16 13.3	2 1.7	3 2.5
	どちらかといえば意欲は低い	41 100.0	17 41.5	25 61.0	9 22.0	3 7.3	2 4.9
	意欲は低い	9 100.0	4 44.4	5 55.6	1 11.1	0 0.0	1 11.1
	分からない	11 100.0	5 45.5	7 63.6	0 0.0	0 0.0	2 18.2

(表 3.7.2.6 教職員向けアンケート クロス集計：協力・連携の利点)

⑨ 地域・NPO・企業等と協力・連携してデメリットはありましたか。(複数回答)

。

		n	か 調 っ 整 た に 時 間 ・ 手 間 が か	ン た 意 が 、 思 と コ 疎 り ミ 通 に ユ が く ニ 難 か ケ し っ ー か た シ っ ヨ	ズ 目 レ が や が あ 期 っ た 待 す る こ と に	か た 予 か 、 算 っ 想 が た 像 確 以 保 上 で に き 費 な 用 か が っ	な 満 か 足 っ し た た 結 果 が 得 ら れ	特 に な し	分 か ら な い
全体		244 100.0	116 47.5	57 23.4	61 25.0	26 10.7	9 3.7	57 23.4	9 3.7
Q1	意欲は高い	63 100.0	27 42.9	17 27.0	17 27.0	8 12.7	4 6.3	17 27.0	1 1.6
	どちらかといえば意欲は高い	120 100.0	60 50.0	27 22.5	32 26.7	14 11.7	3 2.5	24 20.0	4 3.3
	どちらかといえば意欲は低い	41 100.0	20 48.8	9 22.0	10 24.4	2 4.9	2 4.9	11 26.8	1 2.4
	意欲は低い	9 100.0	5 55.6	2 22.2	1 11.1	2 22.2	0 0.0	2 22.2	0 0.0
	分からない	11 100.0	4 36.4	2 18.2	1 9.1	0 0.0	0 0.0	3 27.3	3 27.3

(表 3.7.2.7 教職員向けアンケート クロス集計：協力・連携のデメリット)

(3) 環境教育に対する、学校、保護者、地域への効果や影響（昔(おおむね5年前)と現在を比べて)

⑩ あなたは昔(おおむね5年前)と比べて、環境教育の実施により学校、保護者、地域に対し、効果や影響はあったと思いますか。

■学校（児童・生徒）

		n	あった 大きな 効果・ 影響が	少し 効果・ 影響が あつ	あまり 効果・ 影響は な	全く 効果・ 影響は ない	わから ない・ 把握し て
全体		1000 100.0	113 11.3	446 44.6	146 14.6	29 2.9	266 26.6
Q1	意欲は高い	120 100.0	45 37.5	51 42.5	15 12.5	1 0.8	8 6.7
	どちらかといえば意欲は高い	415 100.0	52 12.5	243 58.6	39 9.4	6 1.4	75 18.1
	どちらかといえば意欲は低い	246 100.0	10 4.1	99 40.2	65 26.4	6 2.4	66 26.8
	意欲は低い	98 100.0	5 5.1	21 21.4	16 16.3	14 14.3	42 42.9
	分からない	121 100.0	1 0.8	32 26.4	11 9.1	2 1.7	75 62.0

(表 3.7.3.1 教職員向けアンケート クロス集計：環境教育の児童・生徒への効果・影響)

■保護者

		n	あった 大きな 効果・ 影響が	少し 効果・ 影響が あつ	あまり 効果・ 影響は な	全く 効果・ 影響は ない	わから ない・ 把握し て
全体		1000 100.0	24 2.4	251 25.1	288 28.8	55 5.5	382 38.2
Q1	意欲は高い	120 100.0	13 10.8	50 41.7	37 30.8	2 1.7	18 15.0
	どちらかといえば意欲は高い	415 100.0	8 1.9	130 31.3	123 29.6	18 4.3	136 32.8
	どちらかといえば意欲は低い	246 100.0	3 1.2	51 20.7	85 34.6	13 5.3	94 38.2
	意欲は低い	98 100.0	0 0.0	7 7.1	24 24.5	20 20.4	47 48.0
	分からない	121 100.0	0 0.0	13 10.7	19 15.7	2 1.7	87 71.9

(表 3.7.3.2 教職員向けアンケート クロス集計：環境教育の保護者への効果・影響)

■地域（住民等）

		n	あ 大 つ た な 効 果 ・ 影 響 が	た 少 し 効 果 ・ 影 響 が あ っ た	い あ ま り 効 果 ・ 影 響 は な い	全 く 効 果 ・ 影 響 は な い	い わ か ら な い ・ 把 握 し て
全体		1000 100.0	38 3.8	234 23.4	261 26.1	50 5.0	417 41.7
Q1	意欲は高い	120 100.0	20 16.7	44 36.7	29 24.2	3 2.5	24 20.0
	どちらかといえば意欲は高い	415 100.0	15 3.6	116 28.0	114 27.5	18 4.3	152 36.6
	どちらかといえば意欲は低い	246 100.0	2 0.8	50 20.3	84 34.1	8 3.3	102 41.5
	意欲は低い	98 100.0	0 0.0	8 8.2	20 20.4	19 19.4	51 52.0
	分からない	121 100.0	1 0.8	16 13.2	14 11.6	2 1.7	88 72.7

(表 3.7.3.3 教職員向けアンケート クロス集計：環境教育の地域住民等への効果・影響)

■地域（企業）

		n	あ 大 つ た な 効 果 ・ 影 響 が	た 少 し 効 果 ・ 影 響 が あ っ た	い あ ま り 効 果 ・ 影 響 は な い	全 く 効 果 ・ 影 響 は な い	い わ か ら な い ・ 把 握 し て
全体		1000 100.0	29 2.9	215 21.5	258 25.8	57 5.7	441 44.1
Q1	意欲は高い	120 100.0	19 15.8	41 34.2	34 28.3	4 3.3	22 18.3
	どちらかといえば意欲は高い	415 100.0	8 1.9	113 27.2	108 26.0	20 4.8	166 40.0
	どちらかといえば意欲は低い	246 100.0	2 0.8	38 15.4	86 35.0	11 4.5	109 44.3
	意欲は低い	98 100.0	0 0.0	8 8.2	18 18.4	19 19.4	53 54.1
	分からない	121 100.0	0 0.0	15 12.4	12 9.9	3 2.5	91 75.2

(表 3.7.3.4 教職員向けアンケート クロス集計：環境教育の企業への効果・影響)

■地域（行政）

		n	あ っ た 大 き な 効 果 ・ 影 響 が	た 少 し 効 果 ・ 影 響 が あ っ た	い あ ま り 効 果 ・ 影 響 は な い	全 く 効 果 ・ 影 響 は な い	い わ か ら な い ・ 把 握 し て い な い
全体		1000 100.0	33 3.3	224 22.4	257 25.7	59 5.9	427 42.7
Q1	意欲は高い	120 100.0	21 17.5	42 35.0	29 24.2	5 4.2	23 19.2
	どちらかといえば意欲は高い	415 100.0	6 1.4	117 28.2	113 27.2	22 5.3	157 37.8
	どちらかといえば意欲は低い	246 100.0	4 1.6	41 16.7	84 34.1	11 4.5	106 43.1
	意欲は低い	98 100.0	1 1.0	10 10.2	18 18.4	18 18.4	51 52.0
	分からない	121 100.0	1 0.8	14 11.6	13 10.7	3 2.5	90 74.4

(表 3.7.3.5 教職員向けアンケート クロス集計：環境教育の行政への効果・影響)

⑪ 【⑩で1学校（児童・生徒）、2保護者に「大きな効果・影響があった」「少し効果・影響があった」と回答した方】

それが感じられたのはどのようなことからでしょうか。（複数回答）

		n	自然・生命に関する理解が進んだ	うみの減量化（分別がきちんとして）	ゴミ・資源に関する理解が進んだ（ごみが多くなつた）	動が多くなつた（節電等の省エネに関する理解）	工がエネルギー・地球温暖化に関する理解	や個性が多様性を尊重した社会の	とも生きる社会（文化・生活の）	内容が増えた	学校への要望に、環境教育に関連する	その他：
全体		568 100.0	264 46.5	347 61.1	255 44.9	225 39.6	63 11.1	1 0.2				
Q1	意欲は高い	99 100.0	63 63.6	68 68.7	53 53.5	47 47.5	19 19.2	0 0.0				
	どちらかといえば意欲は高い	299 100.0	137 45.8	186 62.2	146 48.8	120 40.1	27 9.0	0 0.0				
	どちらかといえば意欲は低い	111 100.0	42 37.8	68 61.3	36 32.4	37 33.3	12 10.8	0 0.0				
	意欲は低い	26 100.0	8 30.8	11 42.3	8 30.8	11 42.3	1 3.8	0 0.0				
	分からない	33 100.0	14 42.4	14 42.4	12 36.4	10 30.3	4 12.1	1 3.0				

(表 3.7.3.6 教職員向けアンケート クロス集計：学校・保護者への効果・影響があった項目)

⑫ 「持続可能な開発目標(SDGs)」には以下のような17の目標が設定されています。これらの目標のうち、どの目標についてあなたご自身は教育を行ったことがありますか。(複数回答)



	n	貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	
全体	1000	16.4	12.6	19.7	17.5	27.8	11.6	21.3	8.2	7.8	18.9	17.4	13.3	19.9	21.6	14.5	
Q1	意欲は高い	120	50	40	49	43	55	32	51	25	27	42	45	46	48	49	39
	100.0	41.7	33.3	40.8	35.8	45.8	26.7	42.5	20.8	22.5	35.0	37.5	38.3	40.0	40.8	32.5	
	415	7.8	5.6	9.7	9.8	14.8	5.9	11.0	3.6	2.7	9.8	8.4	5.7	10.2	10.9	6.9	
	100.0	18.8	13.5	23.4	23.6	35.7	14.2	26.5	8.7	6.5	23.6	20.2	13.7	24.6	26.3	16.6	
	246	21	20	25	17	41	16	35	13	17	29	33	20	32	37	24	
100.0	8.5	8.1	10.2	6.9	16.7	6.5	14.2	5.3	6.9	11.8	13.4	8.1	13.0	15.0	9.8		
意欲は低い	98	7	5	9	9	10	5	9	3	4	10	4	2	6	10	6	
100.0	7.1	5.1	9.2	9.2	10.2	5.1	9.2	3.1	4.1	10.2	4.1	2.0	6.1	10.2	6.1		
121	8	5	17	8	24	4	8	5	3	10	8	8	11	11	7		
100.0	6.6	4.1	14.0	6.6	19.8	3.3	6.6	4.1	2.5	8.3	6.6	6.6	9.1	9.1	5.8		

	n	人々と公正をすべての目標で達成しよう	パートナーシップで目標を達成しよう	な1がり1・7関係の各目標について	分からない	行ったことがない
全体	1000	18.3	6.3	5.6	5.2	27.0
Q1	意欲は高い	120	42	25	23	1
	100.0	35.0	20.8	19.2	0.8	10.0
	415	9.3	2.6	2.0	1.3	5.3
	100.0	22.4	6.3	4.8	3.1	12.8
	246	32	8	7	17	90
100.0	13.0	3.3	2.8	6.9	36.6	
意欲は低い	98	8	1	3	3	61
100.0	8.2	1.0	3.1	3.1	62.2	
121	8	3	3	18	54	
100.0	6.6	2.5	2.5	14.9	44.6	

(表 3.7.3.7 教職員向けアンケート クロス集計：SDGs17 目標のうち、教育したことのある項目)

(4) 授業や学校活動で環境教育を行う際の課題

⑬ あなたが授業や学校活動で環境教育を行う際の課題は何ですか。(複数回答)

		n	取り上げ るべき環 境課題が 分か らない	教え方 や取組 方法が 分か らない	備 が でき ない 適切 な材 やプ ログ ラム 等 の準	し い カリ キュ ラム マ ネジ メン トが 難	外 部 講 師 探 し (人 材が 少 ない)	少 な い 学 習の 場 所・ 見 学 で き る 施 設 等 が	専 門 的 な 内 容 を 相 談 で き る と こ ろ が 少 ない	予 算 が 少 ない	授 業 時 間 の 確 保 が 難 しい	安 全 面 の 確 保 が 難 しい	い 管理 職の 理 解・ 協 力 が 得 ら れ な い	実 施 し て み な け れ ば 分 か ら な い こ と が 多 い	そ の 他 :	特 に な し	未 回 答
全体		1000 100.0	74 7.4	139 13.9	279 27.9	277 27.7	179 17.9	168 16.8	132 13.2	207 20.7	429 42.9	62 6.2	30 3.0	145 14.5	13 1.3	194 19.4	0 0.0
Q1	意欲は高い	120 100.0	7 5.8	12 10.0	24 20.0	35 29.2	29 24.2	25 20.8	21 17.5	35 29.2	58 48.3	14 11.7	7 5.8	13 10.8	1 0.8	13 10.8	0 0.0
	どちらかといえば意欲は高い	415 100.0	25 6.0	52 12.5	138 33.3	128 30.8	87 21.0	81 19.5	57 13.7	104 25.1	194 46.7	25 6.0	11 2.7	60 14.5	5 1.2	52 12.5	0 0.0
	どちらかといえば意欲は低い	246 100.0	16 6.5	36 14.6	69 28.0	71 28.9	33 13.4	37 15.0	31 12.6	42 17.1	108 43.9	10 4.1	6 2.4	34 13.8	4 1.6	52 21.1	0 0.0
	意欲は低い	98 100.0	18 18.4	26 26.5	23 23.5	26 26.5	16 16.3	13 13.3	10 10.2	13 13.3	33 33.7	9 9.2	5 5.1	14 14.3	1 1.0	29 29.6	0 0.0
	分からない	121 100.0	8 6.6	13 10.7	25 20.7	17 14.0	14 11.6	12 9.9	13 10.7	13 10.7	36 29.8	4 3.3	1 0.8	24 19.8	2 1.7	48 39.7	0 0.0

(表 3.7.4.1 教職員向けアンケート クロス集計:環境教育を行う際の課題)

⑭ 新型コロナウイルス感染拡大により「新しい生活様式」を踏まえた環境教育を実施する上での新たな課題は何ですか。(複数回答)

		n	感 染 拡 大 防 止 策 の 徹 底	ム 対 面 の 授 業 で き な い プ ロ グ ラ ム	足 オ ン ラ イ ン の 技 術 が 不 足	が 能 オ ン ラ イ ン で も 施 可 能 な 材 料 が 不 足	で 外 部 講 師 を 呼 ぶ こ と が 難 しい	と 外 部 講 師 を 利 用 す る こ と が 難 しい	が 環 境 教 育 に 割 ける 時 間 が 少 ない	支 援 と こ ろ が お 願 い で な い	不 地 域 と の 協 力 ・ 連 携 が 不 足	そ の 他 :	特 に な し	未 回 答
全体		1000 100.0	395 39.5	231 23.1	310 31.0	240 24.0	236 23.6	198 19.8	257 25.7	78 7.8	114 11.4	9 0.9	190 19.0	0 0.0
Q1	意欲は高い	120 100.0	50 41.7	41 34.2	49 40.8	41 34.2	40 33.3	35 29.2	37 30.8	15 12.5	20 16.7	0 0.0	12 10.0	0 0.0
	どちらかといえば意欲は高い	415 100.0	190 45.8	106 25.5	133 32.0	115 27.7	123 29.6	95 22.9	103 24.8	32 7.7	56 13.5	3 0.7	48 11.6	0 0.0
	どちらかといえば意欲は低い	246 100.0	87 35.4	51 20.7	68 27.6	46 18.7	41 16.7	36 14.6	67 27.2	19 7.7	20 8.1	4 1.6	53 21.5	0 0.0
	意欲は低い	98 100.0	28 28.6	14 14.3	26 26.5	18 18.4	12 12.2	11 11.2	23 23.5	5 5.1	9 9.2	0 0.0	35 35.7	0 0.0
	分からない	121 100.0	40 33.1	19 15.7	34 28.1	20 16.5	20 16.5	21 17.4	27 22.3	7 5.8	9 7.4	2 1.7	42 34.7	0 0.0

(表 3.7.4.2 教職員向けアンケート クロス集計:「新しい生活様式」を踏まえた上での課題)

(5) ESD（持続可能な開発のための教育）の位置付け

⑮ あなたは新学習指導要領に ESD（持続可能な開発のための教育）が位置付けられていることをご存じですか。

		n	読ん たこ とが あ る 取 り 入	指 導 要 領 の 該 当 取 場 所 を	ん と 読 ん だ こ と が あ る 取 場 所 を	ん は 知 つ づ け ら れ て い る こ と が あ る 取 場 所 を	知 ら な か っ た	未 回 答
全体		1000 100.0	121 12.1	224 22.4	392 39.2	263 26.3	0 0.0	
Q1	意欲は高い	120 100.0	51 42.5	36 30.0	20 16.7	13 10.8	0 0.0	
	どちらかといえば意欲は高い	415 100.0	56 13.5	133 32.0	169 40.7	57 13.7	0 0.0	
	どちらかといえば意欲は低い	246 100.0	9 3.7	36 14.6	128 52.0	73 29.7	0 0.0	
	意欲は低い	98 100.0	2 2.0	8 8.2	32 32.7	56 57.1	0 0.0	
	分からない	121 100.0	3 2.5	11 9.1	43 35.5	64 52.9	0 0.0	

(表 3.7.5.1 教職員向けアンケート クロス集計：新学習指導要領内の ESD の認知)